

た げん ご せい かつ じょう ほう てい きょう りゅう つう
多言語生活情報の提供・流通

げん じょう
～その現状とこれから～

へんしゅう ち い き た げん ご じょう ほう りゅう つう ちょう さ けん ぎゅう
編集 地域における多言語情報の流通にかかわる調査・研究プロジェクト

はっこう ざいだん ほうじん か な がわ けん こく さい こう りゅう きょう かい
発行 財団法人 神奈川県国際交流協会

はじめに

神奈川県が設置している「NGO かながわ国際協力会議」、「外国籍県民かながわ会議」の協議や、同県が実施した「外国籍住民生活実態調査」報告書（2001年）の中で、外国籍住民にとって必要な多言語情報が当事者の手に届きにくい状況がある、との指摘がなされてきた。

神奈川県国際交流協会では、自治体が発行する多言語資料の流通・活用状況を把握し改善策を検討するため、行政機関、外国籍県民、NGO、国際交流関係団体、学識経験者を構成メンバーとする研究会を設置し、外国籍県民の生活と関わりが深い、国際交流・社会教育施設、並びに、学校・教育委員会に対してアンケート調査を実施した。

本報告書は、上記アンケート調査と関係機関へのヒアリング記録を収録するとともに、調査結果から見えてきた今後の課題と展望について、「提言」という形で提案するものである。本報告書が、多言語情報の提供・流通の今後の取り組みに少しでも役立つことを願っている。

末尾ながら、神奈川県立図書館、神奈川県公民館連絡協議会など、関係各位には、調査に際して多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

2005年3月

財団法人 神奈川県国際交流協会

目次

| | | | |
|------|--|-------------------------------|-------|
| ● | じよ ちょうさ がいよう | 序 調査の概要 | |
| だい | せつ | しゃかいきょういくしせつとう | 7 |
| 第1節 | | 社会教育施設等 | |
| だい | せつ | きょういくいいんかい がっこう | 13 |
| 第2節 | | 教育委員会・学校 | |
| ● | だい しょう | しゃかいきょういくしせつとうちょうさけつか | |
| 第1章 | | 社会教育施設等調査結果 | |
| 第1節 | ちょうさけつか がいよう | 調査結果の概要 | 23 |
| 第2節 | ちょうさけつか | 調査結果 | 28 |
| | 1. たげん ごせいかつじょうほう | 多言語生活情報 | 28 |
| | 2. がいこくごとしよ しょう りようじょうきょう | 外国語図書の所蔵・利用状況 | 57 |
| | 3. りようしや | 利用者サービス | 64 |
| | 4. しょくいん | 職員について | 84 |
| | 5. たきかん そしき れんけいじょうきょう | 他機関・組織との連携状況 | 87 |
| | 6. がいこくじん たい じょうほうていきょう かん かだい | 外国人に対する情報提供に関する課題 | 94 |
| だい | せつ | 第3節 ヒアリング | 103 |
| ● | だい しょう | きょういくいいんかい がっこうちょうさけつか | |
| 第2章 | | 教育委員会・学校調査結果 | |
| 第1節 | ちょうさけつか がいよう | 調査結果の概要 | 113 |
| 第2節 | ちょうさけつか | 調査結果 | 116 |
| | 1. きょういくいいんかい | 教育委員会 | 116 |
| | 2. がっこう | 学校 | 130 |
| だい | せつ | 第3節 ヒアリング | 154 |
| ● | だい しょう | ていげん こうさつ | |
| 第3章 | | 提言と考察 | |
| だい | せつ | ていげん | 167 |
| 第1節 | | 提言 | |
| だい | せつ | こうさつ | 172 |
| 第2節 | | 考察 | |
| | こうてきかん たげんご てんかい じゅうじつ む わたど いちろう | 公的機関における多言語サービスの展開と充実に向けて | 渡戸 一郎 |
| | しゃかいきょういくしせつとう たげんご てんかい じゅうじつ む こばやし たく | 社会教育施設等における多言語サービスの展開と充実に向けて | 小林 卓 |
| ● | だい しょう | しりょうしゅう | |
| 第4章 | | 資料集 | |
| しりょう | かわさきし がいこくじんしみん こうほう ありかた かん かんがえかた | 資料1 川崎市「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」 | 181 |
| しりょう | がいこくじんとうろくしゃすう すい | 資料2 かながわの外国人登録者数の推移 | 183 |
| しりょう | ねんとかながわけんこうりつがっこうがいこくせまじどう せいとすう | 資料3 2004年度神奈川県公立学校外国籍児童・生徒数 | 184 |
| しりょう | ちいまい たげん ごしりょうかんけいだんたいとうと い あ さきいちらん | 資料4 地域における多言語資料関係団体等問い合わせ先一覧 | 185 |
| しりょう | たげん ごしりょうはっこうしゃとうと い あ さきいちらん | 資料5 学校における多言語資料発行者等問い合わせ先一覧 | 188 |

序 調査の概要

第1節 社会教育施設等

1. 調査の背景と目的

「ニューカマー」と呼ばれる外国籍県民が増加し始める 1990 年代以降、県内の自治体は、日本語を母語としない人々への行政サービスの充実を図るため、行政情報の多言語化に取り組んできた。現在、100 種類を超える多言語資料が発行されている。しかし、神奈川県「神奈川県外国籍住民生活実態調査」(*注 1)の中で明らかになったように、多言語情報が当事者の手に届きにくい状況があり、「必要とされている情報が、その情報を必要としている人に届くように情報提供経路などを再考すること」が求められている。

当協会では、自治体が発行する多言語資料の流通・活用状況を把握し改善策を検討するため、行政機関、外国籍県民、NGO、国際交流関係団体、学識経験者を構成メンバーとする研究会を設置し、外国籍県民の生活と関わりの深い「国際交流ラウンジ、国際交流協会、公民館、図書館」に対してアンケート調査とヒアリングを行った。

本調査で社会教育施設を対象としたのは、公民館を会場として多数の日本語教室が開かれており、これらの日本語教室が、「日本語学習の場」としてだけではなく、外国籍県民の生活に関わる情報交換や相談が行われる「生活情報を媒介する場」としても機能している現状があるからである。「生活情報を媒介する場」としての可能性を持つ公民館に多言語資料が所蔵されていれば、多言語情報が当事者の手に届く可能性が高まると考えられる。一方、図書館については、図書館法の中で「地方行政資料」を収集することが明記されており、館の社会的使命として、自治体が発行する多言語資料を収集する責務を負っていると考えられる。1980 年代以降ニューカマー人口の増加が著しい横浜市内の一部の図書館では、自治体の発行する多言語資料を収集し、「多文化コーナー」を設けて情報提供を行っている。

近年、公民館や図書館等の社会教育施設が行う「多言語サービス」の事例は、徐々に増える傾向にあるが、これまで全県的な調査がなく、実態を把握できなかった。今回の調査では、多言語資料を外国籍県民につなぐ「媒介」機関の役割に着目し、国際交流ラウンジ等の施設に加えて、社会教育施設である公民館と図書館を調査対象に含めることにした。

*注 1: 「神奈川県外国籍住民生活実態調査」(2001 年 8 月) 238 頁
上記調査のほか、多言語情報の作成・提供等に関して、「外国籍県民かながわ会議」と「NGO かながわ国際協力会議」が提言を出している。(提言内容は、11 頁参照)
・外国籍県民かながわ会議(第 3 期)最終報告 提言 3 (2004 年 10 月)
・同(第 2 期)最終報告 提言 20 (2002 年 10 月)
・同(第 1 期)最終報告 提言 15 (2000 年 10 月)
・NGO かながわ国際協力会議(第 2 期)最終報告 提言 8 (2002 年 10 月)

2. 調査の内容

(1) 調査期間

2004年10月1日～11月15日

(2) 方法

自記式による質問紙（アンケート）調査。郵送により送付、返還。

(3) 調査対象と回収率

調査対象は、県内の図書館、公民館、国際交流ラウンジ、国際交流協会とした。（*注2 12頁参照）アンケート用紙の送付件数と回答数、回収率の内訳は以下のとおり。

| | 送付件数 | 回答数 | 回収率 (%) |
|----------|------|-----|---------|
| 図書館 | 78 | 61 | 78.2 |
| 公民館 | 192 | 107 | 55.7 |
| 国際交流ラウンジ | 7 | 7 | 100 |
| 国際交流協会 | 20 | 15 | 75 |

(4) アンケート調査の内容

アンケート調査項目は、以下の6つの大きなカテゴリのもとに、問いを設定した。なお、設問の設定に際しては、多言語情報の多様性を鑑みて、多言語生活情報（在住外国人を対象として外国語で書かれた生活の諸分野に関する生活情報）と、いわゆる外国語図書とを区別し、設問のカテゴリも別々にした。

1. 多言語生活情報について
2. 外国語図書について
3. 利用者サービスについて
4. 職員について
5. 他の機関との連携について
6. 意見

また、多くの問いは、原則として4館種共通であるが、部分的に館固有の設問を付すこととした。

(5) ヒアリング

ヒアリングについては、図書館、公民館の中から、特色のある取り組みを行っている2館を選挙した。ヒアリング内容は、①多言語資料を収集するようになった経緯、②多言語資料の収集・活用の状況と外国人の参画、③他機関との連携の実際など。実施は2004年12月21日～22日。

- ・図書館：横浜市泉図書館（横浜市泉区和泉町6207-5）
- ・公民館：愛川町立中津公民館（愛川町中津293-3）

(6) 研究会・作業グループ

【役割】

調査の実施にあたっては、社会教育施設等職員、行政関係者、NGOスタッフ、学識経験者等で構成する研究会と作業グループを設置した。それぞれの役割は以下のとおり。

●研究会

アンケート調査をもとに多言語情報の流通を阻害する原因の分析と提言を作成すること

●作業グループ

アンケート調査票の作成、調査票の集計・分析

【研究会・作業グループメンバーの構成】（★は作業グループを兼務）

- ★小林 卓（明治大学兼任講師）
- ★水品左千子（県立図書館）
- ★足立 匡子（横浜市鶴見図書館）
- ★加藤 佳代（横浜市青葉国際交流ラウンジ）
- ★崔 英善（さがみはら国際交流ラウンジ）
- ★竹ノ下弘久（多文化まちづくり工房、慶応義塾大学メディアコミュニケーション研究所）
- 甘楽 順治（横浜市国際交流協会）
- 小島由美子（川崎市国際交流協会）
- 中世 貴三（神奈川県教育庁教育部生涯学習文化財課）
- ★富川 貴子（神奈川県県民部国際課）

序 調査の概要

【開催状況】

| | |
|------------------------------|---|
| 第1回 作業グループ会議 2004.8.18 | ・アンケート調査票についての検討(第1回) |
| 第2回 作業グループ会議 2004.9.7 | ・アンケート調査票についての検討(第2回) ・調査スケジュールの確認 |
| 研究会 2004.11.29 | ・アンケート調査結果の共有と分析 ・提言についての検討 |
| 合同研究会 2004.12.8 | ・社会教育施設等、学校・教委両調査の結果の共有 ・提言についての検討 |
| 合同作業グループ 会議 2005.1.28 | ・報告書の内容・構成、提言についての議論 ・フォーラム企画についての検討 |

*合同研究会、合同作業グループ会議は、「学校・教育委員会の調査チーム」との合同の意。

注 1 :

「神奈川県外国籍住民生活実態調査」 238 頁

各自治体が独自にすべての情報を必要な言語に翻訳するのは相当な労力や予算が必要だが、自治体の枠を越えて翻訳された文書を共有できるようなシステム構築は、検討することができるだろう。また、今回の調査で情報が多言語で発行されていても、その存在を知らない人も多いことが明らかになった。必要とされている情報が、その情報を必要としている人に届くように情報提供経路などを再考することも重要だろう。

外国籍県民かながわ会議（第3期）最終報告 提言3

外国人登録時に、外国籍県民が日常生活を送るうえで最低限必要な情報（ルビ振りやローマ字併記した地域の情報、地図、サービス案内など）をまとめた「ウエルカムキット」を提供する。

外国籍県民かながわ会議（第2期）最終報告 提言20

情報伝達について、市町村やNGOと連携をとりながら、外国籍県民に確実に情報が伝わる方法を確立する。

外国籍県民かながわ会議（第1期）最終報告 提言15

県民に提供する行政情報について、漢字にルビをふる、難しい漢字の使用を避けるなどの内部基準をつくり、外国籍県民にもわかりやすい情報提供につとめる。

NGO かながわ国際協力会議（第2期）最終報告 提言8

行政から提供される情報が、外国籍県民及びNGOに行き届かないことにより生じる情報格差の解消を図るため、行政、地域国際化協会、外国籍県民、NGO等による協議の場を設置し、外国籍県民が、必要なときに必要な県民サービスを利用できるよう、外国籍県民等への行政情報の提供及び相談事業のあり方を検討すること。

序 調査の概要

ちゅう
注 2:

ちょうざたいしゅういちらん しゃかいきょういくしせつとう
調査対象一覧 (社会教育施設等)
へいせい ねんどかながわけんしゅうがいがくしゅうぶんかざいようらんとう まくせい
 (平成16年度神奈川県生涯学習文化財要覧等をもとに作成)

| 市町村名 | 館種 | 図書館 | 公民館 | 国際交流ラウンジ | 国際交流協会 |
|------|----|-----|--------|----------|--------|
| 横浜市 | | 18 | (*1) | 5 | 1 |
| 川崎市 | | 12 | 13 | | 1 |
| 横須賀市 | | 4 | 11 | | 1 |
| 平塚市 | | 4 | 26 | | 1 |
| 鎌倉市 | | 5 | 6 (*2) | | |
| 藤沢市 | | 4 | 15 | | 1 |
| 小田原市 | | 2 | 9 | 1 | 1 |
| 茅ヶ崎市 | | 2 | 5 | | 1 |
| 逗子市 | | 1 | 2 | | |
| 相模原市 | | 4 | 23 | 1 | 1 |
| 三浦市 | | 3 | 2 | | 1 |
| 秦野市 | | 1 | 10 | | 1 |
| 厚木市 | | 1 | 15 | | 1 |
| 大和市 | | 1 | 5 | | 1 |
| 伊勢原市 | | 1 | 7 | | 1 |
| 海老名市 | | 2 | 1 | | |
| 座間市 | | 1 | 3 | | 1 |
| 南足柄市 | | 2 | 3 | | 1 |
| 綾瀬市 | | 1 | 6 | | |
| 葉山町 | | 1 | 1 | | 1 |
| 寒川町 | | | 4 | | 1 |
| 大磯町 | | 2 | | | 1 |
| 二宮町 | | 1 | 1 | | |
| 中井町 | | | 1 | | |
| 大井町 | | | 2 | | |
| 松田町 | | | 1 | | |
| 山北町 | | | 2 | | |
| 開成町 | | | | | |
| 箱根町 | | | 5 | | 1 |
| 真鶴町 | | | 1 | | |
| 湯河原町 | | 1 | | | |
| 愛川町 | | | 3 | | |
| 清川町 | | | | | |
| 城山町 | | | 1 | | |
| 津久井町 | | 1 | 2 | | |
| 相模湖町 | | | 3 | | |
| 藤野町 | | 1 | 3 | | |
| 市町村計 | | 76 | 192 | 7 | 19 |
| 県(立) | | 2 | | | 1 |
| 合計 | | 78 | 192 | 7 | 20 |

(*1) 本調査は、神奈川県公民館連絡協議会を通じて行ったため、加盟する市町村の公民館を対象とした。
 (*2) 鎌倉市については、社会教育法に基づく公民館ではなく、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条に基づく教育機関となる。

第2節 教育委員会・学校

1. 調査の背景と目的

神奈川県が設置している「外国籍県民かながわ会議」(*注3)の協議や、「外国籍住民生活実態調査」(*注4)の中で、「外国人児童生徒等の学校生活や進学についての必要な情報が外国人保護者に届いていない」との指摘がなされている。市町村の各教育委員会や学校では、外国人児童生徒や保護者むけの資料を作成する等、工夫や努力をしているが、各市町村発行の資料が県内で共有されていない現状にある。

そこで、情報・人・制度の資源を県内の教育関係機関等で共有するため、市町村教育委員会や国際教室設置校の多言語情報の作成・活用状況や通訳・翻訳者との関わりについて、アンケート調査をおこなった。併せて、多言語情報が活用されている教育委員会(愛川町教育開発センター)と学校(藤沢市立湘南台小学校、平塚市立大野中学校)について、ヒアリングをおこなった。

*注3: 外国籍県民かながわ会議(第3期)最終報告提言9(2004年10月)
同(第3期)最終報告提言12(2004年10月)
同(第1期)最終報告提言5(2000年10月)等

*注4: 「神奈川県外国籍住民生活実態調査」(2001年8月)173~174頁、244~250頁等
(注3の提言内容は本報告書16頁、注4の内容は17頁参照)

2. 調査の内容

(1) 調査期間

2004年9月21日~10月13日

(2) 方法

自記式による質問紙(アンケート)調査。郵送により送付、返還。

(3) 調査対象と回収率

調査対象は、県内の市町村教育委員会(*注5 18頁参照)、県内の公立小中学校で国際教室を設置している学校とした(*注6 19頁参照)。アンケート用紙の送付件数と回答数、回収率の内訳は以下のとおり。

| | そうふけんすう 送付件数 | かいとうすう 回答数 | かいしゅうりつ 回収率(%) |
|--|-----------------|---------------|-------------------|
| しちょうそんきょういくいいんかい 市町村教 育委員会 | 37 | 37 | 100 |
| こくさいきょうしつせっちこう しょうがっこう 国際教 室設置校 (小学校) | 83 | 66 | 80 |
| ちゅうがっこう (中学校) | 34 | 24 | 71 |
| けい (計) | 117 | 90 | 77 |

(4) アンケート調査の内容

アンケートは、以下の内容を調査できるように、問いを設定した。

- 外国人児童生徒や保護者への通知文の翻訳集および訳語集があるか
- 外国人児童生徒への学校生活の説明資料を日本語以外で作成しているか
- 日本語以外で作成した教科の補助教材はあるか
- 学校図書館等に多言語の図書はあるか
- 通訳や翻訳の制度の利用
- 他の機関との連携について
- 自由意見

教育委員会と学校で、別々に設問を付すこととした。

(5) ヒアリング

ヒアリングについては、教育委員会については、学校における外国人児童生徒の在籍率が高く、かつ、多言語資料を発行している市町村の委員会をひとつ選択し、学校については、日常的に多言語資料を利用していると回答した小中学校をそれぞれ1校ずつ選択した。対象は以下のとおりである。

- ・教育委員会：愛川町教育開発センター（愛川町角田251-1）

2004年12月22日に実施

- ・学校：藤沢市立湘南台小学校（藤沢市湘南台5-23）

平塚市立大野中学校（平塚市東中原1-12-1）

2005年1月12日に実施

(6) 研究会・作業グループ

【役割】

調査の実施にあたっては、行政関係者、NGOスタッフ、学識経験者等で構成する研究会と作業グループを設置した。それぞれの役割は以下のとおり。

●研究会

アンケート調査をもとに多言語情報の流通を阻害する原因の分析と提言を作成すること

●作業グループ

アンケート調査票の作成、調査票の集計・分析
 (協力者：一橋大学大学院社会学研究科 松林秀樹さん)

【構成】(★は作業グループを兼務)

- ★渡戸一郎 (明星大学教授)
- ★荒井アオイ (第3期・外国籍県民かながわ会議委員)
- ★熱海まき子 (多文化共生教育ネットワークかながわ)
- ★村井典子 (横浜市立末吉小学校)
- ★ヤマダ・ベッティ (横浜市教育委員会学校教育課 小中学校教育課)
- 長谷川祐子 (横浜市教育委員会学校教育課 小中学校教育課)
- 三ツ木純子 (川崎市教育委員会総務部人権・共生教育担当)
- 佐藤裕之 (川崎市総合教育センター教育課題研究室)
- ★高澤崇 (神奈川県教育庁教育課 義務教育課)

【開催】

| | |
|-----------------------------|---|
| 作業グループ会議 2004.8.17 | ・アンケート調査票についての検討 |
| 研究会 2004.11.17 | ・アンケート調査結果の共有、分析 ・提言についての検討 |
| 合同研究会 2004.12.8 | ・社会教育施設等、学校・教育両調査の結果の共有 ・提言についての検討 |
| 合同作業グループ 会議 2005.1.28 | ・報告書の内容・構成、提言についての議論 ・フォーラム企画についての検討 |

* 合同研究会、合同作業グループ会議は、学校をめぐる調査チームとの合同の意。

序 調査の概要

注 3：外国籍県民かながわ会議（第3期）最終報告 提言9

外国籍の生徒や保護者を対象に高校進学などについて説明や相談をする機会を設け、中学校や高等学校での外国籍生徒への進路に関する情報提供を充実させる。

外国籍県民かながわ会議（第3期）最終報告 提言12

公立図書館や学校の図書室にある外国語の図書を充実させる。

外国籍県民かながわ会議（第1期）最終報告 提言5

就学案内を多言語またはルビ付きにするとともに、時期をのがさず、ひとりひとりに確実に伝わるよう市町村教育委員会に要請する。

ちゅう かながわけんがいこくせきじゅうみんせいかつじつたいちようさ ページ ページ
 * 注 4 : 「神奈川県外国籍住民生活実態調査」 173 ~ 174 頁、244 ~ 250 頁

○日本にいてわからないことが多くて・・・とくに学校からの連絡とか手紙とか。娘が小学校1年生で、日本語のお知らせなんですけど、ルビもないし・・・。読みやすいとか、調べられるとか、(そう思ったことは) いままでほとんどなかった。もちろん母語が一番いいけど。連絡や手紙が理解できれば、学校に協力できることはあると思います。学校側はちゃんと配りましたよって言うんですけど、もうちょっと伝える心が入るといいですね。いろんな多言語があつて、外国人も受け身じゃなくて、日本人と一緒に解決していくってような。人数が少ないエスニック・グループにいる外国人も参加できるように。(Z.B: タイ、30代女性)

○持ち物がよくわからなくて、息子が忘れ物をして、その日、結局学校で何もできなかった、なんてこともあった。小学校からくるプリントでも、大事なところが読めなかったり、見落とししていたりして、子どもに迷惑をかけてしまっている。(G.W.: ペルー、30代女性)

○PTAの集まりは内容に興味あつても、日本語だけだとしてもわからない。働いているし、言いたいことがあつても、あまり話せないから・・・。(B.N.: ペルー、30代女性)

○もともと数学すごい好きだったんだ。ブラジルでいつも100点だったのが、日本では50、60点。それがすごく悔しいの。日本に来て、先生が何しゃべっているのかわかんないから全然集中しないじゃん。高校3年生まで通つてもさ、完璧にはおぼえられないじゃない、漢字ばかり出るから。たまに黒板にひらがなとかカタカナふってくれる先生もいたけど・・・。(D.T.: ブラジル、20代女性)

○工業高校だとみんな就職しちゃつて、僕はそういうこと、高校に入る前知らなかった。それで、来たときから大学って考えていたんで、工業高校でもいいかなつて入ったら、就職の方が多いうつていうんで、工業高校って何かわかっていなかった。それで、普通高校に変わつて勉強して大学に行きたい。(W.H.: ペルー 10代男性)

○来年長男が高校受験だけど、受験の仕組みとか、子ども任せで私は全然わかんない。子どもも遊んでばかりだし・・・。学校からのお知らせはわからないときは子どもに訊く。(M.T.: カンボジア、女性)

序 調査の概要

注 5 : 調査対象市町村教育委員会一覧

- | | | |
|----|--------------------------------|---|
| 1 | よこはましきょういくいんかい 横浜市教育委員会 | がっこうきょういくぶしょうちゅうがっこうきょういくか 学校教育部小中学校教 育課 |
| 2 | かわさきしきょういくいんかい 川崎市教育委員会 | がっこうきょういくぶしどうか 学校教育部指導課 |
| 3 | よこすかしきょういくいんかい 横須賀市教育委員会 | しょうがいぐくしゅうぶがっこうきょういくか 生涯学習部学校教 育課 |
| 4 | ひらつかしきょういくいんかい 平塚市教育委員会 | がっこうきょういくぶしどうしつ 学校教育部指導室 |
| 5 | かまくらしきょういくいんかい 鎌倉市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 6 | ふじさわしきょういくいんかい 藤沢市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 7 | おだわらしきょういくいんかい 小田原市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 8 | ちがさきしきょういくいんかい 茅ヶ崎市教育委員会 | きょういくしどうか 教 育指導課 |
| 9 | ずししきょういくいんかい 逗子市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 10 | さがみはらしきょういくいんかい 相模原市教育委員会 | がっこうきょういくぶしどうか 学校教育部指導課 |
| 11 | みうらしきょういくいんかい 三浦市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 12 | はだのしきょういくいんかい 秦野市教育委員会 | しどうしつ 指導室 |
| 13 | あつぎしきょういくいんかい 厚木市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 14 | やまとしきょういくいんかい 大和市教育委員会 | きょういくそうむぶしどうしつ 教 育総務部指導室 |
| 15 | いせはらしきょういくいんかい 伊勢原市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 16 | えびなしきょういくいんかい 海老名市教育委員会 | きょういく 教 育センター |
| 17 | どましきょういくいんかい 座間市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 18 | みなみあしがらしきょういくいんかい 南足柄市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 19 | あやせしきょういくいんかい 綾瀬市教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 20 | はやまちきょういくいんかい 葉山町教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 21 | さむかわまちきょういくいんかい 寒川町教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 22 | おおいそまちきょういくいんかい 大磯町教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 23 | にのみやまちきょういくいんかい 二宮町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 24 | なかいまちきょういくいんかい 中井町教育委員会 | きょういくか 教 育課 |
| 25 | おおいまちきょういくいんかい 大井町教育委員会 | しょうがいぐくしゅうか 生涯学習課 |
| 26 | まつだまちきょういくいんかい 松田町教育委員会 | きょういくか 教 育課 |
| 27 | やまきたまちきょういくいんかい 山北町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 28 | かいせいまちきょういくいんかい 開成町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 29 | はこねまちきょういくいんかい 箱根町教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 30 | まなづるまちきょういくいんかい 真鶴町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 31 | ゆがわらまちきょういくいんかい 湯河原町教育委員会 | がっこうきょういくか 学校教 育課 |
| 32 | あいかわまちきょういくいんかい 愛川町教育委員会 | きょういくかいほう 教 育開発センター |
| 33 | きよかわむらきょういくいんかい 清川村教育委員会 | じむきょくがっこうきょういくがかり 事務局 学校教 育係 |
| 34 | しろやまちきょういくいんかい 城山町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 35 | つくいまちきょういくいんかい 津久井町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 36 | さがみこまちきょういくいんかい 相模湖町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |
| 37 | ふじのまちきょういくいんかい 藤野町教育委員会 | きょういくそうむか 教 育総務課 |

序 調査の概要

注6：調査対象国際教室設置校一覧 (117校 小学校83校 中学校34校)

| | | |
|-------------------|--|--|
| よこはましりつ 横浜市立 | なまむぎしょうがっこう かわかみきたしょうがっこう なかむらしょうがっこう 生麦小学校、川上北小学校、中村小学校、 かみいだしょうがくこう かたびらしょうがっこう しょうがっこう 上飯田小学校、帷子小学校、いちよう小学校、 ひらどいしょうがっこう したの やしょうがっこう ひえしょうがっこう 平戸台小学校、下野谷小学校、日枝小学校、 おおおかしょうがっこう の ぼびがししょうがっこう なみきだいいちしょうがっこう 大岡小学校、野庭東小学校、並木第一小学校、 とよおかしょうがっこう かしおしょうがっこう つるみしょうがくこう ひがし 豊岡小学校、柏尾小学校、鶴見小学校、東 しょうがっこう うしおだしょうがっこう ささやましょうがっこう しおいり 小学校、潮田小学校、笹山小学校、汐入 しょうがっこう きたかたしょうがっこう いげがみしょうがっこう いいだきた 小学校、北方小学校、池上小学校、飯田北 しょうがっこう ほんちようしょうがっこう いちばしょうがっこう やまもと 小学校、本町小学校、市場小学校、山元 しょうがっこう へいあんしょうがっこう もとまちしょうがっこう おりもと 小学校、平安小学校、元街小学校、折本 しょうがっこう いしかわしょうがっこう ようこうだいいちしょうがっこう 小学校、石川小学校、洋光台第一小学校、 みなみよしだしょうがっこう すえよししょうがっこう 南吉田小学校、末吉小学校 | いちばちゅうがっこう つるみちゅうがっこう 市場中学校、鶴見中学校、 なまむぎちゅうがっこう ひがしの 生麦中学校、東野 ちゅうがっこう みなとちゅうがっこう 中学校、港中学校、 ふじみちゅうがっこう なかおだい 富士見中学校、仲尾台 ちゅうがっこう うしおだちゅうがっこう 中学校、潮田中学校、 あらいちゅうがっこう とみおかひがし 新井中学校、富岡東 ちゅうがっこう やまうちゅうがっこう 中学校、山内中学校、 かなざわちゅうがっこう とおかいちば 金沢中学校、十日市場 ちゅうがっこう なぜちゅうがっこう かみ 中学校、名瀬中学校、上 いいたちゅうがっこう へいらくちゅうがっこう 飯田中学校、平楽中学校 |
| かわさきしりつ 川崎市立 | ふじみだいしょうがっこう とのまちしょうがっこう みやましょうがっこう 富士見台小学校、殿町小学校、宮前小学校 | |
| よこすかしりつ 横須賀市立 | うらごうしょうがっこう おっぱましょうがっこう 浦郷小学校、追浜小学校 | おっぱまちゅうがっこう 追浜中学校 |
| さがみはらしりつ 相模原市立 | せいしんしょうがっこう かしまだいしょうがっこう さがみだいしょうがっこう 清新小学校、鹿島台小学校、相模台小学校、 みどりないしょうがくこう とうりんしょうがっこう ふちのべしょうがっこう 緑台小学校、東林小学校、淵野辺小学校、 ひかりがおかしょうがっこう はしもとしょうがっこう さくらだいしょうがっこう 光が丘小学校、橋本小学校、桜台小学校、 おおしましょうがっこう 大島小学校 | みどりがおかちゅうがっこう うちで 緑が丘中学校、内出 ちゅうがっこう 中学校 |
| ふじさわしりつ 藤沢市立 | ちようごしょうがっこう おおこししょうがっこう めいじしょうがっこう またの 長後小学校、大越小学校、明治小学校、俣野 しょうがっこう ふじみだいしょうがっこう しょうなんだいしょうがっこう 小学校、富士見台小学校、湘南台小学校 | しょうなんだいちゅうがっこう 湘南台中学校 |
| やまとしりつ 大和市立 | りんかんしょうがっこう しがやしょうがっこう にしつるましょうがっこう 林間小学校、渋谷小学校、西鶴間小学校、 やなぎばししょうがっこう みなみりんかんしょうがっこう 柳橋小学校、南林間小学校 | つるまちゅうがっこう ひかりがおか 鶴間中学校、光丘 ちゅうがっこう しがやちゅうがっこう 中学校、渋谷中学校、 ひきじだいちゅうがっこう しもふくだ 引地台中学校、下福田 ちゅうがっこう 中学校 |
| えびなしりつ 海老名市立 | かしかわ がやしょうがっこう 柏ヶ谷小学校 | |
| あやせしりつ 綾瀬市立 | てらおしょうがっこう てんだいしょうがっこう りょうほくしょうがっこう 寺尾小学校、天台小学校、綾北小学校 | りょうほくちゅうがっこう 綾北中学校 |
| ひらつかしりつ 平塚市立 | よこうちしょうがっこう かんだしょうがっこう そうぜんしょうがっこう おおの 横内小学校、神田小学校、崇善小学校、大野 しょうがっこう きじましょうがっこう おおほらしょうがっこう まつ おか 小学校、城島小学校、大原小学校、松ヶ丘 しょうがっこう 小学校 | おおのちゅうがっこう かんだちゅうがっこう 大野中学校、神田中学校、 よこうちちゅうがっこう 横内中学校 |
| はだのしりつ 秦野市立 | みなみしょうがっこう ほりかわしょうがっこう ほんちようしょうがっこう きた 南小学校、堀川小学校、本町小学校、北 しょうがっこう しがさわしょうがっこう すえひろしょうがっこう 小学校、浜沢小学校、末広小学校 | みなみちゅうがっこう ほんちようちゅうがっこう 南中学校、本町中学校 |
| いせはらしりつ 伊勢原市立 | たかべ やしょうがっこう 高部屋小学校 | |
| あつぎしりつ 厚木市立 | きたしょうがっこう とむろしょうがっこう みどり おかしょうがっこう あつぎ 北小学校、戸室小学校、緑ヶ丘小学校、厚木 しょうがっこう 小学校 | はやしちゅうがっこう 林中学校 |
| あいかわちゅうりつ 愛川町立 | なかつしょうがっこう すがわらしょうがっこう なかつだいにしょうがっこう 中津小学校、菅原小学校、中津第二小学校 | あいかわひがしちゅうがっこう あいかわ 愛川東中学校、愛川 なかはらちゅうがっこう 中原中学校 |

第1章 だいしゅう 社会教育施設等調査結果 しゃかいきょういくしせつとうちょうさけっか

第1節 調査結果の概要

アンケート調査の結果を、次の5つの観点から分析した。以下、観点別に4館種の傾向を記述する。

- (1) 多言語生活情報・多言語図書の収集状況
- (2) 多言語生活情報の提供状況
- (3) 多言語情報ニーズの把握状況
- (4) 他機関・組織との連携状況
- (5) 多言語情報の提供をめぐる課題

*なお、国際交流協会の調査については、県内国際交流協会連絡協議会に参加している市町村レベルの団体を対象とした。対象団体の中には、姉妹都市交流や海外との交流事業を 목적으로設立され、在住外国人支援事業を実施していない団体が含まれる。調査結果を読む際に留意いただきたい。

1. 多言語生活情報・多言語図書の収集状況

(1) 図書館

多言語生活情報を収集している館は、回答館の51%にあたる31館。公民館と比較して、多言語資料を書店を通じて入手する割合が高い(回答館の23%、公民館は0%)。外国語図書を1000冊以上所蔵している館が、回答館のうち21館ある。

外国語図書に関しては、25館(回答館の41%)が「外国語資料コーナー」を有していた。横浜市(鶴見など)では、地域の特色(在住外国人の必要言語への配慮)を反映した収集が行われている。

(2) 公民館

多言語生活情報の収集をしている自治体は、川崎市、相模原市、大和市、平塚市、鎌倉市に限られた。とりわけ、川崎市教育文化会館が目立つが、これは、当該館が識字教室を開催してきたことと関係があると推測される。

多言語図書を所蔵しているのは、回答館の7%にあたる7館。101冊以上多言語図書を所蔵しているのは1館のみ。

(3) 国際交流協会

県内の国際交流協会は、多文化共生の地域社会づくりを目的として設立された団体とは限らず、調査対象とした協会の中には、姉妹都市交流を目的に設立されたところもある。

多言語生活情報を収集しているのは、県、川崎市、大和市、藤沢市、茅ヶ崎市。こ

のうち、「多言語資料コーナー」を開設しているのは、県、川崎市、大和市、藤沢市。501冊以上の外国語図書を所蔵しているのは、県、川崎市であった。

(4) 国際交流ラウンジ

今回調査対象とした4種類の館種のうち、多言語生活情報の収集をもっと熱心に行っているのが国際交流ラウンジである。中には、資料の発行元に対してどのような情報が不足しているかを伝えるラウンジもあった。一方、多言語生活情報のリストが未整理であると回答するラウンジもあり、多言語生活情報の収蔵状況に関してラウンジ間での対応に相違が見られる。

2. 多言語生活情報の提供状況

(1) 図書館

多言語生活資料の提供に際しての工夫では、「目につくところに並べる」と回答した館が15館(回答館の25%)、「スタッフが紹介」が14館(回答館の23%)あったが、情報をホームページに掲載している館はなかった。また、27館が多言語生活情報の検索手段としてコンピュータ上での検索を選択しており、なんらかのデータベース化が進んでいることを表していると言えよう。冊子体や表紙コピーリスト、カード目録などを作成するなどの努力も少数ながらなされている。

多言語生活情報の提供に際し、ホームページ上の多言語情報を利用したのは、2館(回答館の3%)。県や国際交流協会、自治体国際化協会が作成した多言語のホームページを活用している館は皆無であった。インターネット利用者端末があるのは17館(回答館の28%)。多言語表示されるホームページを有しているのは13館(回答館の21%)。自治体の方針でホームページを多言語化している場合があり、図書館が独自に多言語ホームページを作成しているかどうかは今後の検証が必要)。

(2) 公民館

多言語生活資料の提供に際しての工夫の中で最も多い選択肢は、「目につくところに並べる」で、8館(回答館の8%)。川崎市は「外国人市民情報コーナー」が設置されており、同コーナーに並べていると答えた館が1館あった。

ホームページ上の多言語情報を利用したのは4館(回答館の4%)。インターネット利用者端末があるのは、31館(回答館の29%)。多言語表示されるホームページを有しているのは、16館(回答館の15%)。自治体の方針でホームページを多言語化している場合があり、公民館が独自に多言語ホームページを作成しているかどうかは今後の検証が必要)。

ホームページ上の多言語情報の存在を知らない館が、36館(回答館の34%)あった。

(3) 国際交流協会

多言語生活資料の提供に際しての工夫では、「目につくところに並べる」が4館（回答館の27%）、「スタッフが紹介」が2館（回答館の13%）、「ホームページに掲載」が2館（回答館の13%）。

多言語生活情報の提供に際し、ホームページ上の多言語情報を利用したのは、5館（回答館の33%）。インターネット利用者端末があるのは、3館（回答館の20%）。多言語表示されるホームページを有しているのは、3館（回答館の20%）。自治体の方針でホームページを多言語化している場合があり、協会が独自に多言語ホームページを作成しているかどうかは今後の検証が必要）。

(4) 国際交流ラウンジ

多言語生活資料の提供に際しての工夫では、「目につくところに並べる」「スタッフが紹介」が各6館（回答館の86%）以外に、「ホームページに掲載」と答えた館が4館あり、他の館種に比して情報提供に対する努力の形跡がうかがえる。

多言語生活情報の提供に際し、ホームページ上の多言語情報を利用したのは、7館（回答館の100%）。情報提供に際してコンピュータを積極的に活用している様子が見られる。情報提供に際し、神奈川県関連のホームページ上の情報が最も多く活用されている。

インターネット利用者端末があるのは、2館（回答館の29%）。多言語表示されるホームページを有しているのは、6館（回答館の86%）。

3. 多言語情報ニーズの把握状況

(1) 図書館

情報ニーズの把握のための方策を講じた館が5件あった。ニーズ調査を実施した館は2館あり、いずれも横浜市（南など）。

ニーズ把握のための自由記述欄の回答として、以下のものがあつた。

- ・外国人来館者との会話を通じて、情報ニーズを把握する（横浜南）
- ・外国人とのやりとりを記録するノートがあり、要求がわかるようにしている（横浜鶴見）

(2) 公民館

情報ニーズの把握のための方策を講じた館が2件（川崎市教文、川崎市麻生）。ニーズ調査を館独自に実施した例は皆無。ただし、「川崎市教文」は、自治体のニーズ調査に参加したと回答。

ニーズ把握のための自由記述欄の回答として、以下のものがあつた。

- ・川崎市では、「川崎市地域日本語連絡会を通じて、情報交換、調査・研究を行っている。」

(3) 国際交流協会

情報ニーズの把握のため方策を講じた協会が4件(藤沢、大和、相模原、県)。

(4) 国際交流ラウンジ

情報ニーズの把握のため方策を講じた館が4件。ニーズ調査を実施していない2つのラウンジにおいても、「他団体の調査結果を参考にし」ている。アンケート調査以外に、「問い合わせや相談」の傾向を分析するラウンジもあった(横浜市青葉)。

4. 他機関・組織との連携状況

(1) 図書館

他機関との連携をおこなっていると答えたのは10館(回答館の約16%)。連携の対象は自治体が最も多い。外国語圖書の貸出、寄贈などの事例が多く、外国人窓口対応マニュアルなどの多言語生活情報作成の際に首長部局と連携をとったという回答も見られた(相模原市)。逆に他機関への資料の寄贈・借用依頼や(横浜市)、首長部局への広報物の翻訳の依頼の事例も報告されている(愛川町など)。

学校との連携をおこなっていると答えたのは4館(回答館の約7%)。外国人児童生徒が多い学校に「利用案内」や「新着本リスト」を提供、保護者への紹介を依頼するなど積極的な働きかけを行っている館もあった(横浜市)。

(2) 公民館

他機関との連携の事例があると答えた館は8館(回答館の7.5%)。自由記述欄では、国際交流協会、国際交流ラウンジとの連携事例として、公民館事業プログラムへの協力要請(相模原市)、外国人の親のための子育てガイドブックの翻訳要請(川崎市)、ボランティアの派遣依頼(大和市)などが挙げられている。

(3) 国際交流協会

他機関との連携をおこなっていると答えたのは3団体(回答団体の20%)。自由記述欄では、自治体、交流ラウンジなどへの翻訳・通訳者の提供や(大和市、茅ヶ崎市、川崎市)、公民館行事への協力(相模原市)などが挙げられた。

学校との連携を行っている団体は2団体(回答団体の13.3%)。自由記述では、翻訳・通訳の派遣、コーディネーターが挙げられている(大和市、県)。

(4) 国際交流ラウンジ

他機関との連携をおこなっていると答えたのは7館(全回答館)。自治体と国際交流協会との連携が相対的に多く、自由記述欄では、自治体や国際交流協会が発行する多言語情報の作成協力の事例が多く挙げられている(横浜市)。

学校との連携を行っている団体は6館(回答団体の85.7%)。自由記述では、通訳、翻訳

のほか、^{がっこうぎょうじ}学校行事への^{がいこくじん}外国人スタッフの^{はけん}派遣などが^あ挙げられている（^{よこはまし}横浜市）。

5. ^{たげん ごじょうほう ていきょう かだい}多言語情報の提供をめぐる課題

(1) ^{としよかん}図書館

「どのような^{じょうほう}情報がいつ、どこで^{はっこう}発行されたかがわからない」という^{かいとう}回答が^{もっと}最も^{おお}多く38館（^{かいとうかん}回答館の62.3%）であった。^{じゆうきじゅつらん}自由記述欄では、^{よさん}予算と^{じかん}時間の^{ふそく}不足、^{げんご}言語を^{かい}解するスタッフの^{ふざい}不在、^{がいこくじん}外国人の^{りようしゃ}利用者が^いいない、などの^{かいとう}回答が^み見られた。

(2) ^{こうみんかん}公民館

「言語ごとの^{じゅう}需要がわからない」、「ニーズの^{はあくほうほう}把握方法がわからない」という^{かいとう}回答が^{もっと}最も^{おお}多く、それぞれ61館（^{かいとうかん}回答館の57%）、60館（^{かいとうかん}回答館の56.1%）であった。^{じゆうきじゅつらん}自由記述欄では、^{じんいん}スペースや^{ふそく}人員の^{よさん}不足、^{ふそく}予算の^あ不足などが^あ挙げられた。

(3) ^{こくさいこうりゅうきょうかい}国際交流協会

「どのような^{じょうほう}情報がいつ、どこで^{はっこう}発行されたかがわからない」という^{かいとう}回答が^{もっと}最も^{おお}多く8団体（^{かいとうだんたい}回答団体の53.3%）であった。^{じゆうきじゅつらん}自由記述欄では、^{こゆう}固有の^ふスペースがない、などの^{かいとう}回答が^み見られた。

(4) ^{こくさいこうりゅう}国際交流ラウンジ

「どのような^{じょうほう}情報がいつ、どこで^{はっこう}発行されたかがわからない」という^{かいとう}回答が^{もっと}最も^{おお}多く5館（^{かいとうかん}回答館の71.4%）であった。^{じゆうきじゅつらん}自由記述欄では、^{そうだんぎょうむ}相談業務に^お追われており^{じょうほう}情報の^{せいり}整理に^て手がとどかない、^{どうよう}同様の^{ないよう}内容の^{じょうほう}情報を^{せいり}整理する^{ひつよう}必要がある、^{じょうほう}情報の^{てきせつ}適切な^{こうしん}更新と^{しゅしゃせんたく}取捨選択の^{ひつよう}必要があるなどの^{かいとう}回答が^よ寄せられた。

第2節 調査結果

ここでは、アンケート調査票の各「問い」に即して回答結果を具体的に示すこととする。その際、以下の点を前提とした。

- ①各「問い」ごとに、4館種それぞれの回答と、全体としての傾向を示すと同時に、地域の外国人登録者数との関連で示せる事柄がある場合には、回答結果と「集住度」との関連を示すこととした。
- ②「集住度」は、神奈川県内の外国人登録者数に関する統計（市区町村別、2003年12月末現在）をもとに、人口の外国籍住民の人口規模が4,000人以上でかつ日本籍住民との人口比が2%以上、もしくは人口規模2,000人以上で人口比が3%以上の地域を「とても高い」、人口規模が4,000人以上で、人口比が2%未満を「高い」、人口規模が2,000人以上4,000人未満の地域、もしくは人口規模が1,000人以上2,000人未満で人口比が1%以上を「中程度」、人口規模が2,000人未満で人口比が1%未満を「低い」とした。
- ③4館種の設置目的に関わる固有の「問い」の場合にはその旨記した。なお、そのような事情から、実際の調査票の「問い」の番号とここでの番号は一部異なっている。
- ④実際の調査票では、館種によって「貴館」、「貴ラウンジ」、「貴協会」などと表記したが、ここでは便宜上「貴館」に統一した。ただし、館種を限定した質問については、「ラウンジ」等の個別名を使用する場合がある。
- ⑤スペースの関係上、国際交流ラウンジは「ラウンジ」と、国際交流協会は「協会」と適宜、簡略化した。
- ⑥クロス表の数値は、上段は実測値、下段はパーセントを表す。

1. 多言語生活情報

(1) 自治体が発行する多言語生活情報（【問1】～【問2】）

【問1】 貴館が設置されている自治体は、多言語表記のガイドブック・パンフレット・ニューズレターを発行していますか。

第1章 社会教育施設等調査結果

表 1-1 自治体における多言語表記のガイドブック等の発行の有無

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|-------------|------------|----------|------------|
| 図書館 | 46 75.4 | 13 21.3 | 2 3.3 | 61 100 |
| 公民館 | 73 68.2 | 31 29.0 | 3 2.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 9 60.0 | 6 40.0 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 1 14.3 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 134 70.5 | 51 26.8 | 5 2.6 | 190 100 |

調査対象となった施設に、当該施設が設置されている自治体で、多言語表記のガイドブックなどを発行しているかどうかをたずねた。全体では、「はい」という回答が70.5%、「いいえ」という回答が26.8%であった。

多言語表記のガイドブック等の発行の有無を施設別に確認したところ、「発行している」との回答は、図書館で75.4%、公民館で68.2%、国際交流協会で60%、国際交流ラウンジでは85.7%、であった。

【問2】「はい」の場合、その中のいずれかに貴館についての記述・紹介はありますか。

表 2-1 自施設についての記述・紹介の有無(施設別)

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|------------|------------|------------|------------|
| 図書館 | 33 54.1 | 13 21.3 | 15 24.6 | 61 100 |
| 公民館 | 21 19.6 | 52 48.6 | 34 31.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 5 33.3 | 4 26.7 | 6 40.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 65 34.2 | 69 36.3 | 56 29.5 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

自治体発行の多言語表記のガイドブック等への自施設の紹介の有無についてたずねた。全体の集計では、「紹介がある」という回答は4割弱であり、「紹介がない」とほぼ同様の比率であった。多言語表記の発行物について施設別の回答をみると、図書館では5割、国際交流協会では3割強、ラウンジでは8割以上が自施設に関する記述・紹介があると回答するが、公民館については2割弱となっている。多言語表記の自治体の発行物の中に、公民館の紹介が少ないということから、これらの施設や施設が開催するイベントなどの情報が、外国出身の日本語を母語としない人たちに十分伝わっていない可能性があると言える。

(2) 施設が収集する多言語生活情報の資料【問3】～【問3-4】

【問3】 貴館では、多言語生活情報の資料を収集していますか。

多言語生活情報資料を収集する施設は、4館種全体では3割弱という結果となる。施設別にみると、国際交流ラウンジでは、8割以上の施設で資料収集が行われている。図書館では約5割、公民館では1割強、国際交流協会では3割強の施設で収集を行っている。

表3-1 多言語生活情報資料収集の有無(施設別)

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|------------|-------------|-----------|------------|
| 図書館 | 31 50.8 | 28 45.9 | 2 3.3 | 61 100 |
| 公民館 | 12 11.2 | 91 85.0 | 4 3.7 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 5 33.3 | 10 66.7 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 54 28.4 | 129 67.9 | 7 3.7 | 190 100 |

以下ではさらに、図書館と公民館に限定して、外国籍住民の集住度と多言語生活情報の資料収集との関係について検討する。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-2 たげんごせいかつじょうほうしりょうしゅうしゅう うむ 多言語生活情報資料収集の有無 (集住度別・図書館)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|-----------------|------------|------------|--------------|------------|
| ひくい 低 | 4 16.0 | 20 80.0 | 1 4.0 | 25 100 |
| ちゅう 中 | 15 93.8 | 0 0.0 | 1 6.3 | 16 100 |
| たかい 高 | 6 60.0 | 4 40.0 | 0 0.0 | 10 100 |
| とても たかい 高 | 6 60.0 | 4 40.0 | 0 0.0 | 10 100 |
| ごうけい 合計 | 31 50.8 | 28 45.9 | 2 3.3 | 61 100 |

ひょう 表 3-3 たげんごせいかつじょうほうしりょうしゅうしゅう うむ 多言語生活情報資料収集の有無 (集住度別・公民館)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|-----------------|------------|------------|--------------|------------|
| ひくい 低 | 2 7.7 | 23 88.5 | 1 3.8 | 26 100 |
| ちゅう 中 | 3 15.8 | 16 84.2 | 0 0.0 | 19 100 |
| たかい 高 | 5 11.1 | 37 82.2 | 3 6.7 | 45 100 |
| とても たかい 高 | 2 11.8 | 15 88.2 | 0 0.0 | 17 100 |
| ごうけい 合計 | 12 11.2 | 91 85.0 | 4 3.7 | 107 100 |

図書館については、集住度の低い地域で、多言語生活情報資料の収集があまり行われていない。資料収集をしている地域は、16.0%。他方、外国籍住民の集住度中程度以上の地域では、9割以上の図書館で多言語生活情報の資料収集が行われている。一方、「集住度の高い地域」や「とても高い地域」の場合、4割の図書館では、資料収集は行われていない。公民館の場合、集住度に関わらず、おしなべて多言語生活情報の資料収集は行われていないことがわかる。

【問3-1】 貴館が収集している資料について、次ページのチェックシートにご記入ください。

各施設が収集している多言語生活情報に関わる資料について、具体的な資料名を挙げながら、その有無、収集言語について細かくたずねた。以下ではそうした情報のうち、各施設が、大まかに区分した領域の中で、どの程度の資料を所蔵しているかについて集計を行った。

第1章 社会教育施設等調査結果

表 3-1-1 多言語生活情報の所蔵(広報(定期刊行物))(施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|-----------|-----------|----------|-----------|------------|
| としょかん 図書館 | 44 72.1 | 6 9.8 | 8 13.1 | 2 3.3 | 1 1.6 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 103 96.3 | 0 0.0 | 3 2.8 | 0 0.0 | 1 0.9 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 10 66.7 | 1 6.7 | 2 13.3 | 0 0.0 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 1 14.3 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 161 84.7 | 8 4.2 | 14 7.4 | 2 1.1 | 5 2.6 | 190 100 |

自治体が発行する広報などの「定期刊行物」については、図書館では1冊が9.8%、2冊が13.1%、3冊以上が4.9%であった。公民館では、0冊という回答が96.3%をしめるが、3.7%の施設では、1冊以上の資料を所蔵している。国際交流協会では、0冊が3分の2をしめ、3分の1が1冊以上保有している。国際交流ラウンジでも、57.1%が0冊で、1冊以上が42.9%であった。

所蔵していると回答のあった「定期刊行物」資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆ 広報など定期刊行物(資料名、発行者、対応言語)

- 「こんにちはかながわ」 神奈川県 英、中、韓、ス、ポ
- 「ボーダレスかながわ」 神奈川県 英、中、韓、ス、ポ
- 「よこはまYokohama」 (財)横浜市国際交流協会
中、韓、ス、ポ、ベトナム、インドネシア、やさしい日本語
- 「yokohama echo」 (財)横浜市国際交流協会 英
- 「川崎市外国人市民代表者会議ニュースレター」 川崎市 英、中、韓、ス、ポ

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-1-2 多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの所蔵しょぞう(学校・教育がっこう きょういく)(施設別しせつべつ)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5～ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|----------|-----------|----------|-----------|------------|
| としょかん 図書館 | 47 77.0 | 11 18.0 | 3 4.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 103 96.3 | 2 1.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 11 73.3 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 165 86.8 | 15 7.9 | 4 2.1 | 1 0.5 | 2 1.1 | 3 1.6 | 190 100 |

「学校・教育」分野については、図書館では、0冊が77.0%、1冊が18.0%、2冊が4.9%であった。公民館では、0冊が96.3%、1冊が1.9%、2冊以上も1.9%であった。国際交流協会では、0冊が73.3%である一方、5冊以上という回答も13.3%みられた。国際交流ラウンジでは、0冊という回答が57.1%、1冊、3冊、5冊以上がそれぞれ14.3%であった。

所蔵していると回答のあった「学校・教育」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆学校・教育(資料名、発行者、発行年、対応言語)

「外国人保護者用・就学ハンドブック ともに生きる社会をめざして」 川崎市教育委員会

2004 英、中、韓、ス、ポ

「学校用語・通知文対訳集(小学校用)(中学校用)」 横浜市教育委員会

2002 英、中、韓、ス、ポ、カンボ、ベト、タガ

「高校進学ガイドブックかながわ」多文化共生教育ネットワークかながわ

2002 英、中、韓、ス、ポ、ベト、ラオ、カンボ、タガ、インドネシア

「きょうからはまっこ・横浜の学校に入るにあたって」 横浜市教育委員会

2000 中、韓、ス、ポ、ベト、タガ

「外国人児童・生徒の手引」 相模原市教育委員会

1994 英、中、韓、ス、ポ、ベト、ラオ、タガ

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-1-3 たげんごせいかつじょうほう しよぞう ふくし ほけん てつづ しせつべつ
 表 3-1-3 多言語生活情報の所蔵(福祉・保健の手続き)(施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------|
| としよかん 図書館 | 45 73.8 | 14 23.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 106 99.1 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゆうきょうかい 国際交流協会 | 11 73.3 | 1 6.7 | 2 13.3 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100 |
| こくさいこうりゆう 国際交流ラウンジ | 3 42.9 | 1 14.3 | 1 14.3 | 0 0.0 | 1 14.3 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 165 86.8 | 17 8.9 | 4 2.1 | 1 0.5 | 2 1.1 | 1 0.5 | 190 100 |

「福祉・保健」分野についてみると、図書館では、0冊が73.8%、1冊が23.0%、2冊以上では3.2%。公民館では、0冊が99.1%であり、1冊が0.9%であった。国際交流協会では、0冊が73.3%、1冊が6.7%、2冊が13.3%、3冊が6.7%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が42.9%、1冊が14.3%、2冊が14.3%、4冊以上が28.6%であった。

所蔵していると回答のあった「福祉・保健」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆福祉・保険の手続き(資料名、発行者、発行年、対応言語)

| | | | |
|-------------------------------|--------------|------|-----------|
| こくみんけんこうほけん 「国民健康保険のしおり」 | かわさきし 川崎市 | 2003 | 英、中、韓、ス、ポ |
| こくみんけんこうほけん 「国民健康保険ガイドブック」 | よこはまし 横浜市 | 2002 | 英、中、韓、ス、ポ |
| かいごほけん 「介護保険」 | よこはまし 横浜市 | 2002 | 英、中、韓、ス、ポ |
| かいごほけん 「介護保険のご案内」 | かわさきし 川崎市 | | 英、中、韓、ス、ポ |
| こくみんねんきん 「国民年金ガイド」 | よこはまし 横浜市 | | 英、中、韓、ス、ポ |

ひょう 表 3-1-4 たげんごせいかつじょうほう しよぞう く しせつべつ
 表 3-1-4 多言語生活情報の所蔵(暮らしのガイド・ルール)(施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| としよかん 図書館 | 30 49.2 | 12 19.7 | 6 9.8 | 12 19.7 | 1 1.6 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 97 90.7 | 8 7.5 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゆうきょうかい 国際交流協会 | 10 66.7 | 2 13.3 | 2 13.3 | 0 0.0 | 1 6.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゆう 国際交流ラウンジ | 2 28.6 | 3 42.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 139 73.2 | 25 13.2 | 9 4.7 | 13 6.8 | 4 2.1 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

「暮らしのガイド・ルール」分野についてみると、図書館では、0冊が49.2%、1冊が19.7%、2冊が9.8%、3冊が19.7%、4冊以上が1.6%であった。公民館では、0冊が90.7%、1冊が7.5%、2冊以上が1.8%であった。国際交流協会では、0冊が66.7%、1冊が13.3%、2冊が13.3%、4冊以上が6.7%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が28.6%、1冊が42.9%、4冊以上が28.6%であった。

所蔵していると回答のあった「暮らしのガイド・ルール」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆暮らしのガイド・ルール（資料名、発行者、発行年、対応言語）

「横浜市暮らしのガイド」 横浜市

2004、2002 英、中、韓、ス、ポ

「新しく登録された方及び転入された外国人の皆さんへ（相談窓口のご案内）」 川崎市

2003 英、中、韓、ス、ポ、ロシア、インドネシア、ベトナム、タイ、カンボ、マレー、パプアニューギニア、ウルドゥ

「日本で暮らす外国人のための生活マニュアル」 滞日外国人と連帯する会

2002 英、中

「外国人暮らしのガイドブック」 神奈川県

2001 英、中、韓、ス、ポ、ベトナム、ラオス、カンボ

「暮らしのガイドブック」 相模原市

英、中、韓、ス、ポ、タイ、カンボ

表 3-1-5 多言語生活情報の所蔵（外国人相談窓口）（施設別）

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5～ | 合計 |
|----------|-------------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------|
| 図書館 | 51 83.6 | 10 16.4 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 61 100 |
| 公民館 | 103 96.3 | 3 2.8 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 13 86.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 13.3 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 171 90.0 | 14 7.4 | 2 1.1 | 0 0.0 | 2 1.1 | 1 0.5 | 190 100 |

「外国人相談窓口に関する多言語情報」分野についてみると、図書館では、0冊が83.6%、1冊が16.4%であった。公民館では、0冊が96.3%、1冊以上が3.7%であった。国際交流協会では、0冊が86.7%、4冊が13.3%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が57.1%、1冊、3冊、5冊以上ともに14.3%であった。

所蔵していると回答のあった「外国人相談窓口に関する多言語情報」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

第1章 社会教育施設等調査結果

◆外国人相談窓口に関する多言語情報 (資料名、発行者、発行年、対応言語)

| | | | |
|---------------|------|------|---------------------|
| 「外国人労働相談のご案内」 | 神奈川県 | 2003 | 英、中、韓、ス、ポ |
| 「外国籍県民相談事例集」 | 神奈川県 | 2001 | 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、カンボ |
| 「外国籍県民相談窓口案内」 | 神奈川県 | | 英、中、韓、ス、ポ |
| 「外国人相談窓口のご案内」 | 横浜市 | | 英、中、韓、ス、ポ |
| 「外国人相談窓口」 | 相模原市 | | 英、中、ス、ポ |

表3-1-6 多言語生活情報の所蔵 (緊急・防災) (施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|-----------|-----------|----------|-----------|------------|
| としょかん 図書館 | 48 78.7 | 8 13.1 | 4 6.6 | 0 0.0 | 1 1.6 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 105 98.1 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 10 66.7 | 4 26.7 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 3 42.9 | 1 14.3 | 2 28.6 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 166 87.4 | 14 7.4 | 7 3.7 | 1 0.5 | 2 1.1 | 190 100 |

「緊急・防災」分野についてみると、図書館では、0冊が78.7%、1冊が13.1%、2冊が6.6%、4冊以上が1.6%であった。公民館では、0冊が98.1%、1冊と2冊がともに0.9%であった。国際交流協会では、0冊が66.7%、1冊が26.7%、3冊が6.7%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が42.9%、1冊が14.3%、2冊が28.6%、4冊以上が14.3%であった。

所蔵していると回答のあった「緊急・防災」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆緊急・防災 (資料名、発行者、発行年、対応言語)

「災害時に役立つ外国語の表示シート集 (横浜版)」 (財)横浜市国際交流協会

2001 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、カンボ、タガ

「防災のこぼし」 さがみはら国際交流ラウンジ

2001 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、カンボ、ロシア、仏、独

「外国人に対する119番通報要領」 相模原市

英、中、韓、ス、ポ

「防災ハンドブック大地震あなたはどうすべきか」 横浜市

1999、1997 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト

「防災ガイド」 川崎市

1996 英、中、韓、ポ、ペルシャ、タイ

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-1-7 多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの所蔵しょぞう（保健・医療ほけん いりょう）（施設別しせつべつ）

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5～ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|------------|----------|----------|-----------|------------|
| としよかん 図書館 | 30 49.2 | 17 27.9 | 11 18.0 | 2 3.3 | 1 1.6 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 97 90.7 | 7 6.5 | 2 1.9 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 11 73.3 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 20.0 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 2 28.6 | 0 0.0 | 3 42.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 140 73.7 | 24 12.6 | 17 8.9 | 2 1.1 | 2 1.1 | 5 2.6 | 190 100 |

「保健・医療」分野についてみると、図書館では0冊が49.2%、1冊が27.9%、2冊が18.0%、3冊以上が4.9%であった。公民館では、0冊が90.7%、1冊が6.5%、2冊が1.9%、4冊が0.9%であった。国際交流協会では、0冊が73.3%、2冊が6.7%、5冊以上が20.0%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が28.6%、2冊が42.9%、5冊以上が28.6%であった。

所蔵していると回答のあった「保健・医療」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆保健・医療（資料名、発行者、発行年、対応言語）

「外国人のための医療機関リスト」 神奈川県

2002 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、ラオ、カンボ、タガ

「外国語医科歯科診療マニュアル」 神奈川県

2001 英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、カンボ、タガ

「外国人のための保健・医療ガイドブック」 神奈川県

2000 英、中、韓、ス、ポ

「ストップエイズかながわ」 神奈川県

英、中、韓、ス、ポ、タイ、ベト、ラオ、タガ

「結核健康診断のお知らせ」 神奈川県

英、中、ス、ポ、タイ、タガ

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-1-8 多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの所蔵しょぞう(住まい)す(施設別)しせつべつ

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5～ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|-----------|----------|----------|-----------|------------|
| としょかん 図書館 | 49 80.3 | 11 18.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 106 99.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 0.9 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 11 73.3 | 0 0.0 | 1 6.7 | 1 6.7 | 0 0.0 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 0 0.0 | 2 28.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 170 89.5 | 11 5.8 | 4 2.1 | 1 0.5 | 0 0.0 | 4 2.1 | 190 100 |

「住まい」の分野についてみると、図書館で0冊が80.3%、1冊が18.0%、2冊が1.6%であった。公民館では、0冊が99.1%、5冊以上が0.9%であった。国際交流協会では、0冊が73.3%、2冊と3冊がそれぞれ6.7%、5冊以上が13.3%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が57.1%、2冊が28.6%、5冊以上が14.3%であった。

所蔵していると回答のあった「住まい」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆ 住まい(資料名、発行者、発行年、対応言語)

「神奈川県で暮らす外国人のための公営住宅入居の手引き」かながわ外国人すまいサポートセンター

2003 英、中、韓、ス、ポ、タイ、タガ

「住宅を借りる時のことば」神奈川県

「住宅の借り方マニュアル」神奈川県

「住宅の引っ越しルール」神奈川県

「住まい方のルール」神奈川県

2001 英、中、韓、ス、ポ、ベト、ラオ、カンボ

「県営住宅住まい方マニュアル」神奈川県

2000 英、中、韓、ス、ポ、ベト、ラオ、カンボ

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-1-9 多言語生活情報の所蔵(女性・育児)(施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|------------|----------|----------|-----------|-----------|------------|
| としよかん 図書館 | 46 75.4 | 11 18.0 | 3 4.9 | 0 0.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 105 98.1 | 2 1.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 11 73.3 | 1 6.7 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 166 87.4 | 15 7.9 | 4 2.1 | 0 0.0 | 2 1.1 | 3 1.6 | 190 100 |

「女性・育児」分野についてみると、図書館では、0冊が75.4%、1冊が18.0%、2冊が4.9%、4冊が1.6%であった。公民館では、0冊が98.1%、1冊が1.9%であった。国際交流協会では、0冊が73.3%、1冊と2冊がそれぞれ6.7%、5冊以上が13.3%であった。国際交流ラウンジでは、0冊が57.1%、1冊が14.3%、4冊と5冊以上もそれぞれ14.3%であった。所蔵していると回答のあった「女性・育児」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆女性・育児(資料名、発行者、発行年、対応言語)

| | | | |
|------------------------|------|-----------|---------------|
| 「母子健康手帳」 | 横浜市 | 2004、1999 | 英、中、韓、ス、ポ、ベト |
| 「ひとりで悩まないで、まず電話を！」 | 神奈川県 | 2002 | 英、ス、ポ、韓、タイ、タガ |
| 「ドメスティックバイオレンスをなくすために」 | 神奈川県 | 2002 | 英、中、ス、タイ、タガ |
| 「じどうであて(児童手当)」 | 横浜市 | 1996 | 英、中、韓、ス、ポ、ベト |
| 「保育園入園のしおり」「保育園の案内」 | 横浜市 | 1993 | 英、中、韓、ス、ポ |

ひょう 表 3-1-10 多言語生活情報の所蔵(労働)(施設別)

| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5~ | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-------------|-----------|----------|----------|----------|-----------|------------|
| としよかん 図書館 | 48 78.7 | 8 13.1 | 3 4.9 | 1 1.6 | 0 0.0 | 1 1.6 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 104 97.2 | 2 1.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 12 80.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 5 71.4 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 169 88.9 | 10 5.3 | 4 2.1 | 1 0.5 | 1 0.5 | 5 2.6 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

最後に、「労働」分野についてみる。図書館では、0冊が78.7%、1冊が13.1%、2冊が4.9%、3冊と5冊以上がそれぞれ1.6%であった。公民館では、0冊が97.2%、1冊が1.9%、2冊が0.9%であった。国際交流協会では、0冊が80.0%である一方、4冊が6.7%、5冊以上が13.3%であった。国際交流ラウンジでも、0冊が71.4%であるかたわら、5冊以上が28.6%であった。

所蔵していると回答のあった「労働」分野の資料の中で、回答数の多い上位5点は、以下のとおりである。

◆労働（資料名、発行者、発行年、対応言語）

| | | | |
|----------------------|------------|-----------|--------------|
| 「外国人が働くためのガイド」 | 川崎市教育委員会 | 2003 | 英、中、韓、ス、ポ |
| 「日本で働く日系人のためのガイドブック」 | 産業雇用安定センター | 2002、2001 | ス、ポ |
| 「職場で役立つ日本語会話集」 | 産業雇用安定センター | 2002、2001 | ス、ポ |
| 「2001年版労働・職業生活相談事例集」 | 産業雇用安定センター | 2001 | ス、ポ |
| 「外国人のための労働手帳」 | 神奈川県 | 1990～ | 英、中、韓、ス、ポ、タガ |

【問3-2】 多言語生活情報の資料はどのように入手していますか。
該当する番号に○をしてください。（複数回答可）

表3-2-1 多言語生活情報の資料入手方法

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と 無回答 |
|----------------|------------|------------|-------------|
| 注文しなくても発行元から送付 | 45 23.7 | 9 4.7 | 136 71.6 |
| 関係団体や人を通じて入手 | 24 12.6 | 30 15.8 | 136 71.6 |
| 必要に応じて発行元に請求 | 16 8.4 | 38 20.0 | 136 71.6 |
| 資料交換を通じて入手 | 4 2.1 | 50 26.3 | 136 71.6 |
| 書店を通じて購入 | 17 8.9 | 37 19.5 | 136 71.6 |
| その他 | 3 1.6 | 51 26.8 | 136 71.6 |

さらに、多言語生活情報の資料収集をしている施設に限定して、どのようにして多言語生活情報の資料を入手しているかたずねた。すべての施設について集計したところ、「発行元から送付される」とした施設が、全体の23.7%と最も多かった。ついで、

第1章 社会教育施設等調査結果

「関係団体や人を通じて入手」する施設が12.6%、「書店を通じて購入」、及び「必要に応じて発行元に請求」する施設が、それぞれ8%程度であった。

表3-2-2 注 文しなくても発行元から送付(施設別)

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と むかいどう 無回答 | 合計 |
|----------|------------|-----------|----------------------|------------|
| 図書館 | 26 42.6 | 5 8.2 | 30 49.2 | 61 100 |
| 公民館 | 11 10.3 | 1 0.9 | 95 88.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 3 20.0 | 2 13.3 | 10 66.7 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 5 71.4 | 1 14.3 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 45 23.7 | 9 4.7 | 136 71.6 | 190 100 |

つぎに、施設別の傾向について確認する。「注 文しなくても発行元から送付」してもらった施設は、国際交流ラウンジでは7割を超え、図書館でも4割がこうした形で多言語生活資料を入手している。

「関係団体や人を通じて入手」している施設は、国際交流ラウンジでは選択率が5割と他施設と比べて高い。他方で、図書館では2割台弱となっている。国際交流協会では、3割程度の施設がこうした形で資料入手を行っている。「必要に応じて発行元に請求」している施設は、国際交流ラウンジで最も高いが、図書館、国際交流協会では、選択率が低い。「資料交換を通じて入手」するとの回答は、国際交流ラウンジで2割、国際交流協会で1割の選択率だが、図書館と公民館では、こうしたやり方で資料収集を行うところは皆無である。「書店を通じて購入」する施設は、国際交流ラウンジの選択率が最も高いが、図書館でも2割程度の図書館が、多言語の資料を書店を通じて購入している、と回答する。公民館については、全体的に多言語生活情報の資料収集をしていないため、入手方法に関するいずれの項目についても、選択率が低い傾向が見られた。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-2-3 かんけいだんたい ひと つう にゆうしゅ
関係団体や人を通じて入手

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 — | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としょかん 図書館 | 11 18.0 | 20 32.8 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 4 3.7 | 8 7.5 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流 きょうかい 協会 | 5 33.3 | 0 0.0 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流ラウ ンジ | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 24 12.6 | 30 15.8 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう 表 3-2-4 ひつよう おう はっこうもと せいきゆう
必要に応じて発行元に請求

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 — | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としょかん 図書館 | 7 11.5 | 24 39.3 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 2 1.9 | 10 9.3 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流 きょうかい 協会 | 3 20.0 | 2 13.3 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流ラウ ンジ | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 16 8.4 | 38 20.0 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう 表 3-2-5 しりょうこうかん つう にゆうしゅ
資料交換を通じて入手

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 — | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としょかん 図書館 | 0 0.0 | 31 50.8 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 12 11.2 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流 きょうかい 協会 | 2 13.3 | 3 20.0 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流ラウ ンジ | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 4 2.1 | 50 26.3 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう 表 3-2-6 しょてん つう こうにゅう
書店を通じて購入

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 — | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としょかん 図書館 | 14 23.0 | 17 27.9 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 12 11.2 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流 きょうかい 協会 | 1 6.7 | 4 26.7 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさい 国際 こうりゅう 交流ラウ ンジ | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 17 8.9 | 37 19.5 | 136 71.6 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 3-2-7 そのた

| | せんたく 選 択 ○ | ひせんたく 非選 択 — | ひがいと 非 該 当 と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|-------------------------------|------------------|--------------------|---------------------------------|-------------|
| としよかん 図 書 館 | 1 1.6 | 30 49.2 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公 民 館 | 1 0.9 | 11 10.3 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国 際 交 流 協 会 | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国 際 交 流 ラウ ン ジ | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 3 1.6 | 51 26.8 | 136 71.6 | 190 100 |

【問 3-3】 貴協会（ラウンジ）には、多言語生活情報を提供するコーナーがありますか。（国際交流協会、国際交流ラウンジに限定した質問）

ひょう 表 3-3-1 たげんごせいかつじょうほう ていきょう せっち うむ 多言語生活情報の提供コーナーの設置の有無

| | せっち 設 置 | みせっち 未 設 置 | ひがいと 非 該 当 と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|-------------------------------|------------|---------------|---------------------------------|-------------|
| こくさいこうりゅうきょうかい 国 際 交 流 協 会 | 4 26.7 | 1 6.7 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国 際 交 流 ラウ ン ジ | 7 100 | 0 0.0 | 0 0 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 11 50.0 | 1 4.5 | 10 45.5 | 22 100 |

注) 国際交流協会と国際交流ラウンジに限定

国際交流協会と国際交流ラウンジについては、多言語生活情報を提供するコーナーの有無についてたずねた。国際交流ラウンジでは、全ラウンジで多言語生活情報の提供コーナーが設置されている。国際交流協会では、多言語生活情報提供コーナーの設置率は3割弱となっている。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問3-4】 多言語生活情報資料の配置場所について、該当する番号に○をしてください。(複数選択可) (図書館に限定した質問)

表3-4-1 多言語生活情報資料の配置場所

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と 無回答 | 合計 |
|--------------|------------|------------|-------------|-----------|
| 外国語資料コーナー等 | 25 41.0 | 6 9.8 | 30 49.2 | 61 100 |
| 郷土・地域資料コーナー等 | 16 26.2 | 15 24.6 | 30 49.2 | 61 100 |
| 雑誌・新聞コーナー | 10 16.4 | 21 34.4 | 30 49.2 | 61 100 |
| その他 | 4 6.6 | 27 44.3 | 30 49.2 | 61 100 |

注) 図書館に限定

多言語生活資料の配置場所については、図書館に限定して質問を行った。最も選択率が高かったのが、外国語資料コーナー等に設置しているという回答であり、全体の41.0%であった。ついで、郷土・地域資料コーナー等の26.2%、雑誌・新聞コーナーの16.4%であった。

【問3-5】 貴館では、多言語生活情報を利用者に提供するために、どのような工夫をしていますか。該当する番号に○をしてください。(複数選択可)

表3-5-1 「目につくところに並べている」

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と 無回答 | 合計 |
|----------|------------|------------|-------------|------------|
| 図書館 | 15 24.6 | 16 26.2 | 30 49.2 | 61 100 |
| 公民館 | 8 7.5 | 4 3.7 | 95 88.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 4 26.7 | 1 6.7 | 10 66.7 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 33 17.4 | 21 11.1 | 136 71.6 | 190 100 |

表3-5-2 「情報誌などに掲載して紹介している」

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と 無回答 | 合計 |
|----------|-----------|------------|-------------|------------|
| 図書館 | 1 1.6 | 30 49.2 | 30 49.2 | 61 100 |
| 公民館 | 0 0.0 | 12 11.2 | 95 88.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 3 42.9 | 3 42.9 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 4 2.1 | 50 26.3 | 136 71.6 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう
表 3-5-3 「ホームページに掲載して紹介」

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 ー | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としよかん 図書館 | 0 0.0 | 31 50.8 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 12 11.2 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 きょうかい 協会 | 2 13.3 | 3 20.0 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 ラウンジ | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 6 3.2 | 48 25.3 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう
表 3-5-4 「使いやすい分類の工夫をしている」

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 ー | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としよかん 図書館 | 9 14.8 | 22 36.1 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 12 11.2 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 きょうかい 協会 | 2 13.3 | 3 20.0 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 ラウンジ | 3 42.9 | 3 42.9 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 14 7.4 | 40 21.1 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう
表 3-5-5 「職員・スタッフを通じて紹介」

| | ひせんたく 非選択 ー | せんたく 選択 ○ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|----------------------------------|-------------------|-----------------|-------------------------------|------------|
| としよかん 図書館 | 17 27.9 | 14 23.0 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 8 7.5 | 4 3.7 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 きょうかい 協会 | 3 20.0 | 2 13.3 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 ラウンジ | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 28 14.7 | 26 13.7 | 136 71.6 | 190 100 |

ひょう
表 3-5-6 「その他」

| | せんたく 選択 ○ | ひせんたく 非選択 ー | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|
| としよかん 図書館 | 3 4.9 | 28 45.9 | 30 49.2 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 2 1.9 | 10 9.3 | 95 88.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 きょうかい 協会 | 1 6.7 | 4 26.7 | 10 66.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流 ラウンジ | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 7 3.7 | 47 24.7 | 136 71.6 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの提供ていきょうにあたって、いかなる工夫くふうをしているかについてたずねた。全体の傾向せんたいでは、「目につくところに並べている」という回答かいとうが最も選択率せんたくりつが高く、17.4%、ついで「職員・スタッフしよくいんを通じて紹介しょうかいしている」が、13.7%であった。

施設別しせつべつの傾向けいこうについてみる。国際交流ラウンジこくさいこうりゅうでは、いずれも選択率せんたくりつが高い傾向けいこうが見られた。目につくところに並べたり、使いやすい分類ぶんるいの工夫くふうをしたり、ホームページホームページに掲載けいさいして紹介しょうかいしたり、情報誌じょうほうしに掲載けいさいして紹介しょうかいしたり、職員・スタッフしよくいんを通じて紹介しょうかいしたりなど、いずれの項目こうもくについても選択率せんたくりつが高く、多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの提供ていきょうにあたり、さまざまな工夫くふうが行われていることがうかがえる。国際交流協会こくさいこうりゅうかいでは、情報誌じょうほうしなどの媒体ばいたいを通じて広報こうほうはあまり行われていないものの、それ以外の項目けいがいこうもくについては、情報提供じょうほうていきょうの工夫くふうが行われている。

図書館としょかんの場合は、目につくところに並べたり、職員・スタッフしよくいんを通じて紹介しょうかいするという点てんでは、他の項目たこうもくと比べて選択率せんたくりつは高いが、情報誌じょうほうしやホームページホームページなどに掲載けいさいして紹介しょうかいするという工夫くふうはあまり行われていない。公民館こうみんかんについては、非該当ひがいたうが多いため、いずれも選択率せんたくりつは低い。該当するケースに限定げんていして考えると、目につくところに並べたり、職員・スタッフしよくいんを通じて紹介しょうかいするという工夫くふうが行われている。

(3) 施設の多言語対応しせつ たげんごたいおう (【問4】～【問4-4】)

【問4】 貴館きかんには、多言語表記たげんごひょうきの利用案内書りようあんないしょや館内掲示かんにけいじがありますか。

表4-1 「多言語表記の利用案内書や館内掲示の有無」(施設別)

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|------------|-------------|-----------|------------|
| 図書館 | 26 42.6 | 26 42.6 | 9 14.8 | 61 100 |
| 公民館 | 13 12.1 | 92 86.0 | 2 1.9 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 2 13.3 | 13 86.7 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 5 71.4 | 1 14.3 | 1 14.3 | 7 100 |
| 合計 | 46 24.2 | 132 69.5 | 12 6.3 | 190 100 |

以下いかでは、調査対象ちようさたいしょうとなった施設しせつにおける多言語表記たげんごひょうきの案内あんないや館内掲示かんにけいじの状況じょうきょうについて調査結果ちようさけつこを報告ほうこくする。調査対象施設ちようさたいしょうしせつでの多言語表記たげんごひょうきの利用案内書りようあんないしょや館内掲示かんにけいじの有無うむについてたずねたところ、そうした対応たいおうをしている施設しせつは、全体ぜんたいでは24.2%。施設別しせつべつにみると、図書館としょかんで42.6%、公民館こうみんかんで12.1%、国際交流協会こくさいこうりゅうかいで13.3%、国際交流ラウ

第1章 社会教育施設等調査結果

ンジで71.4%であった。

図書館と公民館についてはさらに外国籍住民の集住度別の対応についてみてみた。

表 4-2 「多言語表記の利用案内書や館内掲示の有無」(集住度別)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|-----------------|------------|------------|--------------|------------|
| ひくい 低 | 6 24.0 | 18 72.0 | 1 4.0 | 25 100 |
| ちゅう 中 | 10 62.5 | 3 18.8 | 3 18.8 | 16 100 |
| たかい 高 | 5 50.0 | 2 20.0 | 3 30.0 | 10 100 |
| とても たかい 高 | 5 50.0 | 3 30.0 | 2 20.0 | 10 100 |
| ごうけい 合計 | 26 42.6 | 26 42.6 | 9 14.8 | 61 100 |

注) 図書館に限定

表 4-3 「多言語表記の利用案内書や館内掲示の有無」(集住度別)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|-----------------|------------|------------|--------------|------------|
| ひくい 低 | 1 3.8 | 25 96.2 | 0 0.0 | 26 100 |
| ちゅう 中 | 2 10.5 | 16 84.2 | 1 5.3 | 19 100 |
| たかい 高 | 8 17.8 | 36 80.0 | 1 2.2 | 45 100 |
| とても たかい 高 | 2 11.8 | 15 88.2 | 0 0.0 | 17 100 |
| ごうけい 合計 | 13 12.1 | 92 86.0 | 2 1.9 | 107 100 |

注) 公民館に限定

図書館の結果を見ると、集住度の低い地域に所在する図書館では、多言語表記があまり行われていない。しかし、集住度が中程度以上の図書館では、5割から6割程度の図書館が多言語対応を行っている。公民館では、多言語表記の取り組みは、集住度にかかわらず全般的に行われていない傾向が読みとれる。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問4-1】 「はい」の場合、該当する番号に○をして下さい。

ひょう 表 4-1-1 「多言語表記の利用案内書」(図書館)

| | ある | ない | 計 画 中 | 非該当と無回答 |
|-----------|------------|-----------|----------|------------|
| 中 国 語 | 6 9.8 | 6 9.8 | 0 0.0 | 49 80.3 |
| 韓 国・朝 鮮 語 | 6 9.8 | 6 9.8 | 0 0.0 | 49 80.3 |
| ポルトガル語 | 1 1.6 | 9 14.8 | 0 0.0 | 51 83.6 |
| スペイン語 | 1 1.6 | 9 14.8 | 0 0.0 | 51 83.6 |
| タガログ語 | 1 1.6 | 9 14.8 | 0 0.0 | 51 83.6 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 9 14.8 | 0 0.0 | 52 85.2 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 9 14.8 | 0 0.0 | 52 85.2 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| タイ語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| 英 語 | 26 42.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 35 57.4 |
| インドネシア語 | 1 1.6 | 7 11.5 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| 平易な日本語 | 2 3.3 | 6 9.8 | 1 1.6 | 52 85.2 |
| その他 | 1 1.6 | 7 11.5 | 0 0.0 | 53 86.9 |

次に、多言語表記の利用案内書や館内掲示を行っている団体に限定して、具体的にそれらをどの言語で実施しているかたずねた。図書館については、多言語表記の利用案内書の場合、英語に集中しており、非該当も含めると42.6%の図書館が英語での利用案内書の作成を行っている。その他の言語については、中国語と韓国・朝鮮語では9.8%がおこなっているが、それ以外の言語での利用案内書の作成を行っている施設は非常に少ない。ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、インドネシア語では、1施設のみであり、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、タイ語では、そうした言語を用いた利用案内書の作成

第1章 社会教育施設等調査結果

を行っているところは1つも見られない。平易な日本語も選択率が低く、3.3 %にとどまる。

表 4-1-2 多言語表記の館内掲示 (図書館)

| | ある | ない | 計画中 | 非該当と無回答 |
|---------|----------|-----------|----------|------------|
| 中国語 | 0 0.0 | 9 14.8 | 0 0.0 | 52 85.2 |
| 韓国・朝鮮語 | 0 0.0 | 9 14.8 | 0 0.0 | 52 85.2 |
| ポルトガル語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| スペイン語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 8 13.1 | 0 0.0 | 53 86.9 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 7 11.5 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 7 11.5 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| タイ語 | 0 0.0 | 7 11.5 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| 英語 | 4 6.6 | 9 14.8 | 0 0.0 | 48 78.7 |
| インドネシア語 | 1 1.6 | 6 9.8 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| 平易な日本語 | 1 1.6 | 6 9.8 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| その他 | 1 1.6 | 6 9.8 | 0 0.0 | 54 88.5 |

多言語表記の館内掲示については、全般的に、利用案内書の作成よりも選択率が低い。利用案内書の場合、英語の選択率は42.6 %と高かったが、館内掲示は6.6 %にとどまる。その他の言語については、インドネシア語、平易な日本語、その他で1件ずつ選択されているが、それ以外の言語では、選択数がいずれも「0」という状況であった。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 4-1-3 「多言語表記の利用案内書」(公民館)

| | ある | ない | 計画中 | 非該当と 無回答 |
|---------|----------|----------|----------|-------------|
| 中国語 | 1 0.9 | 9 8.4 | 1 0.9 | 96 89.7 |
| 韓国・朝鮮語 | 9 8.4 | 1 0.9 | 1 0.9 | 96 89.7 |
| ポルトガル語 | 2 1.9 | 9 8.4 | 0 0.0 | 96 89.7 |
| スペイン語 | 2 1.9 | 9 8.4 | 1 0.9 | 95 88.8 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| タイ語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| 英語 | 9 8.4 | 1 0.9 | 1 0.9 | 96 89.7 |
| インドネシア語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| 平易な日本語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| その他 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |

次に、多言語表記の館内掲示と利用者案内書にかかわる公民館の結果をみる。多言語表記の利用案内書については、英語と韓国・朝鮮語の選択率が同じである点が、注目される。それ以外の項目の選択率については、一律に低い。ポルトガル語とスペイン語で1.9%であるほか、中国語で0.9%である。それ以外の言語については、いずれの公民館も利用案内書を作成していない。中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語では、計画中の公民館が1件ずつ存在する。館内表示については、英語、ポルトガル語、スペイン語の館内表示があるが、その他の言語では作成されていない。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 4-1-4 たげんごひょうき かんないけいじ こうみんかん
多言語表記の館内掲示(公民館)

| | ある | ない | 計画中 | 非該当と 無回答 |
|-----------------------|----------|----------|----------|-------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| かんこく ちょうせんご 韓国・朝鮮語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| ポルトガル語 | 1 0.9 | 9 8.4 | 0 0.0 | 97 90.7 |
| スペイン語 | 1 0.9 | 9 8.4 | 0 0.0 | 97 90.7 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| タイ語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| えいご 英語 | 2 1.9 | 8 7.5 | 0 0.0 | 97 90.7 |
| インドネシア語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| へいひ ほんご 平易な日本語 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 9 8.4 | 0 0.0 | 98 91.6 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 4-1-5 「多言語表記の利用案内書」
(国際交流協会)

| | ある | ない | けいかく 計 画 ちゅう 中 | ひがいと 非該当と むかいと 無回答 |
|------------------------------|-----------|----------|-------------------------|-----------------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| かんこく 韓国・ ちようせんご 朝鮮語 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| ポルトガル語 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| スペイン語 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| タガログ語 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| タイ語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| えいご 英語 | 2 13.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 13 86.7 |
| インドネシア 語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| へいひ 平易な にほんご 日本語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |

ひょう 表 4-1-6 「多言語表記の館内掲示」
(国際交流協会)

| | ある | ない | けいかく 計 画 ちゅう 中 | ひがいと 非該当と むかいと 無回答 |
|------------------------------|-----------|----------|-------------------------|-----------------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| かんこく 韓国・ ちようせんご 朝鮮語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| ポルトガル語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| スペイン語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| タイ語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| えいご 英語 | 2 13.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 13 86.7 |
| インドネシア 語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| へいひ 平易な にほんご 日本語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 15 100.0 |

つぎに国際交流協会の結果をみると、図書館・公民館に比べ、選択されている言語の数が多。英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語で、利用案内書の作成が行われている。館内掲示については、英語のみで館内掲示が行われ、その他の言語では行われていない。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 4-1-7 「多言語表記の利用案内書」
(国際交流ラウンジ)

| | ある | ない | けいかく 計 画 中 | ひがいと 非該当と 無回答 |
|---------------------------|-----------|-----------|------------------|---------------------|
| ちゅうごくご 中 国語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| かんこく・ ちようせんご 朝 鮮語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| ポルトガル語 | 3 42.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 4 57.1 |
| スペイン語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| タガログ語 | 2 28.6 | 1 14.3 | 0 0.0 | 4 57.1 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 1 14.3 | 5 71.4 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| タイ語 | 2 28.6 | 1 14.3 | 0 0.0 | 4 57.1 |
| えいご 英 語 | 5 71.4 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 28.6 |
| インドネシア ご 語 | 2 28.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 5 71.4 |
| へいひ 平易な にほんご 日本語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| そのた その他 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |

ひょう 表 4-1-8 「多言語表記の館内掲示」
(国際交流ラウンジ)

| | ある | ない | けいかく 計 画 中 | ひがいと 非該当と 無回答 |
|---------------------------|-----------|-----------|------------------|---------------------|
| ちゅうごくご 中 国語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| かんこく・ ちようせんご 朝 鮮語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| ポルトガル語 | 2 28.6 | 1 14.3 | 0 0.0 | 4 57.1 |
| スペイン語 | 4 57.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 3 42.9 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| タイ語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| えいご 英 語 | 5 71.4 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 28.6 |
| インドネシア ご 語 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| へいひ 平易な にほんご 日本語 | 3 42.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 4 57.1 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |

国際交流ラウンジでは、多言語での利用案内書の作成、館内掲示が、他の施設と比較して相対的により多くの言語で行われている。利用案内書の作成では、英語の選択率が最も高く、ついで、平易な日本語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語が半数以上の施設で選択されている。ポルトガル語、タガログ語、タイ語、インドネシア語も複数の施設で作成が行われている。カンボジア語、ラオス語については、これらの言語で利用案内書を作成する施設は見られない。ベトナム語の利用案内書作成を計画中のラウンジが1館ある。館内掲示についても、英語が最も選択率が高いが、ついで中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語となっている。平易な日本語やポルトガル語での館内掲示も行われている。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問4-2】 貴館が、利用者に対して多言語表記で対応している理由をお聞かせください。該当する番号に○をしてください。(複数回答可)

さらに、多言語表記の利用案内書や館内掲示を行っている施設に限定して、利用者に向けて多言語表記で対応する理由についてたずねた。その結果、「その言語で作成できる人材がいるため」「館の方針であるため」といった回答は、国際交流ラウンジを除いてそれほど多くなく、どちらかという利用者ニーズに「利用者ニーズに「国際交流ラウンジで最も高く71.4%、ついで図書館の37.7%、公民館と国際交流協会は、それぞれ12.1%と13.3%であった。

表4-2-1 「利用者のニーズに「国際交流ラウンジで最も高く71.4%、ついで図書館の37.7%、公民館と国際交流協会は、それぞれ12.1%と13.3%であった。

| | 選択 | | 非該当と 無回答 | 合計 |
|--------------|------------|---------|-------------|------------|
| | ○ | — | | |
| 図書館 | 23 37.7 | 3 .9 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 13 12.1 | 0 .0 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 2 13.3 | 0 .0 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 5 71.4 | 0 .0 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 43 22.6 | 3 .6 | 144 75.8 | 190 100 |

表4-2-2 「その言語で作成できる人材がいるため」

| | 選択 | | 非該当と 無回答 | 合計 |
|--------------|-----------|------------|-------------|------------|
| | ○ | — | | |
| 図書館 | 1 1.6 | 25 41.0 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 0 0.0 | 13 12.1 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 0 0.0 | 2 13.3 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 3 42.9 | 2 28.6 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 4 2.1 | 42 22.1 | 144 75.8 | 190 100 |

表4-2-3 「館の方針であるため」(施設別)

| | 選択 | | 非該当と 無回答 | 合計 |
|--------------|-----------|------------|-------------|------------|
| | ○ | — | | |
| 図書館 | 4 6.6 | 22 36.1 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 0 0.0 | 13 12.1 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 1 6.7 | 1 6.7 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 2 28.6 | 3 42.9 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 7 3.7 | 39 20.5 | 144 75.8 | 190 100 |

表4-2-4 「その他」(施設別)

| | 選択 | | 非該当と 無回答 | 合計 |
|--------------|----------|-----------|-------------|------------|
| | ○ | — | | |
| 図書館 | 3 4.9 | 23 7.7 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 0 0.0 | 13 2.1 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 0 0.0 | 2 3.3 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 0 0.0 | 5 1.4 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 3 1.6 | 43 2.6 | 144 75.8 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

他の項目については、国際交流ラウンジの選択率が高い。「その言語で作成できる人材がいるため」は42.9%、「館の方針であるため」は28.6%のラウンジが、それらを理由として、多言語表記での対応を行っている。

【問4-4】 多言語表記の案内や掲示等を、どのような方法で作りましたか。
該当する番号に○をしてください。(複数選択可)

表4-4-1 「当該言語を理解し書くことのできる日本人に依頼した」(施設別)

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と むかいとう 無回答 | 合計 |
|--------------|------------|------------|----------------------|------------|
| 図書館 | 13 21.3 | 13 21.3 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 9 8.4 | 4 3.7 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 1 6.7 | 1 6.7 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 27 14.2 | 19 10.0 | 144 75.8 | 190 100 |

表4-4-2 「当該言語を母語とする外国人に依頼した」(施設別)

| | 選択 ○ | 非選択 — | 非該当と むかいとう 無回答 | 合計 |
|--------------|------------|------------|----------------------|------------|
| 図書館 | 5 8.2 | 21 34.4 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 10 9.3 | 3 2.8 | 94 87.9 | 107 100 |
| 国際交流 協会 | 0 0.0 | 2 13.3 | 13 86.7 | 15 100 |
| 国際交流 ラウンジ | 4 57.1 | 1 14.3 | 2 28.6 | 7 100 |
| 合計 | 19 10.0 | 27 14.2 | 144 75.8 | 190 100 |

多言語表記の案内や掲示等をどのような方法で作成したかについてたずねた。回答が最も集中したのは、「日本人に依頼した」であった。国際交流ラウンジでは57.1%、図書館では21.3%がこれを選択した。非該当を除いて考えてみると、国際交流ラウンジ、図書館、公民館ともに、半数以上が日本人に依頼したと回答している。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 4-4-3 「翻訳会社に依頼した」(施設別)

| | せんたく 選 択 ○ | ひせんたく 非選 択 — | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|------------------------------------|------------------|--------------------|------------------------------|-------------|
| としょかん 図書館 | 1 1.6 | 25 41.0 | 35 57.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 1 0.9 | 12 11.2 | 94 87.9 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 きょうかい 協 会 | 0 0.0 | 2 13.3 | 13 86.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 ラウンジ | 0 0.0 | 5 71.4 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 2 1.1 | 44 23.2 | 144 75.8 | 190 100 |

ひょう 表 4-4-4 「その他」(施設別)

| | せんたく 選 択 ○ | ひせんたく 非選 択 — | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|------------------------------------|------------------|--------------------|------------------------------|-------------|
| としょかん 図書館 | 11 18.0 | 15 24.6 | 35 57.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 2 1.9 | 11 10.3 | 94 87.9 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 きょうかい 協 会 | 1 6.7 | 1 6.7 | 13 86.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 ラウンジ | 0 0.0 | 5 71.4 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 14 7.4 | 32 16.8 | 144 75.8 | 190 100 |

「外国人に依頼した」をみる。同様に非該当を除いて考えると、国際交 流ラウンジと公民館の選択率が比較的高いのにに対し、図書館の比率が「日本人に依頼した」と比べて若干減少していることがわかる。図書館での多言語対応は、「日本人への依頼」と比較して、当該言語を母語とする外国人に依頼する形では、あまり行われていないようである。なお、翻訳会社への依頼は、どの施設でも選択率が低く、あまり行われていない。「その他」については、図書館で選択率が比較的高い傾向が見られた。

【問 4-5】 「いいえ」の場合、その理由をお聞かせください。
該当する番号に○をしてください。(複数回答可)

ひょう 表 4-5-1 「作る必要はあると思うが、

どのように作成したらよいかわからない」(施設別)

| | せんたく 選 択 ○ | ひせんたく 非選 択 — | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|------------------------------------|------------------|--------------------|------------------------------|-------------|
| としょかん 図書館 | 9 14.8 | 17 27.9 | 35 57.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 29 27.1 | 63 58.9 | 15 14.0 | 107 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 きょうかい 協 会 | 3 20.0 | 10 66.7 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 ラウンジ | 0 0.0 | 1 14.3 | 6 85.7 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 41 21.6 | 91 47.9 | 58 30.5 | 190 100 |

ひょう 表 4-5-2 「当該言語で作成できる

人材がない」(施設別)

| | せんたく 選 択 ○ | ひせんたく 非選 択 — | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 | ごうけい 合 計 |
|------------------------------------|------------------|--------------------|------------------------------|-------------|
| としょかん 図書館 | 15 24.6 | 11 18.0 | 35 57.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 44 41.5 | 47 44.3 | 15 14.2 | 106 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 きょうかい 協 会 | 4 26.7 | 9 60.0 | 2 13.3 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交 流 ラウンジ | 0 0.0 | 1 14.3 | 6 85.7 | 7 100 |
| ごうけい 合 計 | 63 33.3 | 68 36.0 | 58 30.7 | 189 100 |

表 4-5-3 「その他」(施設別)

| | 選 択 ○ | 非選 択 — | 非該当と 無回答 | 合 計 |
|---------------|------------|------------|-------------|------------|
| 図書館 | 11 18.0 | 15 24.6 | 35 57.4 | 61 100 |
| 公民館 | 32 29.9 | 60 56.1 | 15 14.0 | 107 100 |
| 国際交 流 協 会 | 8 53.3 | 5 33.3 | 2 13.3 | 15 100 |
| 国際交 流 ラウンジ | 0 0.0 | 1 14.3 | 6 85.7 | 7 100 |
| 合 計 | 51 26.8 | 81 42.6 | 58 30.5 | 190 100 |

最後に、多言語表記の利用案内書や館内表示を特に行っていない施設を対象に、その理由についてたずねた。「当該言語で作成できる人材がいない」に最も回答が集中している。公民館では、41.5%が、図書館では24.6%が、国際交流協会でも26.7%がこの理由をあげている。国際交流ラウンジでは、多言語表記を行っていない施設は1館のみ。

「どのように作成したらよいか分からない」も、公民館、国際交流協会、図書館の順に選択率が高傾向が認められた。「その他」の理由をあげているのでは、国際交流協会でもっとも高かった。具体的な内容としては、「作る必要はあると思うが他の仕事に比して優先順位を高められない」、「施設がない」、「ニーズがない」、「ニーズの把握ができない」など。

2. 外国語図書の所蔵・利用状況

【問5】 貴館で所蔵する外国語図書の冊数について、該当すると思われる番号に○をして下さい。(わかる範囲でお答えください)

調査対象となった施設が保有する外国語図書の冊数について、たずねた。施設別にみると、次の結果になった。公民館で、外国語図書の冊数が最も少なく、0冊が43.9%、無回答が49.5%であり、1冊以上はあると回答した館は6.5%となった。国際交流協会では、0冊と無回答を合わせて8割を占めるが、501冊以上外国語図書を所蔵するところが2館あった。国際交流ラウンジでは、0冊という回答が一つもなく、何らかの形で外国語図書を所蔵している。図書館における外国語図書の所蔵数は、回答傾向の分散が大きい。100冊以下の館が19.7%ある一方で、1001冊以上という館が34.4%存在する。

このように図書館では、分散傾向が大きいので、さらに外国籍住民の集住度別に検討

第1章 社会教育施設等調査結果

してみた。各セルの頻度が少ないけれども、大まかな傾向として、集住度の高い地域に位置する図書館ほど、外国語図書の冊数が多い傾向が認められる。集住度の低い地域では、501冊以上所蔵する図書館が28%程度にとどまっているが、集住度が中程度の場合、93.8%が、集住度が高い場合ととても高い場合は、70%の図書館が、501冊以上の外国語図書を所蔵している。

ひょう 表 5-1 「施設で所蔵する外国語図書の冊数」(施設別)

| | 0冊 | 1～ 100冊 | 101～ 200冊 | 201～ 500冊 | 501～ 1000冊 | 1001 冊以上 | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--------------------------|------------|------------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|------------|
| としよかん 図書館 | 3 4.9 | 9 14.8 | 2 3.3 | 7 11.5 | 15 24.6 | 21 34.4 | 4 6.6 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 47 43.9 | 6 5.6 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 53 49.5 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 3 20.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 1 6.7 | 9 60.0 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 0 0.0 | 4 57.1 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 53 27.9 | 20 10.5 | 4 2.1 | 7 3.7 | 16 8.4 | 23 12.1 | 67 35.3 | 190 100 |

【問6】 上記外国語図書について、言語別、一般書／児童書の内訳が分かればお答えください(下記表「6-1～6-4」では、一般書と児童書を合算した総数を記載している)。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 6-1 がいこくごとしょ げんごべつさう としよかん
外国語図書の言語別冊数 (図書館)

| | 0 | 1-9 | 10-49 | 50-99 | 100-299 | 300-999 | 1000- | むかいとう 無回答 |
|-----------------------------|----------|------------|------------|----------|-----------|------------|------------|--------------|
| ちゅうごくご 中 国語 | 0 0 | 10 16.4 | 15 24.6 | 1 1.6 | 2 3.3 | 4 6.6 | 4 6.6 | 25 41.0 |
| かんこく・ ちょうせんご 朝 鮮語 | 1 1.6 | 9 14.8 | 15 24.6 | 3 4.9 | 3 4.9 | 3 4.9 | 1 1.6 | 26 42.6 |
| ポルト ガル語 | 2 3.3 | 10 16.4 | 8 13.1 | 0 0.0 | 3 4.9 | 1 1.6 | 0 0.0 | 37 60.7 |
| スベ イ ン語 | 0 0.0 | 15 24.6 | 12 19.7 | 0 0.0 | 3 4.9 | 3 4.9 | 0 0.0 | 28 45.9 |
| タガロ グ語 | 2 3.3 | 5 8.2 | 1 1.6 | 1 1.6 | 0 0.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 51 83.6 |
| ベトナ ム語 | 3 4.9 | 9 14.8 | 1 1.6 | 1 1.6 | 0 0.0 | 1 1.6 | 0 0.0 | 46 75.4 |
| カンボ ジア語 | 3 4.9 | 9 14.8 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 49 80.3 |
| ラオス語 | 3 4.9 | 6 9.8 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 52 85.2 |
| タイ語 | 2 3.3 | 13 21.3 | 1 1.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 45 73.8 |
| えいご 英語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.6 | 5 8.2 | 7 11.5 | 18 29.5 | 13 21.3 | 17 27.9 |
| インド ネシア語 | 3 4.9 | 4 6.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 54 88.5 |
| へい い な にほんご 日本語 | 3 4.9 | 1 1.6 | 1 1.6 | 1 1.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 55 90.2 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 1 1.6 | 13 21.3 | 6 9.8 | 6 9.8 | 2 3.3 | 2 3.3 | 31 50.8 |

としよかん けいこう おお み だい としよかん ゆう がいこくごとしょ
図書館についての傾向を大まかに見てみよう。第1に、図書館が有する外国語図書は、
えいご しゅうちゅう かくにん いがい げんご ちゅうごくご かんこく ちょうせんご
英語に集中していることが確認できる。それ以外の言語では、中国語、韓国・朝鮮語、
ご しょぞう としよかん いっていすうせんざい ほんざつ さ
スペイン語について、所蔵する図書館が一定数存在する（なお、煩雑さを避けるため、
いっばんしよ じどうしよ うちわけ しょうりやく
一般書、児童書の内訳については省略した）。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう
表 6-2 がいこくごとしょ げんごべつさつすう こうみんかん
外国語図書についての言語別冊数(公民館)

| | 0 | 1-9 | 10-49 | 50-99 | 100-299 | 300-999 | 1000- | むかいどう 無回答 |
|-------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 0 0.0 | 2 1.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 104 97.2 |
| かんこく・ ちょうせんご 韓国・ 朝鮮語 | 0 0.0 | 2 1.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 104 97.2 |
| ポルト ガル語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 105 98.1 |
| スペイ ン語 | 0 0.0 | 2 1.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 104 97.2 |
| タガロ グ語 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 |
| ベトナ ム語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 |
| カンボ ジア語 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 |
| ラオス語 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 |
| タイ語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 |
| えいご 英語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 3 2.8 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 101 94.4 |
| インド ネシア語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 105 98.1 |
| へいひ にほんご 平易な 日本語 | 1 0.9 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 105 98.1 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 1 0.9 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 105 98.1 |

こうみんかん
公民館については、えいご
英語が5%程度
ていど
の館で1冊以上
かん
でも所蔵して
さつじょう
いると回答
しよぞう
している
かいどう
が、そのた
げんご
他の言語
たいはん
については
かん
大半の館が、
がいこくごとしょ
いづれの外国
しよぞう
語図書も所蔵
していない
こと
と答えて
いる。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 6-3 がいこくごとしよ げんごべつさつすう こくさいこうりゅうきょうかい
 外国語図書についての言語別冊数(国際交流協会)

| | 0 | 1-9 | 10-49 | 50-99 | 100-299 | 300-999 | 1000- | むかいとう 無回答 |
|---------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------------|
| ちゅうごくご 中 国語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| かんこく・ ちょうせんご 朝 鮮語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| ポルト ガル語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| スペイ ン語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| タガロ グ語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| ベトナ ム語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| カンボ ジア語 | 1 0.9 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| タイ語 | 0 0.0 | 1 0.9 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| えいご 英語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 13 86.7 |
| インド ネシア語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| へいひ 平易な にほんご 日本語 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 14 93.3 |
| そのた その他 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 6.7 | 0 0.0 | 14 93.3 |

こくさいこうりゅうきょうかい 国 際 交 流 協 会 については、えいご 英 語 を 所 蔵 する 施設 が 2 ケ 所 ある の み で あり、そのた 其 他 の げんご 言 語 については、いづれも 1 ケ 所 の 施設 が 所 蔵 して いる と 回答 して いる。

第1章 社会教育施設等調査結果

国際交流ラウンジについても、外国語図書^{がいこくごとしょ}を所蔵^{しよぞう}する施設^{しせつ}は、おおむねどの言語^{げんご}も1つの館にとどまっている。蔵書数^{ぞうしよすう}は、図書館^{としよかん}と比較^{ひかく}すると、各言語^{かくげんご}ともに少ない^{すく}。

表 6-4 外国語図書^{がいこくごとしょ}についての言語別冊数^{げんごべつさつすう} (国際交流ラウンジ^{こくさいこうりゅう})

| | 0 | 1-9 | 10-49 | 50-99 | 100-299 | 300-999 | 1000- | むかいとう 無回答 |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|--------------|
| 中国語 ^{ちゆうごくご} | 1 14.3 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 5 71.4 |
| 韓国・朝鮮語 ^{かんこく・ちようせんご} | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| ポルトガル語 ^{ポルトガルご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| スペイン語 ^{スペインご} | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| タガログ語 ^{タガログご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| ベトナム語 ^{ベトナムご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| カンボジア語 ^{カンボジアご} | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100.0 |
| ラオス語 ^{ラオスご} | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100.0 |
| タイ語 ^{タイご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| 英語 ^{えいご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 5 71.4 |
| インドネシア語 ^{インドネシアご} | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| 平易な日本語 ^{へいひにほんご} | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 6 85.7 |
| その他 ^{そのた} | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 6 85.7 |

【問7】 ここ1ヶ月の外国人の外国語図書の利用者数についてお聞きします。
 (印象でけっこうです。該当すると思われる番号に1つだけ○をして
 ください)

表7-1 ここ1ヶ月の外国人の外国語図書の利用者数

| | 非常に 多い | どちらかと いえば多い | どちらかと いえば少ない | 非常に 少ない | いない | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|---------------|-----------|----------------|-----------------|------------|------------|--------------|------------|
| としよかん 図書館 | 1 1.6 | 5 8.2 | 17 27.9 | 27 44.3 | 8 13.1 | 3 4.9 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 6 5.6 | 21 19.6 | 79 73.8 | 107 100 |
| ごうけい 合計 | 1 0.6 | 6 3.6 | 17 10.1 | 33 19.6 | 29 17.3 | 82 48.8 | 168 100 |

注) 図書館と公民館に限定した質問

ここ1ヶ月の外国人の外国語図書の利用者数についてたずねた。なお、図書館では、多言語生活情報の利用者数も含む形で質問している。公民館では、どちらかといえば多いが0.9%、非常に少ないが5.6%、いないが19.6%と、公民館での外国人による外国語図書の利用はあまり行われていないようである。その理由としては、かりに公民館に外国語図書が所蔵されていても、英語に偏っていること、それ以外の言語があまり所蔵されていないことなどが考えられる。

図書館では、多言語生活情報を含む形で質問しているためか、外国人の利用者数が若干多い。「非常に多い」と「どちらかといえば多い」を合計すると、およそ1割の図書館が、「外国語図書や多言語生活情報に関する外国人の利用が多い」と回答している。しかしながら、44.3%の図書館は、非常に少ないと回答しており、全体的には外国人の利用者はあまり多いとは言えない。

3. 利用者サービス

(1) 外国語図書、多言語生活情報の利用

【問8】 貴館では、利用者が、多言語生活情報を検索する手段は、どのように提供していますか。該当する番号に○をしてください。(複数回答可)

表8-1 多言語生活情報の検索手段の提供

| | 図書館 (N=61) | 国際交流協会 (N=15) | 国際交流 ラウンジ (N=7) |
|-----------------------------|---------------|------------------|--------------------|
| コンピューターの画面で 検索可能 | 27 44.3 | 1 6.7 | 4 57.1 |
| 冊子体のリストを作り提供 | 7 11.5 | 0 0.0 | 2 28.6 |
| 表紙コピー式リストを 作り提供 | 4 6.6 | 1 6.7 | 1 14.3 |
| カード目録を作り提供 | 7 11.5 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| 何があるか聞かれたら書架 を直接見てもらっている | 31 50.8 | 1 6.7 | 6 85.7 |
| 検索資料は特に 提供していない | 16 26.2 | 10 66.7 | 3 42.9 |
| その他 | 2 3.3 | 2 13.3 | 3 42.9 |

注) 各施設の選択率のみを表示した。

公民館では、この質問をしていないため、分析から除外。

各施設が、利用者に対して、どのように多言語生活情報の検索手段を提供しているかをたずねた。図書館、国際交流ラウンジでは、「コンピューターの画面で検索可能」と「直接書架を見てもらう」という回答が多かった。国際交流協会では、「検索資料を特に提供していない」という回答が最も多かった。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問9】 貴館では、外国語図書のうち、どの分野の利用が多いと思いますか。
 (複数回答可) (図書館に限定した質問)

表9-1 外国語図書のうち利用の多い分野 (N=61)

| | | 度数 | パーセント |
|-----|-----------------|-----|-------|
| 一般書 | 日本語学習 | 17 | 8.9 |
| | 自国語(母語)学習 | 1 | 0.5 |
| | 地域の多言語生活情報 | 3 | 1.6 |
| | 実用書(趣味・料理・育児など) | 12 | 6.3 |
| | 小説・随筆(日本語以外が原作) | 35 | 18.4 |
| | 小説・随筆(日本語原作の翻訳) | 6 | 3.2 |
| | 日本文化・歴史の紹介 | 10 | 5.3 |
| その他 | 0 | 0.0 | |
| 児童書 | 絵本 | 49 | 25.8 |
| | ものがたり | 8 | 4.2 |
| | 日本語学習 | 0 | 0.0 |
| | 自国語(母語)学習 | 1 | 0.5 |
| | その他 | 1 | 0.5 |

注) 図書館に限定

各項目についての選択数と選択率を表示

外国語図書について、どの分野の利用が多いかたずねた。一般書では、小説・随筆(日本語以外が原作)が最も多く18.4%、ついで日本語学習の8.9%、実用書(趣味・料理・育児など)の6.3%であった。児童書では、絵本の選択率が高く25.8%、ついで「ものがたり」の4.2%であった。

【問10】 貴ラウンジ（協会）では、多言語生活情報のうちの分野の利用が多い
 と思いますか。該当する番号に○をしてください。（複数回答可）
 （国際交流協会、国際交流ラウンジに限定した質問）

表 10-1 多言語生活情報のうち利用の多い分野

| | 国際交流協会 (N=15) | | 国際交流ラウンジ (N=7) | |
|----------------|------------------|-------|-------------------|-------|
| | 度数 | パーセント | 度数 | パーセント |
| 学校・教育 | 4 | 26.7 | 5 | 71.4 |
| 福祉・保健の手続き | 3 | 20.0 | 4 | 57.1 |
| 暮らしのガイド・ルール | 4 | 26.7 | 5 | 71.4 |
| 保健・医療 | 2 | 13.3 | 4 | 57.1 |
| 外国人相談窓口 | 2 | 13.3 | 4 | 57.1 |
| 住まい | 0 | 0.0 | 3 | 42.9 |
| 日本語学習 | 4 | 26.7 | 0 | 0.0 |
| 外国人支援団体、ボランティア | 1 | 6.7 | 2 | 28.6 |
| 緊急・防災 | 0 | 0.0 | 1 | 14.3 |
| 女性・育児 | 0 | 0.0 | 4 | 57.1 |
| 労働 | 1 | 6.7 | 2 | 28.6 |

注) 国際交流協会、国際交流ラウンジに限定

多言語生活情報の利用の多い分野について、国際交流協会と国際交流ラウンジに
 限定してたずねた。国際交流協会では、比較的選択率が高いのが、「学校・教育」、「暮ら
 しのガイド・ルール」、「日本語学習」の3つであった。国際交流ラウンジでは、「学校
 ・教育」、「福祉・保健の手続き」、「暮らしのガイド・ルール」、「保健・医療」、「外国人
 相談窓口」、「女性・育児」で、選択率が5割を超えていた。「住まい」については、選択率
 が4割を超えていた。調査対象数が少ないため、一概には言えないものの、国際交流ラ
 ウンジでは、こうした各種の多言語生活情報が、利用者に多く利用されていることがう
 かがえる。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問11】 ここ1ヶ月の外国人の多言語生活情報報の利用者数についてお聞きします。
 印象でけっこうです。該当すると思われる番号に1つだけ○をして下さい。
 (国際交流協会、国際交流ラウンジに限定した質問)

国際交流協会と国際交流ラウンジに限定して、多言語生活情報報の利用者数についてたずねた。その結果、国際交流ラウンジでは、すべての施設が、「どちらかといえば多い」と回答しているのに対し、国際交流協会では、「どちらかといえば少ない」、「非常に少ない」という回答が顕著であった。

表 11-1 外国人の多言語生活情報報の利用者数

| | 非常に多い | どちらか といえば 多い | どちらか といえば 少ない | 非常に 少ない | 利用者は いない | 無回答 | 合計 |
|----------|----------|--------------------|---------------------|------------|-------------|-----------|-----------|
| 国際交流協会 | 0 0.0 | 0 0.0 | 4 26.7 | 4 26.7 | 2 13.3 | 5 33.3 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 0 0.0 | 7 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 0 0.0 | 7 31.8 | 4 18.2 | 4 18.2 | 2 9.1 | 5 22.7 | 22 100 |

(2) 集会・行事

【問12】 貴館では、この1年以内に国際交流/国際理解/外国人支援などに関する展示・催し物を主催しましたか。

表 12-1 国際交流等に関する展示・催し物の主催(施設別)

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|------------|-------------|----------|------------|
| 図書館 | 2 3.3 | 59 96.7 | 0 0.0 | 61 100 |
| 公民館 | 26 24.3 | 80 74.8 | 1 0.9 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 11 73.3 | 4 26.7 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 7 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 46 24.2 | 143 75.3 | 1 0.5 | 190 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

この1年以内に国際交流・国際理解・外国人支援などに関する展示・催し物を主催したかどうかについてたずねた。施設別に見ると、図書館では3.3%、公民館では24.3%、国際交流協会では73.3%、国際交流ラウンジでは100%の館が、国際交流等に関する展示・催しを主催している。

公民館について、外国籍住民の集住度別に関連を調べた。その結果、集住度が高いからといって、必ずしも国際交流等に関する展示・催しの開催頻度が高くなるわけではないことが明らかになった。

表12-2 国際交流等に関する展示・催し物の主催 (集住度別、公民館に限定)

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|------|------------|------------|----------|------------|
| 低 | 7 26.9 | 19 73.1 | 0 0.0 | 26 100 |
| 中 | 6 31.6 | 12 63.2 | 1 5.3 | 19 100 |
| 高 | 9 20.0 | 36 80.0 | 0 0.0 | 45 100 |
| とても高 | 4 23.5 | 13 76.5 | 0 0.0 | 17 100 |
| 合計 | 26 24.3 | 80 74.8 | 1 0.9 | 107 100 |

【問12-1】「はい」の場合、頻度のおおよその目安について、該当する番号に○をして下さい。(公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定した質問)

表12-1-1 国際交流等に関する展示・催し物の開催頻度 (施設別)

| | 年に1～数回程度 | 月に1～数回程度 | 週に1～数回程度 | 無回答と非該当 | 合計 |
|----------|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 公民館 | 20 18.7 | 0 0.0 | 6 5.6 | 81 75.7 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 8 53.3 | 1 6.7 | 1 6.7 | 5 33.3 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 1 14.3 | 4 57.1 | 2 28.6 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 29 22.5 | 5 3.9 | 9 7.0 | 86 66.7 | 129 100 |

公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジについては、さらに、国際交流、国際理解、外国人支援などに関する展示・催し物の開催頻度についてたずねた。公民館では、「年に1回から数回程度」という回答が最も多く、18.7%であった。一方で、「週に1回から数回程度」という回答も6個所の施設で見られた。国際交流協会では、「年に1回から数回程度」が最も多かった。国際交流ラウンジでは、「月に1回から数回程度」が最も多かった。

【問13】 貴館では、この1年以内に、国際交流/国際理解/外国人支援を行うボランティア・グループなどに、スペース（規模は問いません）の提供を行いましたか。

表 13-1 国際交流等を行うボランティア・グループへのスペースの提供（施設別）

| | はい | いいえ | 無回答 | 合計 |
|----------|------------|-------------|----------|------------|
| 図書館 | 2 3.3 | 59 96.7 | 0 0.0 | 61 100 |
| 公民館 | 34 31.8 | 70 65.4 | 3 2.8 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 4 26.7 | 11 73.3 | 0 0.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 7 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 47 24.7 | 140 73.7 | 3 1.6 | 190 100 |

国際交流・国際理解・外国人支援を行うボランティア・グループなどに、スペースの提供を行ったかどうかについてたずねた。図書館では3.3%、公民館では31.8%、国際交流協会では26.7%、国際交流ラウンジではすべての施設が、これらの問題に取り組むボランティア・グループに対してスペースの提供を行っている。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問13-1】 「はい」の場合、頻度のおおよその目安について、該当する番号に○をして下さい。(公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定)

表 13-1-1 ボランティア・グループへのスペース提供の頻度(施設別)

| | 年に1～数回程度 | 月に1～数回程度 | 週に1～数回程度 | ほぼ毎日 | 無回答と非該当 | 合計 |
|----------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 公民館 | 16 15.0 | 9 8.4 | 9 8.4 | 0 0.0 | 73 68.2 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 2 13.3 | 1 6.7 | 1 6.7 | 0 0.0 | 11 73.3 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 1 14.3 | 1 14.3 | 2 28.6 | 3 42.9 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 19 14.7 | 11 8.5 | 12 9.3 | 3 2.3 | 84 65.1 | 129 100 |

公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定して、国際交流などの活動に従事するボランティア・グループに対するスペース提供の頻度について、そうした実績のある施設に限定してたずねた。公民館では、年に「1回から数回程度」という回答が最も多く、15.0%であった。国際交流協会も「年に1回から数回程度」が最も多く、13.3%であった。国際交流ラウンジでは、「ほぼ毎日」という回答が最も多く、42.9%であった。

【問14】 ここ1年の外国人の施設の利用者数についてお聞きします。
(印象で結構です。該当すると思われる番号に1つだけ○をして下さい)
(公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定)

表 14-1 外国人の施設の利用者数(施設別)

| | 非常に多い | どちらかといえは多い | どちらかといえは少ない | 非常に少ない | いない | 無回答と非該当 | 合計 |
|----------|-----------|------------|-------------|------------|------------|-----------|------------|
| 公民館 | 1 0.9 | 6 5.6 | 13 12.1 | 49 45.8 | 34 31.8 | 4 3.7 | 107 100 |
| 国際交流協会 | 1 6.7 | 0 0.0 | 2 13.3 | 1 6.7 | 5 33.3 | 6 40.0 | 15 100 |
| 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100 |
| 合計 | 6 4.7 | 9 7.0 | 15 11.6 | 50 38.8 | 39 30.2 | 10 7.8 | 129 100 |

第1章 社会教育施設等調査結果

公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定して、ここ1年の外国人の施設の利用者数についてたずねた。公民館では、「非常に少ない」が最も多く45.8%、ついで「いない」が31.8%であった。国際交流協会では、「いない」が33.3%、「どちらかといえば少ない」が13.3%であった。国際交流ラウンジでは、「非常に多い」が57.1%、「どちらかといえば多い」が42.9%であった。

(2) インターネット環境

【問15】 貴館の情報に関して、多言語で表示されるホームページはありますか。

表 15-1 多言語で表示のホームページの有無（施設別）

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--------------------------|------------|-------------|--------------|------------|
| としよかん 図書館 | 13 21.3 | 48 78.7 | 0 0.0 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 16 15.0 | 88 82.2 | 3 2.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 3 20.0 | 11 73.3 | 1 6.7 | 15 100 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 0 0.0 | 1 14.3 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 38 20.0 | 147 77.4 | 5 2.6 | 190 100 |

多言語で施設の情報を紹介するホームページの有無についてたずねた。その結果、図書館では21.3%、公民館では15.0%、国際交流協会では20.0%、国際交流ラウンジでは85.7%が、こうしたホームページを有していると回答した。

【問15-1】 「はい」の場合、そのメニューについて以下から該当する番号と言語に○をして下さい。

| たいおう 対応してるメニューの範囲 | げんご 言語（あてはまるものに○） |
|------------------------|--------------------------------|
| トップページを含む多くの部分を外国語でも提供 | ちゅう かん 中・韓・ポ・ス・効・ハ・ト・ヲ・カホ・タイ・英 |
| 利用案内の部分を外国語で提供 | ちゅう かん 中・韓・ポ・ス・効・ハ・ト・ヲ・カホ・タイ・英 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 15-1-1 おお 多くの部分を外国語で提供(図書館) ひょう 表 15-1-2 おお 多くの部分を外国語で提供(公民館)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 | | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|-------------------------------|------------|------------|-------------------------------|-------------------------------|------------|------------|-------------------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 | ちゅうごくご 中国語 | 11 10.3 | 5 4.7 | 91 85.0 |
| かんこく・ ちようせんご 韓国・ 朝鮮語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 | かんこく・ ちようせんご 韓国・ 朝鮮語 | 11 10.3 | 5 4.7 | 91 85.0 |
| ポルトガル語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 | ポルトガル語 | 3 2.8 | 13 12.1 | 91 85.0 |
| スペイン語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 | スペイン語 | 3 2.8 | 13 12.1 | 91 85.0 |
| タガログ語 | 0.0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 | タガログ語 | 0.0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| ベトナム語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 | ベトナム語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 | ラオス語 | 0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 | カンボジア語 | 0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| タイ語 | 0.0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 | タイ語 | 0.0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| えいご 英語 | 4 6.6 | 9 14.8 | 48 78.7 | えいご 英語 | 12 11.2 | 4 3.7 | 91 85.0 |

図書館では、21.3%が多言語で表示されるホームページを持つが、そうしたホームページを持つ施設に限定して考えると、英語で提供する施設が最も多く、4施設(6.6%)であった。ついで、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語については、それぞれ2施設(3.3%)が、これらの言語でホームページを作成していた。

公民館では、全体の15.0%が多言語表示のホームページを持っている。これらのうち、英語、中国語、韓国・朝鮮語のホームページを持っている施設は、全体の1割を超えており、英語で11.2%、中国語と韓国・朝鮮語ではそれぞれ10.3%であった。そのほかには、ポルトガル語とスペイン語がそれぞれ2.8%、ベトナム語では0.9%であった。

ただし、図書館、公民館については、行政が一括しておこなっているホームページの多言語化の取り組みによるものもあり、どこまで館独自の取り組みと言えるかは不明である。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 15-1-3 おお 多くの部分を外国語で提供
こくさいこうりゅうきょうかい
 (国際交流協会)

| | はい | いいえ | ひがいと 非該当と むかいと 無回答 |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| かんこく・ ちょうせんご 韓国・ 朝鮮語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| ポルトガル語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| スペイン語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| タガログ語 | 1 6.7 | 2 13.3 | 12 80.0 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| タイ語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| 英語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |

ひょう 表 15-1-4 おお 多くの部分を外国語で提供
こくさいこうりゅう
 (国際交流ラウンジ)

| | はい | いいえ | ひがいと 非該当と むかいと 無回答 |
|-------------------------------|-----------|-----------|-----------------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 |
| かんこく・ ちょうせんご 韓国・ 朝鮮語 | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 |
| ポルトガル語 | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 |
| スペイン語 | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| タイ語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| 英語 | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 |

こくさいこうりゅうきょうかい国際交流協会では、20.0%がたげんご多言語のホームページをも持っているが、13.3%が、えいご英語、ちゅうごくご中国語、かんこく・ちょうせんご韓国・朝鮮語、ポルトガル語ポルトガル語、スペイン語スペイン語でホームページを作成している。また、タガログ語タガログ語については6.7%が提供している。

こくさいこうりゅう国際交流ラウンジでは、7施設のうち6施設でいずれかのがいこくご外国語でのホームページの作成を行っている。そのうち、えいご英語が57.1%、ちゅうごくご中国語とスペイン語スペイン語が28.6%、かんこく・ちょうせんご韓国・朝鮮語とポルトガル語ポルトガル語が14.3%であった。

第1章 社会教育施設等調査結果

今回は、利用案内の部分をどの外国語で提供しているかたずねた。

表 15-1-5 利用案内の部分を外国語で提供
(図書館)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|------------|------------|------------|-------------------------------|
| 中国語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 |
| 韓国・ 朝鮮語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 |
| ポルトガル語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 |
| スペイン語 | 2 3.3 | 11 18.0 | 48 78.7 |
| タガログ語 | 0.0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| ベトナム語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| タイ語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| 英語 | 11 18.0 | 2 3.3 | 48 78.7 |

表 15-1-6 利用案内の部分を外国語で提供
(公民館)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|------------|------------|------------|-------------------------------|
| 中国語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| 韓国・ 朝鮮語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| ポルトガル語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| スペイン語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| タガログ語 | 0.0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| ベトナム語 | 1 0.9 | 15 14.0 | 91 85.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| タイ語 | 0 0.0 | 16 15.0 | 91 85.0 |
| 英語 | 4 3.7 | 12 11.2 | 91 85.0 |

図書館については、英語で提供しているという回答が最も多く18.0%、ついで中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語が3.3%、ベトナム語が1.6%であった。公民館については、英語が3.7%、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語については、それぞれ1施設ずつで、0.9%であった。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう
表 15-1-7 利用案内の部分を外国語で提供
(国際交流協会)

| | はい | いいえ | ひがいと むかいと 無回答 |
|-------------------------------|-----------|-----------|---------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| かんこく・ ちょうせんご 韓国・ 朝鮮語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| ポルトガル語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| スペイン語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |
| タガログ語 | 1 6.7 | 2 13.3 | 12 80.0 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| タイ語 | 0 0.0 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| えいご 英語 | 2 13.3 | 1 6.7 | 12 80.0 |

ひょう
表 15-1-8 利用案内の部分を外国語で提供
(国際交流ラウンジ)

| | はい | いいえ | ひがいと むかいと 無回答 |
|-------------------------------|-----------|-----------|---------------------|
| ちゅうごくご 中国語 | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 |
| かんこく・ ちょうせんご 韓国・ 朝鮮語 | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 |
| ポルトガル語 | 1 14.3 | 5 71.4 | 1 14.3 |
| スペイン語 | 2 28.6 | 4 57.1 | 1 14.3 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| タイ語 | 0 0.0 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| えいご 英語 | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 |

国際交流協会では、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語でそれぞれ13.3%、タガログ語で6.7%が、利用案内の多言語化を行っている。国際交流ラウンジでは、英語が57.1%、中国語とスペイン語が28.6%、韓国・朝鮮語とポルトガル語が14.3%であった。

さらに図書館については、多言語対応のOPAC（オンライン閲覧目録）が利用可能かどうかについてもたずねた。英語が11.5%であるほかは、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語がそれぞれ1.6%であった。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 15-1-9 多言語対応のOPACが利用可能(図書館)

| | はい | いいえ | 非該当と 無回答 |
|--------|-----------|------------|-------------|
| 中国語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 |
| 韓国・朝鮮語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 |
| ポルトガル語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 |
| スペイン語 | 1 1.6 | 12 19.7 | 48 78.7 |
| タガログ語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| ベトナム語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| ラオス語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| カンボジア語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| タイ語 | 0 0.0 | 13 21.3 | 48 78.7 |
| 英語 | 7 11.5 | 6 9.8 | 48 78.7 |

【問15-2】 ホームページ上に多言語生活情報に関するリンク集をつくっていますか。
(国際交流協会と国際交流ラウンジに限定)

ひょう 表 15-2-1 多言語生活情報に関するリンク集(施設別)

| | はい | いいえ | 非該当と 無回答 |
|----------|-----------|-----------|-------------|
| 国際交流協会 | 1 6.7 | 2 13.3 | 12 80.0 |
| 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 2 28.6 | 1 14.3 |
| 合計 | 5 22.7 | 4 18.2 | 13 59.1 |

国際交流協会と国際交流ラウンジに限定して、多言語生活情報に関するリンク集作成の有無についてたずねた。国際交流協会では6.7%、国際交流ラウンジでは57.1%が、「多言語生活情報に関するリンク集を作成している」と回答している。

【問16】 貴館内に利用者が使用できるインターネット開放端末は設置されていますか。

表 16-1 インターネット開放端末の設置（施設別）

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 |
|----------|------------|-------------|--------------|
| 図書館 | 17 27.9 | 43 70.5 | 1 1.6 |
| 公民館 | 31 29.0 | 71 66.4 | 5 4.7 |
| 国際交流協会 | 3 20.0 | 12 80.0 | 0 0.0 |
| 国際交流ラウンジ | 2 28.6 | 5 71.4 | 0 0.0 |
| 合計 | 53 27.9 | 131 68.9 | 6 3.2 |

各施設内における利用者が使用できるインターネット開放端末の有無についてたずねた。図書館では27.9%、公民館では29.0%、国際交流協会では20.0%、国際交流ラウンジでは28.6%が、利用者向けのインターネット端末を設置している。

【問17】 いままでにインターネット上にある多言語生活情報を情報源として活用したことがありますか。

表 17-1 インターネット上の多言語生活情報の情報源としての活用

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 |
|----------|------------|-------------|--------------|
| 図書館 | 2 3.3 | 58 95.1 | 1 1.6 |
| 公民館 | 4 3.7 | 98 91.6 | 5 4.7 |
| 国際交流協会 | 5 33.3 | 9 60.0 | 1 6.7 |
| 国際交流ラウンジ | 7 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| 合計 | 18 9.5 | 165 86.8 | 7 3.7 |

各施設が、インターネット上にある多言語生活情報を情報源として活用したことがあるかたずねた。図書館と公民館ではそれぞれ3.3%と3.7%が活用したことがあると回答した。国際交流協会では、33.3%が活用したことがある。国際交流ラウンジでは、すべての施設で、活用した実績があった。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問17-1】 「はい」の場合、以下の中から、該当する番号に○をして下さい。
(複数回答可)

表 17-1-1 多言語生活情報の活用 (図書館)

| | ある | ない | 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------------|----------|----------|----------------------|
| 外国人くらしの ガイドブック | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 外国人のための 医療機関リスト | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 外国籍県民相談 事例集 | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 外国語医科・歯科 診療マニュアル | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| こんにちはかながわ | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 外国人労働相談の ご案内 | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 消費生活の リーフレット | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 住宅の借り方 マニュアル | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 多言語医療 問診票 | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 多言語生活情報 | 0 0.0 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| その他 | 1 1.6 | 1 1.6 | 59 96.7 |

表 17-1-2 多言語生活情報の活用 (公民館)

| | ある | ない | 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------------|----------|----------|----------------------|
| 外国人くらしの ガイドブック | 2 1.9 | 2 1.9 | 103 96.3 |
| 外国人のための 医療機関リスト | 2 1.9 | 2 1.9 | 103 96.3 |
| 外国籍県民相談 事例集 | 0 0.0 | 4 3.7 | 103 96.3 |
| 外国語医科・歯科 診療マニュアル | 1 0.9 | 3 2.8 | 103 96.3 |
| こんにちはかながわ | 0 0.0 | 4 3.7 | 103 96.3 |
| 外国人労働相談の ご案内 | 1 0.9 | 3 2.8 | 103 96.3 |
| 消費生活の リーフレット | 0 0.0 | 4 3.7 | 103 96.3 |
| 住宅の借り方 マニュアル | 0 0.0 | 4 3.7 | 103 96.3 |
| 多言語医療 問診票 | 1 0.9 | 3 2.8 | 103 96.3 |
| 多言語生活情報 | 2 1.9 | 2 1.9 | 103 96.3 |
| その他 | 0 0.0 | 4 3.7 | 103 96.3 |

注) 「外国人のくらしのガイドブック」から「住宅の借り方マニュアル」までは、すべて神奈川県が提供する情報である。「多言語医療問診票」は、国際交流ハーティ港南台が作成した多言語医療問診票をもとに神奈川県国際交流協会が資料をデジタル化し、情報をホームページ上で公開している。「多言語生活情報」は、自治体国際化協会が提供する情報である。

インターネット上の多言語生活情報の活用について、神奈川県、神奈川県国際交流協会、自治体国際化協会が発信する多言語生活情報を活用したことがあるかについてたずねた。図書館については、「多言語生活情報を活用した」と回答した館が皆無であった。公民館については、一部の館で、インターネット上の「多言語生活情報を活用した」と回答している。

国際交流協会では、神奈川県国際交流協会が情報提供する多言語医療問診票が

第1章 社会教育施設等調査結果

20%の施設で活用されている。ついで、神奈川県かながわけんの「外国人がいこくじんのための医療機関いりょうきかんリスト」、自治体国際化協会じちたいこくさいかきょうかいの「多言語生活情報たげんごせいかつじょうほう」の利用が13.3%あった。

国際交流こくさいこうりゅうラウンジの場合、調査票ちやうさひょうの中であげたすべての情報源じょうほうげんが、いずれかの施設で活用されている。そのうち、「外国人がいこくじんのための医療機関いりょうきかんリスト」「外国籍県民相談事例集がいこくせきけんみんそうだんごたいしじゅう」「多言語医療問診票たげんごいりょうもんしんひょう」「多言語生活情報たげんごせいかつじょうほう」が半数以上の施設で、情報源じょうほうげんとして活用されている。「外国人くらしのガイドブック」「外国語医科・歯科診療しんりょうマニュアル」「こんにちははかながわ」「外国人労働相談がいこくじんろうどうそうだんのご案内あんない」については、28.6%の施設で情報源じょうほうげんとして活用されている。

ひょう 表 17-1-3 多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの活用
(国際交流協会こくさいこうりゅうきょうかい)

| | ある | ない | ひがいとう 非該当 |
|---------------------|-----------|-----------|--------------|
| 外国人くらしの ガイドブック | 1 6.7 | 4 26.7 | 10 66.7 |
| 外国人のための 医療機関リスト | 2 13.3 | 3 20.0 | 10 66.7 |
| 外国籍県民 相談事例集 | 1 6.7 | 4 26.7 | 10 66.7 |
| 外国語医科・ 歯科診療マニュアル | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 |
| こんにちははかながわ | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 |
| 外国人労働相談の ご案内 | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 |
| 消費生活の リーフレット | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 |
| 住宅の借り方 マニュアル | 0 0.0 | 5 33.3 | 10 66.7 |
| 多言語医療問診票 | 3 20.0 | 2 13.3 | 10 66.7 |
| 多言語生活情報 | 2 13.3 | 3 20.0 | 10 66.7 |
| その他 | 1 6.7 | 4 26.7 | 10 66.7 |

ひょう 表 17-1-4 多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの活用
(国際交流ラウンジこくさいこうりゅう)

| | ある | ない | ひがいとう 非該当 |
|---------------------|-----------|-----------|--------------|
| 外国人くらしの ガイドブック | 2 28.6 | 5 71.4 | 0 0.0 |
| 外国人のための 医療機関リスト | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 |
| 外国籍県民 相談事例集 | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 |
| 外国語医科・ 歯科診療マニュアル | 2 28.6 | 5 71.4 | 0 0.0 |
| こんにちははかながわ | 2 28.6 | 5 71.4 | 0 0.0 |
| 外国人労働相談の ご案内 | 2 28.6 | 5 71.4 | 0 0.0 |
| 消費生活の リーフレット | 1 14.3 | 6 85.7 | 0 0.0 |
| 住宅の借り方 マニュアル | 1 14.3 | 6 85.7 | 0 0.0 |
| 多言語医療問診票 | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 |
| 多言語生活情報 | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 |
| その他 | 1 14.3 | 6 85.7 | 0 0.0 |

第1章 社会教育施設等調査結果

【問17-2】 「いいえ」の場合、以下の中から、該当する番号に○をして下さい。
(複数回答可)

表 17-2-1 多言語生活情報を活用しない理由
(図書館)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------|------------|------------|-------------------------------|
| 存在を知ら なかった | 15 24.6 | 43 70.5 | 3 4.9 |
| 人材を確保 できない | 6 9.8 | 52 85.2 | 3 4.9 |
| その他 | 25 41.0 | 33 54.1 | 3 4.9 |

表 17-2-2 多言語生活情報を活用しない理由
(公民館)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------|------------|------------|-------------------------------|
| 存在を知ら なかった | 36 33.6 | 62 57.9 | 9 8.4 |
| 人材を確保 できない | 12 11.2 | 86 80.4 | 9 8.4 |
| その他 | 28 26.2 | 70 65.4 | 9 8.4 |

表 17-2-3 多言語生活情報を活用しない理由
(国際交流協会)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------|-----------|-----------|-------------------------------|
| 存在を知ら なかった | 2 13.3 | 7 46.7 | 6 40.0 |
| 人材を確保 できない | 1 6.7 | 8 53.3 | 6 40.0 |
| その他 | 5 33.3 | 4 26.7 | 6 40.0 |

表 17-2-4 多言語生活情報を活用しない理由
(国際交流ラウンジ)

| | はい | いいえ | ひがいとう 非該当と むかいとう 無回答 |
|---------------|----------|----------|-------------------------------|
| 存在を知ら なかった | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100.0 |
| 人材を確保 できない | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100.0 |
| その他 | 0 0.0 | 0 0.0 | 7 100.0 |

インターネット上にある多言語生活情報を情報源として活用していない施設に限定して、その理由についてたずねた。図書館では、「存在を知らなかった」が24.6%、「人材を確保できない」が9.8%であった。公民館では、「存在を知らなかった」が33.6%、「人材を確保できない」が11.2%であった。国際交流協会については、「存在を知らなかった」が13.3%、「人材を確保できない」が6.7%であった。国際交流ラウンジについては、すべての施設でインターネット上の多言語生活情報を活用しているため、この設問についてはすべての施設が非該当になった。

(3) 多言語情報のニーズ把握の方策

【問18】 貴館では、多言語生活情報、または、外国語図書に関して、外国人の情報ニーズを把握するために、何らかの方策を講じたことはありますか。

外国人の情報ニーズ把握のためになんらかの方策を講じたことがあるかどうかについてたずねた。図書館では8.2%、公民館では1.9%、国際交流協会では26.7%、国際交流ラウンジでは57.1%の施設が、情報ニーズ把握のための方策を講じていることがわかった。

表 18-1 外国人情報ニーズ把握のための方策（施設別）

| | はい | いいえ | 無回答 |
|----------|-----------|-------------|------------|
| 図書館 | 5 8.2 | 48 78.7 | 8 13.1 |
| 公民館 | 2 1.9 | 84 78.5 | 21 19.6 |
| 国際交流協会 | 4 26.7 | 11 73.3 | 0 0.0 |
| 国際交流ラウンジ | 4 57.1 | 3 42.9 | 0 0.0 |
| 合計 | 15 7.9 | 146 76.8 | 29 15.3 |

【問18-1】 「はい」の場合、下記について該当する番号に○をして下さい。
懇談会等の開催について（複数回答可）

表 18-1-1 懇談会等の開催（図書館）

| | ある | ない | 非該当と 無回答 |
|----------------|----------|----------|-------------|
| 自館で実施 | 0 0.0 | 5 8.2 | 56 91.8 |
| 他の機関と 共同で実施 | 1 1.6 | 4 6.6 | 56 91.8 |
| 実施せず | 3 4.9 | 2 3.3 | 56 91.8 |

表 18-1-2 懇談会等の開催（公民館）

| | ある | ない | 非該当と 無回答 |
|----------------|----------|----------|-------------|
| 自館で実施 | 0 0.0 | 2 1.9 | 105 98.1 |
| 他の機関と 共同で実施 | 1 0.9 | 1 0.9 | 105 98.1 |
| 実施せず | 1 0.9 | 1 0.9 | 105 98.1 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 18-1-3 こんだんかいとう かいさい 懇談会等の開催
(国際交流協会)

| | ある | ない | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 |
|--------------------------------------|-----------|-----------|------------------------------|
| じかん じっし 自館で実施 | 2 13.3 | 2 13.3 | 11 73.3 |
| た きかん 他の機関と きょうどう じっし 共同で実施 | 0 0.0 | 4 26.7 | 11 73.3 |
| じっし 実施せず | 2 13.3 | 2 13.3 | 11 73.3 |

ひょう 表 18-1-4 こんだんかいとう かいさい 懇談会等の開催
(国際交流ラウンジ)

| | ある | ない | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 |
|--------------------------------------|-----------|-----------|------------------------------|
| じかん じっし 自館で実施 | 2 28.6 | 2 28.6 | 3 42.9 |
| た きかん 他の機関と きょうどう じっし 共同で実施 | 1 14.3 | 3 42.9 | 3 42.9 |
| じっし 実施せず | 1 14.3 | 3 42.9 | 3 42.9 |

つぎ かいこくじん じょうほう ニーズ把握のために、なん ほうさく こう 何らかの方策を講じたことがある施設に限定して質問した。情報ニーズ把握のために、こんだんかいとう かいさい 懇談会等の開催についてたずねたところ、としょかん 図書館では、自館で実施しているところはみられず、「他の機関と共同で実施する」館が1.6%、「実施していない」館が4.9%であった。こうみんかん 公民館では、「他の機関と共同で実施」と「実施せず」がそれぞれ0.9%ずつみられた。こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会では「自館で実施する」施設が13.3%、「実施しない」施設が13.3%であった。こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジでは、「自館で実施」が28.6%、「共同で実施」が14.3%、実施しないところが14.3%であった。

【問18-2】 じょうほう ニーズ調査の状況について、かま なか がいとう ばんごう 下記の中から該当する番号に○をして下さい。(複数回答可)

ひょう 表 18-2-1 ニーズ調査 (図書館)

| | ある | ない | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 |
|--------------------------------------|----------|----------|------------------------------|
| じかん 自館で ちょうさじっし 調査実施 | 2 3.3 | 3 4.9 | 56 91.8 |
| じちたいとう 自治体等の ちょうさ さんか 調査に参加 | 0 0.0 | 5 8.2 | 56 91.8 |
| みんかんだんたいしゅざい 民間団体主催 の調査に参加 | 0 0.0 | 5 8.2 | 56 91.8 |
| かんれんちょうさ 関連調査を さんこう 参考 | 1 1.6 | 4 6.6 | 56 91.8 |
| おこ 行なっていない | 3 4.9 | 2 3.3 | 56 91.8 |

ひょう 表 18-2-2 ニーズ調査 (公民館)

| | ある | ない | ひがいと 非該当と むかいとう 無回答 |
|--------------------------------------|----------|----------|------------------------------|
| じかん 自館で ちょうさじっし 調査実施 | 0 0.0 | 2 1.9 | 105 98.1 |
| じちたいとう 自治体等の ちょうさ さんか 調査に参加 | 1 0.9 | 1 0.9 | 105 98.1 |
| みんかんだんたいしゅざい 民間団体主催 の調査に参加 | 0 0.0 | 2 1.9 | 105 98.1 |
| おこ 行なっていない | 1 0.9 | 1 0.9 | 105 98.1 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 18-2-3 ニーズ調査 (国際交流協会)

| | ある | ない | 非該当と むかいとう 無回答 |
|------------------|-----------|-----------|----------------------|
| 自館で 調査実施 | 0 0.0 | 4 26.7 | 11 73.3 |
| 自治体等の 調査に参加 | 2 13.3 | 2 13.3 | 11 73.3 |
| 民間団体主催 の調査に参加 | 0 0.0 | 4 26.7 | 11 73.3 |
| 関連調査を 参考 | 0 0.0 | 4 26.7 | 11 73.3 |
| 行っていない | 1 6.7 | 3 20.0 | 11 73.3 |

ひょう 表 18-2-4 ニーズ調査 (国際交流ラウンジ)

| | ある | ない | 非該当と むかいとう 無回答 |
|------------------|-----------|-----------|----------------------|
| 自館で 調査実施 | 3 42.9 | 1 14.3 | 3 42.9 |
| 自治体等の 調査に参加 | 1 14.3 | 3 42.9 | 3 42.9 |
| 民間団体主催 の調査に参加 | 0 0.0 | 4 57.1 | 3 42.9 |
| 関連調査を 参考 | 2 28.6 | 2 28.6 | 3 42.9 |
| 行っていない | 0 0.0 | 4 57.1 | 3 42.9 |

さらに、各施設が外国人の情報ニーズの把握のために、何らかの調査を行ったかどうかについてたずねた。図書館では、「自館で調査を行った」とする回答が、3.3%、「関連調査を参考にした」が1.6%、「行っていない」が4.9%であった。公民館では、「自治体等の調査に参加」が0.9%、「行っていない」が0.9%であった。国際交流協会では、「自治体等の調査に参加」が13.3%、「行っていない」が6.7%であった。国際交流ラウンジでは、「自館で実施」が42.9%、「自治体等の調査に参加」が14.3%、「関連調査を参考」が28.6%であった。

【問19】 貴館には外国人利用者への情報提供サービスに関わる文書化された規定等がありますか。

外国人利用者への情報提供サービスに係わる文書化された規定の有無についてたずねた。国際交流ラウンジでは、2施設(28.6%)が「ある」と回答。図書館と公民館では、それぞれ1館ずつ1.6%と0.9%で「ある」と回答。国際交流協会では、「無い」が15館(100%)であった。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 19-1 がいこくじんりようしや じょうほうていきょう にかか きてい うむ しせつ
外国人利用者への情報提供に係わる規定の有無(施設)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 | ごうけい 合計 |
|--------------------------|-----------|-------------|--------------|------------|
| としよかん 図書館 | 1 1.6 | 58 95.1 | 2 3.3 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 1 0.9 | 103 96.3 | 3 2.8 | 107 100 |
| こくさいこうりゆうきょうかい 国際交流協会 | 0 0.0 | 15 100.0 | 0 0.0 | 15 100 |
| こくさいこうりゆう 国際交流ラウンジ | 2 28.6 | 3 42.9 | 2 28.6 | 7 100 |
| ごうけい 合計 | 4 2.1 | 179 94.2 | 7 3.7 | 190 100 |

4. 職員について

【問20】 貴館には外国人職員が勤務していますか。(図書館と公民館に限定)

図書館と公民館に限定して、外国人職員の勤務の有無についてたずねた。図書館では、3.3%、公民館では0.9%で外国人職員の勤務実態があると回答した。

ひょう 表 20-1 がいこくじんしよくいん きんむ しせつべつ
外国人職員の勤務(施設別)

| | はい | いいえ | むかいとう 無回答 |
|---------------|----------|-------------|--------------|
| としよかん 図書館 | 2 3.3 | 59 96.7 | 0 0.0 |
| こうみんかん 公民館 | 1 0.9 | 104 97.2 | 2 1.9 |

【問20-1】 正職員(図書館と公民館に限定)

さらに、正職員とその他の職員に分けて、次の質問を行った。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 20-1-1 せいしよくいん 正職員としての勤務 (施設別)

| | げんざい きんむ 現在勤務している | かつて勤務していた | じれい 事例なし | ひがいたう む 非該当と無回答 | ごうけい 合計 |
|------------|-------------------|-----------|----------|-----------------|------------|
| としよかん 図書館 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.6 | 60 98.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 100.0 | 107 100 |
| ごうけい 合計 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 0.6 | 167 99.4 | 168 100 |

【問20-2】 そのた きんむ その他の勤務

ひょう 表 20-2-1 そのた きんむ その他の勤務 (施設別)

| | げんざい きんむ 現在勤務している | かつて勤務していた | じれい 事例なし | ひがいたう む 非該当と無回答 | ごうけい 合計 |
|------------|-------------------|-----------|----------|-----------------|------------|
| としよかん 図書館 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.6 | 60 98.4 | 61 100 |
| こうみんかん 公民館 | 1 0.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 106 99.1 | 107 100 |
| ごうけい 合計 | 1 0.6 | 0 0.0 | 1 0.6 | 166 98.8 | 168 100 |

せいしよくいん 正職員としての勤務については、としよかん 図書館・こうみんかん 公民館ともに、「げんざい きんむ 現在勤務している」、「かつて勤務していた」の双方で、「せいしよくいん きんむ 正職員の勤務は見られない」とのひがいたう 回答だった。そのた きんむ その他の勤務では、こうみんかん 公民館で、「げんざい きんむ 現在勤務している」というひがいたう 回答が見られた。

【問20-3】 きかん 貴館にはがいこくじん 外国人スタッフ・ボランティアが勤務またはかつどう 活動していますか。該当する番号に○をして下さい。(こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会とこくさいこうりゅう 国際交流ラウンジに限定)

ひょう 表 20-3-1 がいこくじん 外国人スタッフ・ボランティアの勤務・活動 (施設別)

| | げんざい きんむ 現在勤務・かつどう 活動している | かつて勤務・かつどう 活動していた | じれい 事例なし | むかいとう 無回答 |
|-----------------------|---------------------------|-------------------|------------|-----------|
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 3 20.0 | 0 0.0 | 10 66.7 | 2 13.3 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 1 14.3 | 0 0.0 | 0 0.0 |

こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会とこくさいこうりゅう 国際交流ラウンジについては、がいこくじん 外国人スタッフ・ボランティアのきんむ かつどう 勤務・活動経験についてたずねた。こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会では、「げんざい きんむ かつどう 現在勤務・活動している」が20.0

第1章 社会教育施設等調査結果

%であり、「事例なし」が66.7%であった。国際交流ラウンジでは、「現在勤務・活動している」という回答が85.7%であり、「かつて勤務・活動していた」が14.3%であった。

【問21】 外国語資料の提供にあたり、該当する言語を使用する在住外国人・留学生などによる関与がありますか。(関与する人の肩書きが職員であるか、ボランティアであるかは問いません)(図書館に限定)

表 21-1 在住外国人・留学生の関与

| はい | いいえ | 無回答 |
|-----------|------------|-----------|
| 6 10.0 | 47 78.3 | 7 11.7 |

図書館に限定して、外国語資料の提供に際し、該当言語を用いる在住外国人・留学生などの関与があるかどうかについてたずねた。その結果、「関与がある」という回答は全体の10%であり、「関与がない」という回答は78.3%であった。

【問21-1】 「はい」の場合、以下について該当する番号に○をしてください。

選書・整理業務について(図書館に限定)

【問21-2】 閲覧業務(通訳・ピラなどの翻訳も含む)について(図書館に限定)

表 21-1-1 外国人の具体的な関与業務

| | 正職員として 関与 | その他の職員 として関与 | ボランティアと して関与 | 関与して いない | 非該当と 無回答 |
|---------|--------------|-----------------|-----------------|-------------|-------------|
| 選書・整理業務 | 1 1.7 | 2 3.3 | 1 1.7 | 2 3.3 | 54 90 |
| 閲覧業務 | 0 0.0 | 1 1.7 | 2 3.3 | 1 1.7 | 56 93.3 |

さらに、外国人が具体的にどのような業務に、いかなる立場で従事しているかについてもたずねた。選書・整理業務については、正職員として関与している図書館が1.7%、その他の職員として関与している図書館が3.3%、ボランティアとして関与しているところが1.7%、関与していないが3.3%であった。他方で閲覧業務については、その他の職員として関与が1.7%、ボランティアとして関与が3.3%、関与していないが1.7%であった。

【問22】 多言語情報の提供にあたり、該当する言語を使用する在住外国人・留学生などによる参加がありますか。該当する番号に○をしてください。
(複数回答可) (国際交流協会と国際交流ラウンジに限定)

表 22-1 外国人の具体的な関与業務 (国際交流協会)

| | はい | いいえ |
|---------------|-----------|-------------|
| 資料選定作業 に参加 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| 資料整理作業 に参加 | 0 0.0 | 15 100.0 |
| 情報提供業務 に参加 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| その他 | 1 6.7 | 14 93.3 |
| 参加事例なし | 7 46.7 | 8 53.3 |

表 22-2 外国人の具体的な関与業務 (国際交流ラウンジ)

| | はい | いいえ |
|---------------|------------|------------|
| 資料選定作業 に参加 | 2 28.6 | 5 71.4 |
| 資料整理作業 に参加 | 4 57.1 | 3 42.9 |
| 情報提供業務 に参加 | 7 100.0 | 0 0.0 |
| その他 | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 参加事例なし | 0 0.0 | 7 100.0 |

さらに、国際交流協会と国際交流ラウンジについては、正職員かそうでないかに関わらず、資料選定、資料整理、情報提供などの業務に参加しているかどうかについてたずねた。国際交流協会では、情報提供業務に参加しているという回答が 20.0 % 見られた。その一方で、参加事例なしという回答が、46.7 % をしめた。国際交流ラウンジでは、資料選定業務に参加が 28.6 %、資料整理作業に参加が 57.1 %、情報提供業務に参加がすべてのラウンジでみられた。

5. 他機関・組織との連携状況

【問23】 貴館では、外国人への情報提供サービスに関して、これまで自治体(国際施策担当部署)、図書館、公民館、国際交流ラウンジ、国際交流協会、その他民間団体等と連携をとったことがありますか。

各施設ごとに、外国人への情報提供サービスについて、自治体をはじめとする各種団体との連携をとったことがあるかどうかについてたずねた。図書館では 16.4 %、公民館では 7.5 %、国際交流協会では 20.0 %、国際交流ラウンジでは 100.0 % の施設で、他機関と連携をとったことがあると回答した。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 23-1 他機関との連携の有無 (施設別)

| | はい | いいえ | むかいどう 無回答 |
|--------------------------|------------|-------------|--------------|
| としよかん 図書館 | 10 16.4 | 50 82.0 | 1 1.6 |
| こうみんかん 公民館 | 8 7.5 | 99 92.5 | 0 0.0 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 3 20.0 | 8 53.3 | 4 26.7 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 7 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| ごうけい 合計 | 28 14.7 | 157 82.6 | 5 2.6 |

【問23-1】 「はい」の場合、それぞれの番号に○をし、わかる範囲で連携の具体例をお書きください。

ひょう 表 23-1-1 連携の相手 (図書館)

| | ある | ない |
|--------------------------|-----------|------------|
| じちたい 自治体 | 8 13.1 | 53 86.9 |
| こうみんかん 公民館 | 2 3.3 | 59 96.7 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 6.6 | 57 93.4 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 3 4.9 | 58 95.1 |
| みんかんだんたい 民間団体 | 1 1.6 | 60 98.4 |

ひょう 表 23-1-2 連携の相手 (公民館)

| | ある | ない |
|--------------------------|----------|--------------|
| じちたい 自治体 | 1 0.9 | 106 99.1 |
| としよかん 図書館 | 0 0.0 | 107 100.0 |
| こくさいこうりゅう 国際交流ラウンジ | 4 3.7 | 103 96.3 |
| こくさいこうりゅうきょうかい 国際交流協会 | 4 3.7 | 103 96.3 |
| みんかんだんたい 民間団体 | 2 1.9 | 105 98.1 |

つぎに、各施設ごとに、連携の相手についてたずねた。図書館では、自治体が最も多く、13.1%、ついで国際交流ラウンジが6.6%、国際交流協会が4.9%、公民館が3.3%、民間団体が1.6%であった。公民館では、国際交流ラウンジと国際交流協会がそれぞれ3.7%、民間団体が1.9%、自治体が0.9%であった。

図書館の他機関との連携事例 (自由記述)

- ◆自治体
 - ・刊行資料の受入、利用者への提供。
 - ・外国語資料の新刊案内を送付している。
 - ・刊行資料の受入、利用者への提供。

- ・町、福祉課に臨時職員が勤務をしていて子どもむけの行事は翻訳をしてくれる。

- ・利用案内書の作成や外国人の窓口対応マニュアル（職員用）の作成に文化国際課と連携をとった。

◆公民館

- ・地域に外国籍住民の多い地区センターの図書コーナーに館内閲覧用で定期的に間外国語図書の貸出をした。

- ・日本語教室への協力。

◆国際交流ラウンジ

- ・開設時。図書の相談。団体貸出（現在は利用していない）

- ・市民交流課が担当する同ラウンジの読み物のコーナーに寄贈図書のうち英文その他のものを寄贈している。

- ・外国語資料の新刊案内を送付している。

- ・機関紙の寄贈依頼。

◆国際交流協会

- ・刊行資料の受入、利用者への提供。

- ・外国語資料の新刊案内を送付している図書館主催の行事を行う際、YOKEより姉妹都市ボックスと上海の子どもたちが作った絵本を借りた。

◆民間団体

- ・チラシ、利用案内、新着本リストの配付に協力をお願いし、どのようなニーズがあるか、どのような資料が求められているか意見を聞いた。

公民館の他機関との連携事例（自由記述）

◆国際交流ラウンジ

- ・国際交流、協力ボランティア派遣により国際交流教室ベネズエラ編を実施。

- ・国際交流ラウンジニュース等の配布、閲覧。

- ・外国文化を知る教室の実施方法、内容、講師について相談、指導をいただいた。

◆国際交流協会

- ・外国人の親のための子育てガイドブックの翻訳。

- ・（財）大和市国際化協会、情報誌への施設情報掲載及び翻訳ボランティア活用等。

◆民間団体

- ・フェスティバル（会館記念祭）で利用団体が実施する。

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 23-1-3 れんけい あいて こくさいこうりゆうきょうかい
連携の相手 (国際交流協会)

| | ある | ない |
|----------|-----------|------------|
| 自治体 | 4 26.7 | 11 73.3 |
| 図書館 | 2 13.3 | 13 86.7 |
| 公民館 | 3 20.0 | 12 80.0 |
| 国際交流ラウンジ | 3 20.0 | 12 80.0 |
| 民間団体 | 2 13.3 | 13 86.7 |

ひょう 表 23-1-4 れんけい あいて こくさいこうりゆう
連携の相手 (国際交流ラウンジ)

| | ある | ない |
|--------|-----------|-----------|
| 自治体 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| 図書館 | 2 28.6 | 5 71.4 |
| 公民館 | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 国際交流協会 | 6 85.7 | 1 14.3 |
| 民間団体 | 4 57.1 | 3 42.9 |

国際交流協会では、自治体が26.7%、公民館と国際交流ラウンジがそれぞれ20.0%、図書館と民間団体がそれぞれ13.3%であった。国際交流ラウンジでは、自治体と国際交流協会が最も多く85.7%であった。ついで民間団体の57.1%、図書館の28.6%、公民館の14.3%とつづく。

こくさいこうりゆうきょうかい た きかん れんけいじれい じゆうきじゆつ
国際交流協会の他機関との連携事例 (自由記述)

◆自治体

- ・ 翻訳、通訳の提供。こちらで作成した多言語資料の配布。
- ・ ① 市政情報ハローかわさき (6ヶ国語) の提供 (放送、紙)
- ・ ② 日本語講座の開催通知。
- ・ 災害時の避難について、パンフ作成。避難所利用方法を多言語で作成。
- ・ 会の事務局が市文化国際課。

◆公民館

- ・ 翻訳、通訳の提供。こちらで作成した多言語資料の配布。
- ・ 外国人相談の周知。
- ・ 国際交流フェスティバルの開催。

◆交流ラウンジ

- ・ 翻訳、通訳の提供。こちらで作成した多言語資料の配布。
- ・ 外国人相談の周知。
- ・ 新聞、雑誌等の契約、購入 (会の予算で購入し、ラウンジに設置)

◆民間団体

- ・ 翻訳、通訳の提供。こちらで作成した多言語資料の配布。(大和)
- ・ FM さがみ放送の契約、費用負担 (制作は国際交流ラウンジのボランティア)

こくさいこうりゆう た きかん れんけいじれい じゆうきじゆつ
国際交流ラウンジの他機関との連携事例 (自由記述)

◆自治体

- ・区役所。福祉保健センター。
- ・定例会議の開催。
- ・版の広報誌を英語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語で2003年度作成。2004年度保健センター便り作成。区と連携して祭り開催。(子供の為の国際理解)
- ・「青葉区の保健と福祉のお知らせ5カ国語版」作成協力(96～青葉区福祉保健センター、「青葉区防災マップ5カ国語版(97)日英版(03)作成協力(97,03青葉区役所)、「英語版情報紙作成ボランティアスタッフ研修講座」講師協力(99都筑区役所)、「外国語対応9ヶ国語編コンピュータソフト緊急通報システム外国語での119番通報」音声入力、「通報依頼カード119番救急要請用」火災通報用」翻訳協力(02横浜市消防局)、新しく青葉区へ来られた方へ外国語で書かれた生活情報資料をお渡ししています5カ国語版パンフレット」作成協力(03青葉区役所戸籍課)、「青葉区役所別館防災訓練」参加協力(04青葉区役所)、「情報の福袋・青葉区へ転入された方へ英語版」企画協力(03～青葉区役所戸籍課)

◆図書館

- ・「図書団体貸し出し」貸し出し団体として登録(96～横浜市山内図書館)、「中央図書館探検」に通訳派遣(横浜市中中央図書館、横浜ライブラリーフレンド)

◆公民館

- ・地区センターに文化紹介のための外国人派遣、国際。

◆交流協会

- ・外国人無料相談会をYOKEと共に主催。YOKE窓口合同研修会参加。
- ・定例会議の開催、情報連絡会の開催。
- ・2004年外国人ボランティアの為に日本語福祉研修会開催。
- ・「多言語情報作成マニュアル」「多言語標準訳語集」編集協力(99横浜市国際交流協会)「青葉・緑・都筑地区日本語ボランティア研修講座」開催(00横浜市国際交流協会と共催)、「災害時に役立つ外国語の表示シート集(横浜版)」作成協力(01横浜市国際交流協会)、「やさしい日本語による外国人ボランティアのための研修講座」(03横浜市国際交流協会と共催)、「情報共有化プロジェクト」「翻訳ネットワークよこはま」への参加(横浜市国際交流協会、他ラウンジ)

◆民間団体

- ・大学、ボランティア団体、カールスカウト等のイベントに外国人派遣、文化紹介

【問24】 貴館では、外国人への情報提供に関して、学校と連携をとったことがありますか。(図書館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定)

第1章 社会教育施設等調査結果

表 24-1 外国人への情報提供に関する学校との連携（施設別）

| | はい | いいえ | 無回答 |
|----------|------------|------------|-----------|
| 図書館 | 4 6.6 | 56 91.8 | 1 1.6 |
| 国際交流協会 | 2 13.3 | 11 73.3 | 2 13.3 |
| 国際交流ラウンジ | 6 85.7 | 1 14.3 | 0 0.0 |
| 合計 | 12 14.5 | 68 81.9 | 3 3.5 |

外国人への情報提供に関する学校との連携について、図書館、国際交流協会、国際交流ラウンジに限定してたずねた。国際交流ラウンジでは、提携しているという回答が85.7%であった。国際交流協会では13.3%、図書館では6.6%であった。

【問24-1】 「はい」の場合、該当する番号に○をしてください。（図書館に限定）

表 24-1-1 学校との連携に関する具体的内容（図書館）

| | はい | いいえ | 非該当と無回答 |
|----------|----------|----------|------------|
| 団体貸し出し | 0 0.0 | 4 6.6 | 57 93.4 |
| 冊子体目録を配布 | 0 0.0 | 4 6.6 | 57 93.4 |
| 学校から照会 | 1 1.6 | 3 4.9 | 57 93.4 |
| 資料を購入 | 0 0.0 | 4 6.6 | 57 93.4 |
| その他 | 4 6.6 | 0 0.0 | 57 93.4 |

さらに、学校との連携に関する具体的内容について、図書館に限定してたずねた。学校や学校図書館から、外国語図書等について照会を受けたことがあるという回答が、1.6%みられた。その他が6.6%であるが、具体的内容としては、「日本語学習に結びつける為、母国語で書かれた絵辞典（小学校低学年用）を要望されたが、所蔵がなく、他館より資料をお借りして提供しました」というものなどが見られた。

図書館の学校との連携事例（自由記述）

- ・外国籍児童の多い小、中学校にチラシ利用案内、新着本リストを持参し、

- 外国語図書も利用できることを案内、外国語図書の需要があると思われる
 父母への紹介を依頼。
- 日本語学習に結びつける為、母国語で書かれた絵辞典（小学校低学年用）を要望されたが、所蔵がなく、他館より資料をお借りして提供しました。
 - 外国語資料、児童向け日本語資料の新刊案内を送付している。以前こちらから訪問し、現在は来館、見学も受け入れている。
 - 南部朝鮮学校の生徒さんの見学を受け入れている。

国際交流協会の学校との連携事例（自由記述）

- 翻訳、通訳の提供。機関紙（当協会作成、英、ス、中）の配布。

国際交流フロンズの学校との連携事例（自由記述）

- ①連携をとろうと、教育委員会へ通知文対訳集等一部写をいただきたい旨申し込んだが、もらえなかった。ラウンジには「学校からの通知文等を代わりに読んで欲しい、説明をして欲しい」保護者が来るので、窓口スタッフが対応している（担任への不満を聞くこと時々有）。
 - ②市民通訳ボランティアを保護者面談に派遣している。
 - ③語学ボランティアを入学式、説明会に派遣した。
 - ④「はまっ子」世話役の方から、外国人への対応の相談を受けた。
 - ⑤児童が損害を与えた賠償事故に関する翻訳を代行した。
 - ⑥ニューカマー教室、学習補助の毎週開催。
- 学校への通訳の派遣。英語教育への補助スタッフの派遣。
- 小、中学校へ外国人を派遣し文化紹介、大学祭への派遣、交流、高校での料理教室、英語の授業補助。
 - 教育委員会のALT。
 - ①市民通訳ボランティア、語学ボランティアを三者面談、家族訪問、説明会などに派遣。
 - ②依頼内容に応じて学校関係文書を翻訳。
 - ③学校における地域交流会に外国人スタッフを派遣。

6. 外国人に対する情報提供に関する課題

【問25】 外国人への図書館サービス、情報提供サービスを行う上での課題について、お聞きします。

【問25-1】 多言語生活情報を提供する上で、課題と思われる点は何ですか。該当する番号に○をして下さい。(複数回答可)

表 25-1-1 多言語生活情報提供の課題 (図書館)

| | はい | いいえ |
|---------------------|------------|------------|
| 発行情報がわからない | 38 62.3 | 23 37.7 |
| ニーズの把握方法がわからない | 33 54.1 | 28 45.9 |
| 言語ごとの必要量がわからない | 32 52.5 | 29 47.5 |
| 分野ごとの必要量がわからない | 26 42.6 | 35 57.4 |
| 利用しやすい分類の方法がわからない | 3 4.9 | 58 95.1 |
| 利用しやすいレイアウト方法がわからない | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 利用者への効果的な宣伝方法がわからない | 15 24.6 | 46 75.4 |
| その他 | 5 8.2 | 56 91.8 |

表 25-1-2 多言語生活情報提供の課題 (公民館)

| | はい | いいえ |
|---------------------|------------|-------------|
| 発行情報がわからない | 41 38.3 | 66 61.7 |
| ニーズの把握方法がわからない | 60 56.1 | 47 43.9 |
| 言語ごとの必要量がわからない | 61 57.0 | 46 43.0 |
| 分野ごとの必要量がわからない | 48 44.9 | 59 55.1 |
| 利用しやすい分類の方法がわからない | 11 10.3 | 96 89.7 |
| 利用しやすいレイアウト方法がわからない | 8 7.5 | 99 92.5 |
| 利用者への効果的な宣伝方法がわからない | 36 33.6 | 71 66.4 |
| その他 | 7 6.5 | 100 93.5 |

第1章 社会教育施設等調査結果

ひょう 表 25-1-3 たげんごせいかつじょうほうていきょう かだい
多言語生活情報提供の課題
(国際交流協会)

| | はい | いいえ |
|---------------------|-----------|-------------|
| 発行情報がわからない | 8 53.3 | 7 46.7 |
| ニーズの把握方法がわからない | 7 46.7 | 8 53.3 |
| 言語ごとの必要量がわからない | 3 20.0 | 12 80.0 |
| 分野ごとの必要量がわからない | 2 13.3 | 13 86.7 |
| 利用しやすい分類の方法がわからない | 0 0.0 | 15 100.0 |
| 利用しやすいレイアウト方法がわからない | 1 6.7 | 14 93.3 |
| 利用者への効果的な宣伝方法がわからない | 5 33.3 | 10 66.7 |
| その他 | 2 13.3 | 13 86.7 |

ひょう 表 25-1-4 たげんごせいかつじょうほうていきょう かだい
多言語生活情報提供の課題
(国際交流ラウンジ)

| | はい | いいえ |
|---------------------|-----------|-----------|
| 発行情報がわからない | 5 71.4 | 2 28.6 |
| ニーズの把握方法がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 言語ごとの必要量がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 分野ごとの必要量がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 利用しやすい分類の方法がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 利用しやすいレイアウト方法がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 利用者への効果的な宣伝方法がわからない | 4 57.1 | 3 42.9 |
| その他 | 3 42.9 | 4 57.1 |

外国人に対する多言語生活情報提供にあたっての課題についてたずねた。図書館では、どのような情報がいつ、どこで、発行されたかわからないという回答が最も多く、62.3 %をしめた。ついで、ニーズの把握方法がわからないが 54.1 %、言語ごとの必要量がわからないが、52.5 %、分野ごとの必要量がわからないが 42.6 %、利用者への効果的な宣伝方法がわからないが 24.6 %であった。

外国人に対する情報提供の課題 図書館 (自由記述)

- ・ 情報を提供するための予算と時間が少ない。
- ・ 各国語が分かるスタッフの問題。
- ・ 人材がいない。
- ・ 多言語生活情報を必要としている外国人の図書室利用がない。
- ・ 多言語を扱える職員がいない。

公民館では、言語ごとの必要量がわからないがもっとも多く、57.0 %、ニーズの把握方法がわからないも選択率が半数を超え、56.1 %であった。分野ごとの必要量がわからないが 44.9 %、発行情報がわからないが 38.3 %、効果的な宣伝方法がわからないが 33.6 %であった。

外国人に対する情報提供の課題 公民館 (自由記述)

- ・絶対的なスペース、人員(人口)が不足し対応しきれない。
- ・現時点では具体的に検討するまで至っていない。
- ・情報提供用の予算がつかない。
- ・人員の確保。
- ・考えたことがない。
- ・外国人が来館しない。

国際交流協会では、発行情報がわからないが最も多く53.3%、ついでニーズの把握方法がわからないが46.7%であった。利用者への効果的な宣伝方法がわからないが33.3%、言語ごとの必要量がわからないが20.0%であった。

外国人に対する情報提供の課題 国際交流協会 (自由記述)

- ・仕事量の増大。
- ・本拠地とする施設を持っていないため、情報提供の場が少ない。

国際交流ラウンジでは、発行情報がわからないが71.4%と最も多く、ついで利用者への効果的な宣伝方法がわからないが57.1%であった。

外国人に対する情報提供の課題 国際交流ラウンジ (自由記述)

- ・日々の相談対応に手一杯の状態、整理、分類に専念する時間が足りない。
- ・同様の出版物が多く、情報の整理が必要である。
- ・①提供する以前の下ごしらえ(収集、分類、整理、配架)をする人員の継続的な確保。②提供スペース及び整理前、余剰分の資料を一時保管するバックヤードの確保。③記載情報の時宜を得た更新・作成④使える情報・資料の見極め、取捨選択、新旧入替。

第1章 社会教育施設等調査結果

【問25-2】 外国語図書を提供する上で、課題と思われる点は何ですか。
 該当する番号に○をして下さい。(複数回答可)

表 25-2-1 外国語図書提供の課題 (図書館)

| | はい | いいえ |
|-------------------------|------------|------------|
| 図書についての発行 情報がわからない | 23 37.7 | 38 62.3 |
| ニーズの把握方法 がわからない | 36 59.0 | 25 41.0 |
| 言語ごとの必要量 がわからない | 31 50.8 | 30 49.2 |
| 分野ごとの必要量 がわからない | 27 44.3 | 34 55.7 |
| 利用しやすい分類の 方法がわからない | 6 9.8 | 55 90.2 |
| 利用しやすいレイア ウト方法がわからない | 2 3.3 | 59 96.7 |
| 利用者への効果的な 宣伝方法がわからない | 13 21.3 | 48 78.7 |
| その他 | 7 11.5 | 54 88.5 |

表 25-2-2 外国語図書提供の課題 (公民館)

| | はい | いいえ |
|-------------------------|------------|-------------|
| 図書についての発行 情報がわからない | 29 27.1 | 78 72.9 |
| ニーズの把握方法 がわからない | 59 55.1 | 48 44.9 |
| 言語ごとの必要量 がわからない | 52 48.6 | 55 51.4 |
| 分野ごとの必要量 がわからない | 44 41.1 | 63 58.9 |
| 利用しやすい分類の 方法がわからない | 9 8.4 | 98 91.6 |
| 利用しやすいレイア ウト方法がわからない | 7 6.5 | 100 93.5 |
| 利用者への効果的な 宣伝方法がわからない | 27 25.2 | 80 74.8 |
| その他 | 11 10.3 | 96 89.7 |

表 25-2-3 外国語図書提供の課題 (交流協会)

| | はい | いいえ |
|-------------------------|-----------|-------------|
| 図書についての発行 情報がわからない | 6 40.0 | 9 60.0 |
| ニーズの把握方法 がわからない | 6 40.0 | 9 60.0 |
| 言語ごとの必要量 がわからない | 2 13.3 | 13 86.7 |
| 分野ごとの必要量 がわからない | 2 13.3 | 13 86.7 |
| 利用しやすい分類の 方法がわからない | 0 0.0 | 15 100.0 |
| 利用しやすいレイア ウト方法がわからない | 0 0.0 | 15 100.0 |
| 利用者への効果的な 宣伝方法がわからない | 6 40.0 | 9 60.0 |
| その他 | 2 13.3 | 13 86.7 |

表 25-2-4 外国語図書提供の課題 (ラウンジ)

| | はい | いいえ |
|-------------------------|-----------|-----------|
| 図書についての発行 情報がわからない | 3 42.9 | 4 57.1 |
| ニーズの把握方法 がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 言語ごとの必要量 がわからない | 1 16.7 | 5 83.3 |
| 分野ごとの必要量 がわからない | 2 28.6 | 5 71.4 |
| 利用しやすい分類の 方法がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 利用しやすいレイア ウト方法がわからない | 1 14.3 | 6 85.7 |
| 利用者への効果的な 宣伝方法がわからない | 2 28.6 | 5 71.4 |
| その他 | 3 42.9 | 4 57.1 |

最後に、外国語図書がいこくごとしょの提供ていきようにあたっての課題かだいについてたずねた。図書館としょかんでは、ニーズの把握方法はあくほうほうがわからないが最も多く59.0%、ついで言語げんごごとの必要量ひつようりようがわからないが50.8%であった。分野ぶんやごとの必要量ひつようりようがわからないも多く44.3%、図書としょについての発行情報はっこうじょうほうがわからないが37.7%、利用者りようしゃへの効果的な宣伝方法こうかてき せんてんほうほうがわからないが21.3%であった。

外国語図書がいこくごとしょを提供するうえでの課題かだい 図書館としょかん (自由記述じゆうきじゆつ)

- ・情報じょうほうを提供ていきようするための予算よさんと時間じかんが少ない。
- ・財政上ざいせいじょうの問題もんだい、各国語かくこくごが分かるスタッフわ もんだいの問題。
- ・ラオス語ごやカンボジア語ごなどの本ほんを収集しゅうしゆして提供ていきようしたいが入手にゆうしゆできない。
- ・予算よさんが限かぎられているため、多言語たげんごサービスまで手てが回まわらない。

公民館こうみんかんでも同様に、ニーズの把握方法はあくほうほうがわからないが、55.1%と最も高く、ついで言語げんごごとの必要量ひつようりようがわからないが48.6%であった。

外国語図書がいこくごとしょを提供するうえでの課題かだい 公民館こうみんかん (自由記述じゆうきじゆつ)

- ・蔵書スペースぞうしよ (図書室としよしつ) に限りがある。
- ・絶対的ぜったいてきなスペースじんいん、人員じんこう (人口ふそく) が不足たいおうし対応たいおうしきれない。
- ・図書としよをおくスペースがない。
- ・予算よさんがない。
- ・予算よさんがないので図書館としよかんの配本はいほんで対応たいおうしている。
- ・図書としよの収集しゅうしゆ、提供ていきようを行おこなっていない。(図書館としよかん (併設へいせつ) が行おこなっているため。)
- ・考かんがえたことがない。
- ・外国人がいこくじんがほとんど来こない。

国際交流協会こくさいこうりゅうきようかいでは、発行情報はっこうじょうほうがわからない、ニーズの把握方法はあくほうほうがわからない、利用者りようしゃへの効果的な宣伝方法こうかてき せんてんほうほうがわからないがそれぞれ40.0%と最も多く、ついで言語げんごごとの必要量ひつようりようがわからない、分野ぶんやごとの必要量ひつようりようがわからない、その他そのたが13.3%であった。

外国語図書がいこくごとしょを提供するうえでの課題かだい 国際交流協会こくさいこうりゅうきようかい (自由記述じゆうきじゆつ)

- ・予算よさん。
- ・保有ほゆうして、公開こうかいする設備せつびがない。

国際交流ラウンジこくさいこうりゅうでは、図書としよについての発行情報はっこうじょうほうがわからないとその他そのたが最も多く42.9%、分野ぶんやごとの必要量ひつようりようがわからないと利用者りようしゃへの効果的な宣伝方法こうかてき せんてんほうほうがわからないが、ともに28.6%であった。その他そのたについては、購入こうにゆうする費用ひようのあてがない、場所ばしょの制約せいやくなどがあげられていた。

外国語図書を提供するうえでの課題 国際交流ラウンジ (自由記述)

- ・購入する費用のあてがありません。備える場所がありません。ラウンジの役目ではなく、図書館の充実に力をさいた方が良いと思いますが。
- ・場所の制約。
- ・①下ごしらえをする人員の継続的な確保。
- ②スペース及びバックヤードの確保。
- ③限られたスペース及び予算内に収めるための図書の見極め、取捨選択。

【問26】 その他、日々感じていること (自由記述)

感じていること 図書館 (自由記述)

- ・自治体のパンフレットなど内容が古くなっているものもあるが、その最新版が出てきているのかどうかの情報がわからない。広報などで目についたものは依頼してもらったりもしているが、収集しきれいていないものがたくさんある。新着本のリスト、館内表示などを作成し、幅広く利用されるようにしたいが翻訳が困難な言語がある。
- ・言葉の問題で利用者にPRをすることが難しい。外国語図書については、出版状況が国によりかなり異なるので、思い通りの資料収集ができない。
- ・外国人の利用は年々増えていると感じています。そこで次年度より外国人向け図書コーナーの設置を考えていますが、生活情報のほか、予算が少ない中でどのように選本、購入していくか模索しています。近くにある国際交流ラウンジとの連携の必要性も感じています。
- ・今年の夏休みに中国人留学生がボランティアの人と共に、中国語原語で書かれた読み物がありますか？と来室したが無かったので厚木図書館を紹介した。
- ・常に一定レベルの情報提供できる人材を確保し続けることが難しいのではないかと感じる。
- ・外国人が自館を利用する場合、日本語で書かれている図書を貸出希望される方ばかりです。利用者のニーズがほとんどない為、外国語図書を所蔵していないのが現状です。町役場にて、中国語、ポルトガル語、ハンガール版の生活情報を提供。図書館の存在を生活情報の中で伝えていないことは今後の課題かもしれない。
- ・予算削減のため、外国語図書においても購入要望にこたえられなかったり、十分な量を収集できない。中国語や韓国・朝鮮語などの非アルファベタイカル言語の図書はシステム上、業務用端末での検索が制限されるため、利用者からの問題に適確に答えられないことがある。
- ・職員の中に外国語が堪能な職員が少ないためになかなかうまくコミュニケーションがとれない。

- ・図書館としては、費用の点などで外国籍の方のための図書も多数購入もできない状態。
- ・外国人は居住しているが、利用者としての来館が少ないので、要望がつかみにくい。
- ・収集や広報などで努力すれば利用されると思うが、他の業務を行う中で時間のかけ方が難しい。チェックシートの出版物「こんにちはかながわ」、「Hello Friends」、「よこはまYokohama」は、収集はしていないが、目につきやすい棚において配本しているものがある。ベストセラー収集はやりやすいが、実用書についてはどの分野をどれくらい集めればよいか、迷う。言葉の問題があり、会話も互いにままならないのが現状で、利用者も要求を出しづらいのではないか。
- ・多言語対応図書の収集は中央のみで行っており、こちらは分館のため行っていません。現在、絵本の外国語版を所蔵しているのみです。ただ、日本語学習のための資料は多少必要と考えております。

感じていること 公民館（自由記述）

- ・必要性は認識しているが、提供のノウハウがよくわからない。当館に限っていうと、外国人の来館もなく提供するスペースもないのでより実感がわからない。
- ・行政による直接的なサービスの拡大には限界があるので、ボランティア活動やNGO等に期待する他はない。活動の主体が確立していれば、施設として支援、協力するためのシステム等の基盤は一定程度整備している。
- ・〇〇公民館は地域の人々を担当しており、地域にどれくらいの外国人の方がいるかわからない状況である。市民ホール等の大きな建物を担当しているなら外国語表示もするべきだが、〇〇市の地区公民館ではなかなか難しいと思う。
- ・時々外国人が窓口にこられますが、片言の英語や身ぶり、筆談等で苦労しながら対応しています。職員が語学力を高める他、やはり各外国語で書かれた生活情報を用意する必要があると思われる。
- ・英語、ハンデル等の案内書をパンフレット架に置くとほとんどが日本人が持つて行き、置くのも、取るのも自由に活用していただいています。
- ・公民館区域に外国人がいるかどうかかわからないことと外国人が公民館に来館することが現段階ではない。利用もない。
- ・先の設問にもありましたが、外国人の需要が少ない。提供も必要ですが、お互い需要と供給のバランスが保たれればと。行政として情報提供のPR不足を補えるように力を入れ、サービスを向上し、利便性等を考慮に入れていきたいと思う。
- ・少しずつ、国際化を進めるための人材を育てて、外国人と共生できる地域環境をつくります。
- ・教育、子育て、介護（福祉）等の情報を母語で提供することの必要性があ

る。タテ割り行政の弊害が外国人の様々な課題解決を阻害している。外国人を地域に住む生活者としてとらえ、総合的な対応ができるシステムが必要ではないか。

- ・公民館区内には外国人が少ないようで、当館公民館利用者もほとんどいない状況である。
- ・今後は担当課と連携をとっていきたい。
- ・外国人の利用は現在ありませんが、その提供が周知されれば、そのニーズ等も把握され自ずと利用されてくると思われる。
- ・言語、文化の違いに対応しきれない。日常生活の支援ができきれない。
- ・外国人の方の利用はほとんどなく、あっても、サークルが講師として呼んだ方が多く、日本語のわかる方がほとんどのため、現時点では特段の問題を感じない。
- ・言葉の問題（翻訳できない）。
- ・インターネットの普及により、日本語学級をたずねてくる外国人がいる。しかし、一方で全く日本語を話せない場合も増えている。
- ・利用者が無いため、取り組みが遅れている。
- ・交通機関（駅等）に外国人への情報コーナーを設けたらどうか（田舎の駅も）
- ・日本語のできない外国人の来館は少ないが、外国人に対しても日本人と同様に情報提供ができるようにしていきたいと考えています。

感じていること 国際交流協会（自由記述）

- ・当協会には、ラウンジ等、外国人市民に広く集まって頂ける様なスペースがないので、情報提供があまり進んでいません。インターネットでの提供をもっと進められたらと思っています。
- ・情報提供は、外国人もしくはその周囲の人からの照会、依頼を受け、初めて行われるのが現状である。生活情報、行事の案内ももちろんであるが、災害時などの対応などについても、もっと積極的な情報の提供が必要だと思う。
- ・外国人が必要とする最新の情報を提供するには、日頃から他機関とも連携し、情報をいかに多く収集するかが重要と感じている。
- ・どこへ行って何をすればよいか、情報源を把握していることが重要だと思う。
- ・外国語図書を集めても現在それを保管しておく場所がない。（外国籍の人の利用はあっても）。日系ブラジル人の労働者家族が多く居住しているが、ポルトガル語の情報誌（県、市等）が無く困っています。

感じていること 国際交流ラウンジ（自由記述）

- ・スペース上の制約が大きく、自由な活動が制限されている。
- ・各地区で持っている情報を必要な時に最新のもので入ることができるリストあるいはインターネットサイトがあると良いと思う。本来1ヶ所が管理してくれるのが良いと思う。
- ・出来るだけ外国人のニーズに添った情報の提供を心がけている。そのためのヒヤリングを常時実施するよう努力している。
- ・多言語生活情報の多くが、先行事例の成果と反省に学ぶことなく単発的、散発的に出ては消えているように感じている。使える資料、内容の濃い資料の再版があまりなく、安易につきはぎし、誤訳の多い資料が散見される。地域内及び地域を越えた連携、情報の共有化が作り手、使い手双方に求められている。その仕組みづくりや拠点となる場所の提供が、これからもラウンジの大きな使命の一つであると思っている。常に用意する側、される側といった立場に固定することなく、外国人自身が情報の収集、整理、提供、発行をする側に立つ機会が増えるようこれからも工夫すると同時に、当事者の積極的な参加、関与を望んでいる。諸外国語への翻訳と並行して、何を正確に伝えるべきかを明確にし、日本語原文の整理、翻訳者のサポート（機構や仕組み、言葉のかみくだき等）が必要と思われる。理解しやすい平易な日本語化も様々な手段と組み合わせて取り入れていきたい。

第3節 ヒアリング

1. 横浜市泉図書館

日時：2004年12月21日

場所：横浜市泉図書館

対象：横浜市泉図書館司書 田高桂子さん

【背景】

図書館は1989年に開館した。多文化コーナーは、できるところからちょっとずつ始めていくという段階。コーナーを始めたのは99年度末くらいから。担当者が区役所に話を聞いたりしながらコーナーの設置を準備した。当初の担当者は異動してしまっているが、試行錯誤は続けている。泉区内には中国・ベトナム・ラオス・カンボジア国籍の外国人市民が多い。以前、大和に難民定住センターがあったことから、大和市に比較的近い泉区内の県営団地に入居している人が多いのではないかと。2004年11月末現在で市内在住のベトナム国籍者は1,296人。うち泉区在住は604人。カンボジアは395人中159人、ラオスが123人中48人。(横浜市のホームページ「統計でみる横浜」の人口>区別外国人登録人口より)半分近くが泉区内に在住しており、市内でインドシナ系の方が多い地域といえる。団地にある小学校には外国籍児童が多い。子どもたちは日本生まれが多く日本語の方が得意だが、親は母国語の方が得意で、親子のコミュニケーションが難しいことを、団地内の学校におはなし会に行ったときなどに、先生から聞いたことがある。

【多文化コーナーと多言語図書の収集】

泉図書館としては多文化コーナーを設けて多言語図書の収集と、多言語での表示・広報をおこなっている。外国語の図書の冊数は、2004年3月末現在で1591冊(児童書含む)。うちベトナム語約350冊、中国語約450冊。残りは英語・ハンゲル・その他の言語。雑誌はベトナム語、中国語とも1誌。ベトナム語の雑誌は、在日ベトナム人向けに日本で出版されているもの。中国語はビジュアルな総合誌。ベトナム語の資料は現地から購入できる日本の書店を通して入手している。カンボジア語、ラオス語は入手困難とのことで揃えられておらず行政資料のみである。以前カンボジアの方が来館してくれたのだが、カンボジア語の本が一冊もなかったのが、すっかりして帰られたことがある。中国語の図書は、国内の中国語資料を扱っている書店に直接行き、現物を見て選んでいる。

購入する図書の選定にあたって、所蔵資料の貸出実績を参考にしている。今までに入れた本の中から、ジャンルごとに貸出回数を調べて、どんな本の利用が多いか傾向を把握する。区役所の窓口で相談に対応している通訳の方や、外国籍市民をサポートしているボランティアの方に意見を聞いたこともある。

ベトナム語資料の利用者は女性が多く、育児、家事、料理についての本の貸出が比較的多いと感じる。中国語資料の利用者は高齢者が多く、中高年向けの健康の本が貸し出され

ているという印象を持っている。ベトナム語・中国語とも、小説はよく読まれるようだ。それぞれの言語ごとの貸出実績は統計では出ない。また、カード登録のときにも国籍を記入はしないので、ベトナム語・中国語資料がどのぐらい利用されているかということや、外国籍市民がどのぐらい図書館を利用しているかという利用の実態は、返却されるときの本の出入りや書架での動き具合から読み取っている。

実際にどんな本が求められているかのニーズの把握について、直接外国籍市民に意見を聞いたりアンケートを取ったりしたことはなく、区役所の通訳や、ボランティアを通して情報を得た。コンピュータ関連の本、現地の週刊誌などの要望が上がったが、応えられたものと応えられなかったものがある。

【多言語表示】

多文化コーナーには、ベトナム語・中国語・ハンゲルの簡単な表示を出している。また、新着本の表紙をコピーしてファイルし、どんな本が新しく入ったか見られるようにし、書架から探す場合の分類番号、書架に無い場合に予約する時に必要な図書番号を付している。今までに、新着の外国語図書の予約を受けたことはほとんどなく、参考になっているかはわからない。新着図書の装備は中央図書館が一括して行っているので、外国語資料についても中央図書館で行なっているが、泉図書館ではさらに、自館の外国語資料の中で多い、英語・中国語・ベトナム語・ハンゲルの資料の背に言語別のラベルを貼って、言語別に配架している。また、周囲の協力により、ベトナム語の利用案内やチラシを作成した。中国語の利用案内も、市内で中国籍の人の利用が多い中国語館が作成した利用案内を泉図書館用に変更したものを配布している。新着図書のリストは中国語については作成可能だが、ベトナム語は理解できる職員もいなく、自館での作成は難しい。協力して作ってもらったことはあったが、継続して作成していくことが出来ず、課題となっている。

【他館等との連携 広報・貸し出し】

ベトナム語の利用案内、チラシは、外国籍市民が多い三つの小学校、一つの中学校、地区センターに持って行って広報をお願いした。学校の先生方の話では、外国籍の住民が多い団地のある地域からでは図書館はバスに乗って行かなくてはならないので、交通の便がよくない、通勤などでは大和方面に出る人が多いので、通勤・通学途中に図書館に寄ることは出来ない、ということで、なかなか図書館の利用につながらないのではないかとということだった。当該の団地には市を越えて大和市にもまたがっているところがあるが、市立図書館は横浜市に在住・在勤・在学者以外は資料の貸出が出来ない。

【多言語生活資料】

図書館に送付されてくるものについては、多文化コーナーに置いて閲覧可能にしている。配布分もあるものは、多文化コーナーで「ご自由にお持ちください」という表示を出して

第1章 社会教育施設等調査結果

はいふ配布している。よこはましやくでだしているしりょう資料については、ちゅうおうとしょかん中央図書館でほとんどもうら網羅してしゅうしゅう収集していると思うが、しゅうしゅう収集しきれていないものもあるようだ。じゅうがつ10月からいづみく泉区でゴミのだし方がかわった。「こほう広報よこはま」のいづみくばん泉区版に「たげんご多言語で『ゴミのだし方』のりふレットを作成しました」というきじ記事が載っていたので、くやくしょ区役所に問い合わせて、わけてもらったということもある。

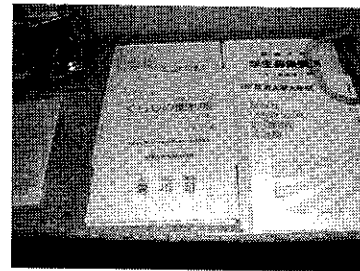
じちたい自治体でだしているしりょう資料など、こうしん更新のじまきがわかりにくいので、けっか結果としてふるもののが残ってしまう。しゅうしゅう収集したものそれぞれについてこうしん更新の有無を問い合わせるのはむずかしい。たげんごせいかつしりょう多言語生活資料をしゅうしゅう集中してあつかうじょうほう情報センターのようなものがあるとよいと思う。

【レファレンスとしてのインターネットによるたげんごせいこうほうていきょう多言語情報提供】

いづみとしょかん泉図書館にはりようしゃ利用者がかくせつ直接インターネットのけんさく検索をできるたんまつ端末はない。

2. 愛川町立中津公民館

日時：2004年12月22日
場所：愛川町立中津公民館（レディース・プラザ）
対象：愛川町教育委員会 生涯学習課
後藤幸一さん
愛川町立中津公民館長 萩田允子さん



中津公民館に置かれている
多言語版くらしの便利帳

●愛川町教育委員会 後藤幸一さん

外国人登録者数は着実に増えてきている。実際、この1年で外国人登録者数は約170人（2004年12月現在）増えている。外国人人口比も約5.4%と、県内でも1,2を争うのではないかと。ペルーとブラジル国籍が7割を占めているので、役場には窓口にはスペイン語とポルトガル語話者の非常勤職員を置く等、スペイン語とポルトガル語への対応を中心にしてすすめている。英語でも対応できるようにしているが、実際、英語での対応はほとんどない。他の言語については通訳を伴って役場に來られるので、特に対応に苦慮したという事はあまりないが、今後、より適切に対応できるように検討していきたいと思う。

愛川町の国際化施策事業は、生活や子どもたちの学習をサポートするのが主で、交流事業は相対的に少ない。教育委員会では、生涯学習課が地域の国際交流の部分を担っており、おもに中津公民館が事業を展開している。国際交流クラブは町及び社会福祉協議会からの助成を受けて国際交流の活性化をめざし活動している。他に愛川町役場に隣接している文化会館の2Fの図書室（CD、ビデオあり）では、外国籍児童に参加してもらえるよう積極的な呼びかけをしながら、子どもたちに喜んでもらえる事業を毎年実施している。

外国籍住民は工業団地がある関係で南部の中津地区に集住しているため、中津公民館を拠点に様々な国際交流事業を展開している。しかし、他の地区には外国籍住民がほとんどいないという実情から、他の館では外国語講座のように外国語に親しむ場は設定しているが、特に国際交流事業は実施していない。また、国ごとのグループ結成・活動支援や定期的に交流する機会の拡充については中津公民館と国際交流クラブが協同で取り組んでいる。このことに関連して、現在、少数のエスニックグループの実態把握を進めているところである。

これからも中津公民館の取り組みを中心に、外国籍住民の生涯学習の充実に努めたい。

● なかつこうみんかんちょう おぎたみつこ
中津公民館長 萩田允子さん

【施策と背景】

・「愛川女性プラン」によって国際交流広場が中津公民館に設置され、ペルー料理教室などの国際理解講座、交流事業が展開されるようになった。当初は、外国籍住民に日本の文化・慣習を紹介する企画だったが、相互に学び合うために、「外国籍住民から学ぶ」という考え方を入れた。日本語教室(語学研修)の受講者(子どもたち)の母親たちを料理教室の講師として始めた。最初の講座参加者は20人。

【日本語教室、スペイン語教室】

・愛川国際交流クラブによる日本語教室が運営されている。受講者は約50人。検定試験、生活に関わる情報へのアクセスなどが日本語学習のニーズになっており、このニーズに合わせたクラスがある。受講者の人数が増えることはいいことだが、ある程度体系化した「指導法」等のシステムがないと、進歩の度合いが見えないという指摘もある。日本語指導をより効果的なものとするために、どのような指導体系をつくって来年度進めるのか、今年度中にまとめていく必要がある。神奈川県国際交流協会の「国際教室などで使える教材」のホームページについては、今後、活用していきたいと考える。小中学生の段階については、「ひろこさんの日本語」をテキストにしながら対応してきたが、成人の日常生活の日本語を教えてほしいという要望にこたえるのが難しい。スペイン語とポルトガル語についての生活情報はできているが、日常会話の教授法についての壁を感じている。

・ドミニカーナの方が「日本人」にスペイン語を教えるスペイン語講座も開催されている。

【主な交流イベント】

・年2回(子どもフェスタ、年忘れフェスタ)、国際交流クラブと中津公民館とが発信するイベントを開催している。イベントへの参加は積極的で家族ぐるみで楽しく過ごしているケースが多い。子どもフェスタは、日本語教室受講生の中、進学のお祝いを兼ねた恒例行事で、先輩の中学校生活の感想、民族舞踊を披露するなどの交流会。80名が参加。

【外国籍住民のリーダーの養成、まちづくりへの参画】

・国際交流の拠点として館の中に「国際交流ひろば」を設置しているので、この灯をともし続けていく必要がある。集うメンバーが固定しがちだが、もっと新しい住民に広げていかななくてはならない。今年度は愛川国際交流クラブが町に「まちづくり事業」として、国際交流事業を提案し承認されたことから、幅広い活動の展開を図ってきたい。

40カ国の外国籍住民の各国それぞれのリーダーを募り、自国の文化を相互に大切に

できるような交流事業をめざして、リーダー養成のためのリーダー会議を開催している。(年2回程度)リーダー会議では、同国籍の住民に呼びかけて年に1回でも2回でも館を利用して、母国語で話せるような集会を企画したり、民族文化の催しをみんなで立ち上げていくことを双方から提案した。ラオス・ブラジルのリーダーは自国の住民の把握ができることが確認された。今年は伝統文化を大事にしようということになり、民族舞踊を中心にした企画を練っている。併せて、今年はラオスとブラジルの人たちが中心になって生活上の悩み事を聞き合うフォーラムを開催しながら、地域に根ざしてゆくきっかけ作りができればと考えている。リーダー層がしっかり構成されて、10年、20年後に川崎や横浜のように自分たちの町のイベントを自分たちの手で支えていく「まちづくり」への積極的な参加になれば、中津公民館が外国籍住民にとっての集う拠点としてよりよく機能するのではないかと考えて立ち上げた企画である。先進事例から学ぶために、「川崎市市民代表者会議」の傍聴もおこなった。外国籍住民のリーダーには公民館の会議にも参入してもらい、その声を聞きながら活動していくことが必要だと思ふ。

【学校との連携】

「年忘れフェスタ」では、学校(町内6小学校、3中学校)との連携を心がけている。昨年度は愛川中学校の卒業生によるパネルシアター、今年度は半原小学校児童による合唱、愛川東中学校生徒によるパネルシアターを実施した。また、日程調整がつかず実現しなかったが、外国籍の未就学児の交流を考えて幼稚園との連携も考えた。ここでの司会進行は外国籍児童が担当した。今後は、ジュニアリーダーとの連携も視野に入れて活動を展開していきたい。このように、他の公民館事業においても小・中高校生との連携を基盤とした事業を広げていきたいと考える。

【多言語情報をいかに行き渡らせるか】

多言語情報の流通に関しては、「もの」による多言語情報の提供ではなく、交流する中で情報が自然に提供されているというのが現状。情報をより浸透させるために、館でおこなう事業については、リーダーに無償で翻訳をしていただき、母国語と日本語併記のチラシを作成しイベントを告知する取り組みを進めている。今年からこのチラシを拡大して、町内にある外国籍住民が利用している食料店や料理店に貼る方法を試みている。ポスターサイズに引き伸ばす費用は「まちづくり事業」として町からの助成金から支出している。

町の施策の浸透は、それを具現化して初めて意味を持つ。しかし、こうした事業を継続していくためには外国籍住民同士の結びつきを強くして自主的な参加を促していくと同時に一般の「賛助会員」を増やし、根っこを支えていくようにしなければならない。しっかりとした基盤作りのために、双方の国際交流・多文化共生に対する関心や理解が深まるよう、取り組みを工夫していきたいと考える。

【通訳NPOのこと】

・愛川町に外国籍住民が増加傾向にあった時、ボランティアの方に、外国籍住民の生活面のアドバイスをはじめ、健康手帳の使い方や遠足・校外学習の通知文の翻訳など学校教育との掛け橋となっていた。現在、庁舎には外国籍住民のための話者（非常勤職員）が窓口業務を担当している。



中津公民館に貼られている多言語ポスター

第2章 だい しょう 教育委員会・学校調査結果 きょういくいんかい がっこうちょうさけっか

第1節 調査結果の概要

アンケート調査の5つのカテゴリーについて、調査結果の概要を市町村教育委員会、学校(国際教室を設置している公立小中学校)別に以下にまとめた。

1. 多言語資料の作成・利用状況

(1) 教育委員会

- ・ 学校生活を説明する多言語資料は、14市町村(38%)が作成または利用、学校通知文の翻訳集・訳語集は、15市町村(40% *注)が作成または利用している。双方とも、外国人児童生徒等の在籍率の高い横浜市、大和市、藤沢市等で作成され、外国人児童生徒等の在籍率がそれよりも少ない市では、他市の資料を利用しているケースも見られる。
- ・ 教科学習で使われる多言語教材を作成または利用しているのは7市町村(19%)であり、上記資料に比べ、作成も利用も少ない。
- ・ 11市町村(30%)で、在学証明書、卒業証明書、成績証明書等の書類が多言語化されている。

(2) 学校

- ・ 学校生活を説明する多言語資料は、44校(49%)が作成または利用している。学校通知文の翻訳集・訳語集は保護者に対し、43校(48%)が作成または利用しており、双方とも、外国人児童生徒等の在籍率の高い横浜市、大和市、秦野市等の教育委員会で作成されたものが多く使われている。独自に説明資料を多言語で作成している学校もある。他府県の教育委員会や学校のホームページに掲載された資料を利用するケースも見られる。一方で、教育委員会が通知文翻訳集を発行している市町村でも、通知文翻訳集を利用していないと回答する学校も複数ある。
- ・ 教科学習で使われる多言語教材は、41校(47%)が利用している。
- ・ ほかに、市や市国際交流協会の発行する多言語の生活情報誌を提供している学校も見られる。
- ・ 図書室に外国人児童生徒等の母語で書かれた図書資料が置いてあるのは31校(34%)、国際教室に置いてあるのは44校(49%)。児童生徒の国際理解教育の教材としてのほか、外国人児童生徒の母語教育の教材として利用したり、読書ニーズに応えることを目的に所蔵している。

*注 15市町村の全体に占める割合は、41%に近くなるが、図2-3(119頁)のグラフに準拠した。

2. 通訳・翻訳

(1) 教育委員会

- ・通訳を依頼している市町村は、21市町村(57%)あり、入学までの手続き、学校の説明会、児童生徒指導などに加え、懇談会・面談、家庭訪問、学習支援等で通訳を依頼している。
- ・翻訳を依頼しているのは、15市町村(41%)あり、通信簿と学校通知文の翻訳が目立つ。
- ・通訳・翻訳者の派遣が十全ならば、多言語資料を作成しておく必要がないという声もある。

(2) 学校

- ・通訳を依頼している学校は、77校(86%)あり、個人面談、家庭訪問などとともに教科指導の場面で通訳を依頼している学校が28校(31%)ある。翻訳は、61校(68%)あり、内容は多岐にわたる。
- ・依頼相手は、ともに日本語指導協力者が最も多く、通訳は41校(46%)、翻訳は37校(41%)が依頼している。

3. 他機関・組織との連携状況

(1) 教育委員会

- ・18市町村(49%)が他の市町村と多言語情報に関する情報交換を行っている。他の教育委員会が発行している多言語資料を参考のために提供してもらったケースが多く、10市町村(27%)ある。

(2) 学校

- ・外国人児童生徒支援を目的に、学校内外の団体・機関との連携があるのは73校(81%)。多い連携相手は、国際教室担当者連絡会と市町村教育委員会である。市町村国際交流協会には主に通訳翻訳の依頼を行っており、その他、地域の日本語ボランティア教室、学習補習教室、母語教室等との情報交換や連携も見られる。他に、学校の外国人保護者への通訳翻訳依頼、大学の留学生や日本人学生への授業サポート依頼もある。横浜市の鶴見区や泉区上飯田地域などでは、地域団体との連携とともに、複数の学校間の連絡会が開かれている。

4. 多言語化が望まれる資料

(1) 教育委員会

- ・今後、多言語化されるとよいと思う資料が「ある」という回答は8件(22%)ある。内容は、教科書や教科の補助教材など教科指導に利用する資料が目立つ。ほかに、日本語指導教材、進路や入試に関する情報の多言語化を望む声や、「必要とされる情報が多言語化できるシステムが広域的にある」という声もある。

るとよい」という意見もある。

(2) 学校

- 今後、多言語化されるとよいと思う資料が「ある」という回答は35件(39%)である。内容は、教科書や教科の補助教材など教科指導に利用する資料が圧倒的に多く、ダイジェスト版やルビ振りだけでもほしいという切実な要望が目立つ。ほかに、市独自の学校通知文の作成、保健関係の翻訳文書の充実、通信簿等の評価の翻訳等を望む声がある。

5. 多言語情報に関する主な意見と要望

(1) 教育委員会

- 通訳・翻訳言語が多岐にわたり対応できない、有料の通訳・翻訳システムは利用できないなど、通訳者・翻訳者の確保が、予算的に難しく、また、適任者が見つからない。
- ラオス語など、特定言語の通訳者が神奈川県内に不足しているため、県全体で人材を確保できるシステムができるとよい。
- 高校進学ガイダンスを多くの地域で開催してほしい。現在、高校の情報提供を多言語で行っているのはNGOの「多文化共生教育ネットワークかながわ」のみである。
- 今回の調査により、市町村間での情報や資料の共有化や、今後の共同による取り組みにつながれば大変うれしい。

(2) 学校

- 通訳・翻訳を依頼できる体制が不十分である。通訳者の人材バンク、急な要請に対応できる通訳システム等がほしい。また、特に翻訳を依頼できる仕組みが不足している。
- 日本語指導協力者は日本語指導の他、学校と家庭間の連絡、児童生徒が母語で話せる理解者として重要な存在であるが、現在の体制では不足しており、協力者の増員、指導時間の増加が望まれる。
- 「タガログ語」「タイ語」「カンボジア語」等の少数民族言語の資料、用語集、図書が不足している。
- 「帰国する児童生徒が必要な書類」「日本語教室・学習支援教室・母語教室の一覧表」「日本にある外国人学校一覧表」などが共有できるとよい。情報を共有する際には、資料のホームページ掲載や拠点校への送付など、アクセスのしやすさが重要だ。
- 外国人保護者ともっと連絡をとって連携する必要性を感じながら、保護者に学校に来てもらえず、話をする機会が持たないで困っているという悩みが少なくない。

第2節 調査結果

ここでは、アンケート調査票の各「問い」について、次の点をふまえ、回答結果を具体的に示す。

- ①アンケートの中では、国籍にかかわらず、外国につながる、日本語指導が必要な児童生徒を「外国人児童生徒等」と呼ぶこととする。
- ②神奈川県内の37の全市町村の教育委員会から回答が得られたが、回答した市町村の中には、「該当する外国人児童生徒等がない」という市町村もあった。(第4章 資料3参照)
- ③言語は、日(本語)、中(国語)、韓(国・朝鮮語)、ベト(ナム語)、ラオ(ス語)、カンボ(ジア語)、タガ(ロク語)、ス(ペイン語)、ポ(ルトガル語)、英(語)と省略して表記する。
- ④教育委員会や学校の参考になると思われる先進的な試みを行っている事例の場合は、市町村名、学校名を明記する。
- ⑤回答がなかったり、該当する回答以外の記述は、「該当回答なし」として扱う。
- ⑥資料の形態において、ホームページ(ウェブサイト)は、「Web」と表す。

1. 教育委員会

(1) 多言語資料の作成・利用状況

【問1】 2004年度入学手続きに関し、在日外国人の保護者に対し、就学案内を作成し、送付しましたか？

在日外国人の保護者に対し、就学案内を送付している市町村22市町村(59%)のうち、日本語以外の言語で就学案内を作成しているのは、8市町村(22%)である[図2-1]。外国人児童生徒等の在籍率の高い横浜市、川崎市、藤沢市、大和市、秦野市、綾瀬市、伊勢原市、厚木市が、複数の言語で、就学通知を外国人保護者へ送付している[表2-1]。就学案内を送付していない市町村のほとんどは、今年度に該当する児童がいなかった。また、人口が少なく、外国人の在住も少ない市町村では、「就学案内を送付せず、転入の際などに窓口で書類を渡ししながら説明している」との回答もある。

図2-1 就学案内の送付

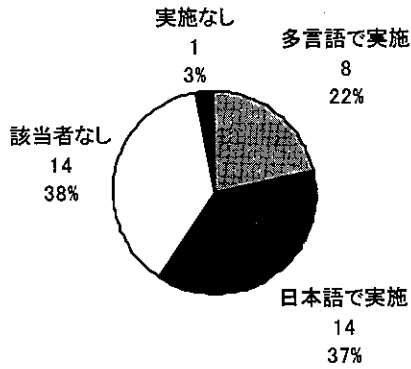


表2-1 就学案内の対応言語

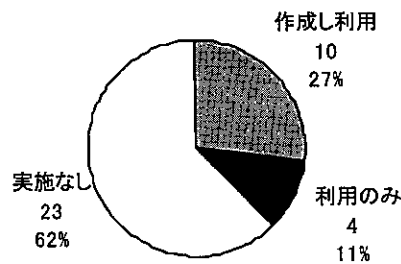
| 対応言語 | 件数 |
|---------|----|
| 中国語 | 5 |
| 韓国・朝鮮語 | 3 |
| ベトナム語 | 7 |
| フランス語 | 5 |
| カンボジア語 | 4 |
| タガログ語 | 3 |
| スペイン語 | 9 |
| ポルトガル語 | 9 |
| 英語 | 7 |
| ルビつき日本語 | 8 |
| ルビなし日本語 | 10 |

【問2】 学校生活を説明する資料を作成または利用していますか？

学校生活を説明する多言語資料を作成または利用している市町村は14件(38%)である。外国籍児童生徒の在籍率の高い10市町村(27%)では、作成し利用されている。外国籍児童生徒在籍率がそれよりも低い市町では、横浜市、大和市等の資料を利用しているケースも見られる。NGO「多文化共生教育ネットワークかながわ」が発行した「高校進学ガイドブックかながわ」の利用も2件ある。

図2-2・表2-2

図2-2 学校生活を説明する多言語資料の作成・利用



第2章 教育委員会・学校調査結果

表 2-2 学校生活を説明する多言語資料

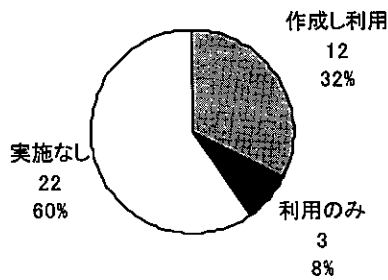
| | タイトル | 発行者 | 発行年 | 言語 | 形態 | 利用 |
|---|--|---|------------------------|-----------------------------|------------|----|
| 1 | きょうからはまっこ | よこはましきょういくいいんかい 横浜市教育委員会 | 2000 | 日・中・韓・ベト・タ ガ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 3 |
| 2 | がいこくじんほごしゃようしゅうがく 外国人保護者用就学ハンドブック 「ともに生きる社会をめざして」 | かわさきしきょういくいいんかい 川崎市教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ス・ポ・ 英 | リーフレ ット | 1 |
| 3 | たの がっこう がいこくじんじどうせいと ほごしゃ 楽しい学校～外国人児童生徒・保護者のた め の 学 校 の 手 引 き | やまとしきょういくいいんかい 大和市教育委員会 | 1993 | 中・韓・ベト・ラオ・カン ホ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 4 |
| 4 | ビデオ「日本の学校生活」 | ふじさわしきょういくいいんかい 藤沢市教育委員会 | | | ビデオ | 2 |
| 5 | がいこくじんじどう せいと てびき 外国人児童・生徒の手引 | さがみほらしきょういくいいん 相模原市教育委員 かい | 1994 | 中・韓・ベト・ラオ・タ ガ・タイ・ス・ポ・英 | | 2 |
| 6 | しんがくしどうよう 進学指導用パンフレット | さがみほらしきょういくいいん 相模原市教育委員 かい | | 中・韓・ベト・ラオ・カン ホ・タガ・タイ・ス・ポ | | 1 |
| 7 | きこく とにち じどう せいと がっこう せいかつ 帰国・渡日児童生徒学校生活サポート じょうほう ほごしゃ かたがた 情報「保護者の方々へ」 | おおさかふきょういくいいんかい 大阪府教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ベト・ポ | Web | 0 |
| 8 | がいこくじんじどうせいときょういくしりょう とよはし がっこう 外国人児童生徒教育資料「豊橋の学校 あんない 案内」 | とよはししきょういくいいんかい 豊橋市教育委員会 | | ポ | Web | 1 |
| 9 | こうこうしんがく 高校進学ガイドブックかながわ | たぶんかきょうせいきょういく 多文化共生教育ネ ットワークかながわ | 2002 | 日・中・韓・ベト・ラオ ・カンホ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 2 |
| | にほん がっこう 日本の学校 | あやせしきょういくいいんかい 綾瀬市教育委員会 | 1991 一 ぶかいせい 部改正 | 日・中・ス・ポ | | 2 |
| | がいこくせきじどうせいと ほごしゃ がっこう 外国籍児童生徒・保護者のための学校の てびき がっこう い 手引き「学校へ行こうよ」 | ふじさわしこくさいきょうしつ 藤沢市国際教室 たんどうしゃ かい ふじさわし きょういくいいんかい 担当者会／藤沢市 教育委員会 | 2003 | 中・ベト・ス・ ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | ようこそ日本の学校へ | えびなしきょういく 海老名市教育セン ター | 1996 | 日・中・韓・ラオ・ タイ・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | がいこくじんじどう せいと しえん 外国人児童・生徒の支援のために | はだのしきょういくけんきゅう 秦野市教育研究 しょ | 2004 | 日・ベト・ラオ・カンホ・ ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | がっこう | ひらつかしきょういくいいんかい 平塚市教育委員会 | | カンポ | さっし 冊子 | 1 |
| | にほん がっこう せいかつ がっこうせいかつ たの 日本の学校での生活～学校生活を楽しく おく 送るために～ | あいかわまちきょういくいいんかい 愛川町教育委員会 | 2002 | 日・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

【問3】 学校通知文等の翻訳集および訳語集を作成または利用していますか？

問2と同様に、学校通知文の翻訳集・訳語集を作成または利用しているのは、15件（40%）である。外国人児童生徒等の在籍率の高い12市町村（32%）では、独自に作成し、利用している。外国人在籍率がそれよりも少ない市町では、横浜市、大和市、藤沢市等の資料を利用している。〔図2-3・表2-3〕

図2-3 学校通知文の翻訳集・訳語集の作成・利用



第2章 教育委員会・学校調査結果

ひょう 表 2-3 学校通知文等の翻訳集・訳語集

| | タイトル | 発行者 | 発行年 | げんご 言語 | けいたい 形態 | りよ 冊 |
|---|--|---|------|-----------------------------|-------------------|------|
| 1 | がっこうようご つうちぶんほんやくしゅう しょうがっこうよう 学校用語・通知文翻訳集 小学校用・ ちゅうがっこうよう 中学校用 | よこはましきょういくいいんかい 横浜市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・ハ・ト・タ ガ・ス・ポ・英 | A4 たんびょう 単票 | 2 |
| 2 | がっこうようごしゅう 学校用語集 | かわさきしきょういくいいんかい 川崎市教育委員会 | | 中・韓・カ・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 3 | つうちぶん ほんやくしゅう 通知文の翻訳集 | やまとしきょういくいいんかい 大和市教育委員会 | | 中・韓・ハ・ト・ヲ・カン ホ・ス・ポ・英 | ファイル | 2 |
| 4 | かてい つうちぶん たいやくしゅう 家庭への通知文・対訳集 | ふじさわしきょういくいいんかい 藤沢市教育委員会 | 1993 | ス・ポ | さっし 冊子 | 3 |
| 5 | がっこうつうちぶんほんやくしゅう 学校通知文翻訳集 | よこすかしきょういくいいんかい 横須賀市教育委員会 | 2000 | 日・中・韓・ス・ポ・ 英 | さっし 冊子 | 2 |
| 6 | つうちぶん ほんやくしゅう 通知文の翻訳集 | さがみはらしきょういくいいんかい 相模原市教育委員会 | | 中・韓・ハ・ト・ヲ・カン ホ・カ・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 7 | きこく とにちじどうせいとがっこうせいかつ 帰国・渡日児童生徒学校生活サポート じょうほう おし ぶんれい 情報「お知らせ文例」 | おおさかふきょういくいいんかい 大阪府教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ハ・ト・ポ | Web | 0 |
| 8 | がいくじんじどうせいときょういくしりょう がっこうぎょうじかんけい 外国人児童生徒教育資料「学校行事関係 あんないぶん ほけんかんけい しよるい の案内文」「保健関係の書類」 | とよはししきょういくいいんかい 豊橋市教育委員会 | | ポ・ス | Web | 1 |
| 9 | こまきしがいくじんじどうせいときょういくれんらくきょうぎかい 小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会 ほんやくぶんしよ 翻訳文書 | こまきしがいくじんじどうせい 小牧市外国人児童生 徒教育連絡協議会 | 2004 | ス・ポ・中・英 | Web | 1 |
| | かてい れんらくたいやくぶんれいしゅう 家庭への連絡対訳文例集 | かわさきしりつしょうがっこう 川崎市立小学校 こくさいきょういくけんきゅうかい 国際教育研究会 | | 中・韓・ス・ポ ・英 | さっし 冊子 | 1 |
| | たいやく がっこう かてい れんらくぶん 対訳 学校から家庭への連絡文 | ざましきょういくいいんかい 座間市教育委員会 | 1993 | ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | つうちぶん ほんやくしゅう ほけんかんけい しゅうがく えんじよ 通知文翻訳集（保健関係、就学援助 せいどなど 制度等） | えびな しきょういく 海老名市教育セン ター | 1998 | 日・中・韓・ヲ・ タイ・ス・ポ | ファイ ル | 1 |
| | かてい れんらくぶんしよとうたいやくしゅう しゅうがく 家庭への連絡文書等対訳集－就学 かんけい ほけんかんけいなど 関係・保健関係等－ | あやせしきょういくいいんかい 綾瀬市教育委員会 あやせしりつしょう 綾瀬市立小 ちゅうがっこうこくさいきょうしつ 中学校国際教室 | 1999 | 日・中・ハ・ト・ヲ・ カンホ・ス・ポ・ 英 | ファイル | 1 |
| | にほんご ぽるとガルご スペイン語対訳 日本語・ポルトガル語・スペイン語対訳 しゅう きほんようご 集（基本用語） | あやせしきょういくいいんかい 綾瀬市教育委員会 | 1991 | 日・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | がいくじんじどう せいと しえん 外国人児童・生徒の支援のために | はだのしきょういくけんきゅう 秦野市教育研究 しよ 所 | 2004 | 日・ハ・ト・ヲ・カンホ・ ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | かてい つうしんぶん 家庭への通信文 | ひらつかしきょういくいいんかい 平塚市教育委員会 | | ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | かくしゅうつうちぶん ほんやく 各種通知文の翻訳 | あいかわまちきょういくいいんかい 愛川町教育委員会 | 2003 | ス・ポ | A4 たんびょう 単票 | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

第2章 教育委員会・学校調査結果

【問4】 教科の補助教材を作成または利用していますか？

教科学習で使われる多言語教材を作成または利用しているのは、7市町村（19%）であり、学校説明資料や学校通知文の翻訳集・訳語集に比べ、作成も利用も少ない。（図2-4・表2-4）

図2-4 教科の補助教材の作成・利用

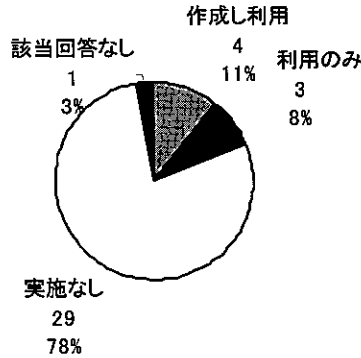


表2-4 母語で書かれた教科学習教材

| タイトル | 発行者 | 発行年 | 言語 | 形態 | 利用 |
|--|-------------|------|-------------------|--------------|----|
| 1 小学校の算数数と計算対訳集 | 川崎市総合教育センター | 1993 | 中・韓・カ・ス・ポ・英 | さっし冊子 Web | 3 |
| 2 楽しい学校～教科書によく出てくる漢字やことば言葉 | 大和市教育委員会 | 1995 | 中・韓・ハ・ラ・カ・ホ・ス・ポ・英 | さっし冊子 | 1 |
| 3 漢字を覚えよう | 綾瀬市教育委員会 | 1992 | ス・ポ | さっし冊子 | 1 |
| 4 算数学習資料集 | 綾瀬市教育委員会 | 1993 | ス・ポ | さっし冊子 | 2 |
| 5 理科学習資料集 | 綾瀬市教育委員会 | 1994 | ス・ポ | さっし冊子 | 2 |
| 6 帰国・来日等の子どものための社会科学習対訳補助教材「日本の地理と産業」 | 大阪市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・カ・タイ・ス・ポ・英 | さっし冊子 | 0 |
| 7 帰国・来日等の子どものための社会科学習対訳補助教材「日本のあゆみと世界」 | 大阪市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・カ・タイ・ス・ポ・英 | さっし冊子 | 0 |
| 8 外国人児童生徒教育資料「対訳教材」（中1数学、初期適応、初期指導） | 豊橋市教育委員会 | | ポ | Web | 0 |
| 小学校の算数 | 平塚市教育委員会 | | ス・ポ | さっし冊子 | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

第2章 教育委員会・学校調査結果

【問5】 在学証 明書や成績 表などの書類を日本語以外の言語で発行していますか？

11 市町村 (30 %) で、在学証 明書、卒業証 明書、成績証 明書、成績表・通信簿などの書類の多言語化が実施されている。英語での発行が多いが、綾瀬市、大和市では、対象者の使用言語へ翻訳を行っている。書類は、児童生徒が海外の学校へ転 入する際に必要とされるものが多い。(図2-5 / 表 2-5)

図2-5 日本語以外の言語での書類の発行

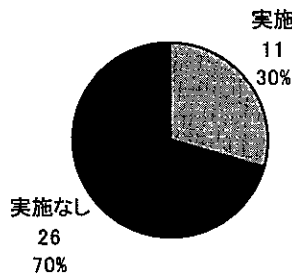


表 2-5 日本語以外の言語で発行している書類

| 書類 | 件数 | 言語 | 発行している市町村 |
|---------|----|----------------------|--|
| 在学証 明書 | 9 | 英 | 横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、葉山町、二宮町 |
| | | ス・英 | 藤沢市 |
| | | ス・ポ | 平塚市 |
| | | 中・韓・ベトナム・カンボジア・ス・ポ・英 | 綾瀬市 (依頼に応じて作成) |
| 卒業証 明書 | 3 | 英 | 横浜市、横須賀市、鎌倉市 (各学校が発行 例文を各校に配布) |
| | | ス・英 | 藤沢市 |
| 成績証 明書 | 7 | 英 | 横浜市 (学校が参考にするサンプルを作成)、横須賀市、鎌倉市、逗子市、葉山町、二宮町 |
| | | ス・英 | 藤沢市 |
| 成績表・通信簿 | 4 | 英 | 川崎市 |
| | | ス・ポ | 平塚市 |
| | | 中・韓・ベトナム・カンボジア・ス・ポ・英 | 綾瀬市 (保護者の状況に応じて作成) |
| | | 中・韓・ベトナム・カンボジア・ス・ポ・英 | 大和市 (教育相談員等によって翻訳依頼) |

【問6】 これまで【問1】から【問5】までに回答した資料以外に、多言語資料を外国人児童生徒等および保護者に案内していますか？

問1～問5までの資料以外に多言語資料を案内している市町村は7件(19%)である。公立高校の入試案内の多言語化を行っている市(相模原市)や奨学金情報を多言語で提供している市(藤沢市)がある。生活全般の多言語情報を教育委員会が案内しているケースもある。[図2-6/表2-6]

図2-6 問1～5以外の多言語資料の案内

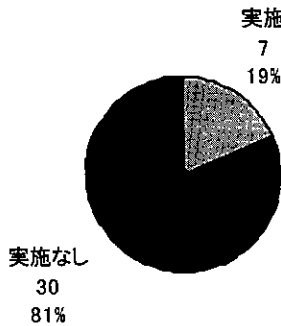


表2-6 教育委員会が案内している問1～問5までの資料以外に多言語資料

| タイトル | 発行者 | 発行年 | 言語 | 形態 |
|----------------------|--------------|------|------------------------------|------------|
| 外国人就学申請書/就学承諾書 | 横浜市教育局 | 2001 | 韓・英 | |
| 就学援助制度のお知らせ/就学援助申請書 | 横浜市教育局 | | 日・中・韓・ベトナム・タイ・カンボ・ス・ポ・英 | |
| 市奨学金のお知らせ | 藤沢市教育局 | 1993 | 中・ベトナム・ス・ポ・英 | |
| 藤沢市生活ガイド | 藤沢市 | 毎年改訂 | 中・韓・ベトナム・ス・ポ・英 | 冊子・Web |
| 神奈川の公立高校入試案内 | 相模原市教育局 | 1997 | 日・中・韓・ベトナム・タイ・カンボ・ス・ポ・インドネシア | 冊子 |
| あやせシティライフ 綾瀬市多言語情報資料 | 綾瀬市(男女共同社会課) | 毎年2回 | 日・中・韓・ベトナム・カンボ・ス・ポ・英 | A3 おもてうら表裏 |
| 保健関係翻訳資料 | 秦野市教育局 | 2004 | 中・ベトナム・タイ・カンボ・ス・ポ | CD |
| 二宮町ゴミの出し方・分け方 | 二宮町役場環境課 | 2004 | 日・中・韓・ス・ポ・英 | リーフレット |
| 二宮町ゴミの分類 | 二宮町役場環境課 | 2004 | 日・中・韓・ス・ポ・英 | リーフレット |
| 生活ガイドブック「くらしの便利帳」 | 愛川町教育局 | 2004 | ス・ポ | 冊子 |

(2) 通訳と翻訳

【問7】 通訳を依頼したことがありますか？

【問8】 翻訳を依頼したことがありますか？

通訳を依頼している市町村は、21市町村（57%）あり、入学までの手続き、学校の説明会、児童生徒指導などに加え、懇談会・面談、家庭訪問、学習支援等で通訳を依頼していた。〔図2-7/図2-9/表2-7〕

翻訳を依頼しているのは、15市町村（41%）あり、通信簿と学校通知文の翻訳が目立った。〔図2-8/図2-9/表2-7〕

通訳・翻訳者の派遣が十全ならば、多言語資料を作成しておく必要がないという声も聞かれた。

図2-7 通訳を依頼したことがあるか

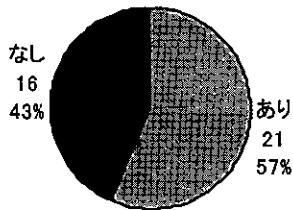


図2-8 翻訳を依頼したことがあるか

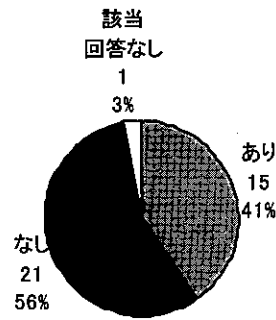
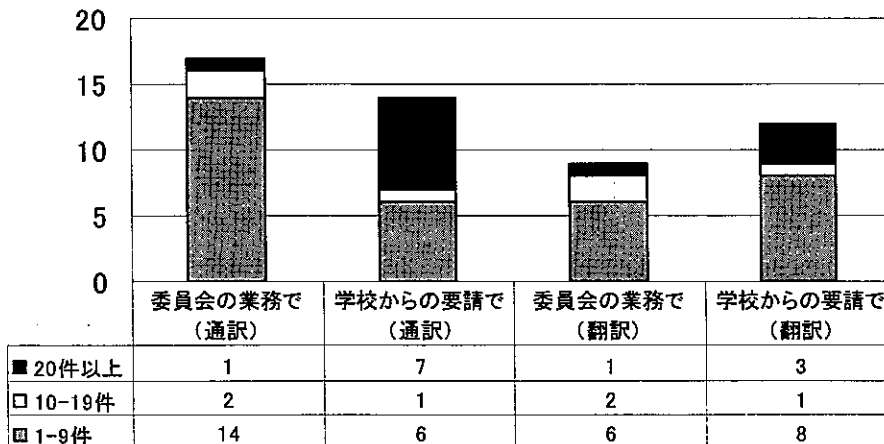


図2-9 通訳・翻訳の依頼件数（件/年間）



第2章 教育委員会・学校調査結果

ひょう 表 2-7 つうやく ほんやく ないよう ふくすうかいどうか
通訳・翻訳の内容 (複数回答可)

| ないよう 内容 | つうやく 通訳 | ほんやく 翻訳 |
|----------------------------------|------------|----------------------------------|
| にゅうがくまえ てつづ せつめい 入学前の手続きや説明 | 9 | 2 |
| にゅうがくご がっこう せつめいかい 入学後の学校の説明会 | 10 | 3 |
| じどうせいとしどう 児童生徒指導 | 10 | 4 |
| そのた その他 | 11 | 11 |
| こんだんかい 懇談会 | 5 | つうしんぼ 通信簿 6 |
| かていほうもん 家庭訪問 | 4 | がっこうつうちぶん 学校通知文 5 |
| こじんめんだん 個人面談 | 4 | ほけんかんけいしよるい 保健関係書類 4 |
| がくしゅう じゅぎょうしえん 学習・授業支援 | 3 | がっこう 学校だより 2 |
| しんろそうだん せつめいかい 進路相談・説明会 | 3 | がくねん 学年だより 2 |
| ぎょうじ せつめいかい 行事の説明会 | 2 | ひなんくんれんつうち 避難訓練通知 2 |
| ほごしゃかい 保護者会 | 1 | きこくてつづきしよるい 帰国手続書類 2 |
| せいせきせつめい 成績説明 | 1 | しゆくはくけんしゅう 宿泊研修しおり 1 |
| しゅうがくそうだん 就学相談 | 1 | しゅうがく じけんこうしんだんひょう 就学时健康診断票 1 |
| きょういくそうだん 教育相談 | 1 | すいえいしどう 水泳指導カード 1 |
| テストのつうやく 通訳 | 1 | |
| がっこうせいかつせつめい 学校生活説明 | 1 | |

※注 【問7】【問8】については、「通訳・翻訳の予算を設定しておらず、他部署や他機関を利用した回数は除外した」という回答や、「通訳・翻訳サービスを行っている企業へ依頼した回数は除外した」などの回答もあり、市町村によって、質問の解釈と回答にばらつきが見られた。「委員会の業務で依頼」と「学校からの要請で依頼」という分類の意味がわからなかった」という回答もあった。

(3) 他^たの自治体^{じちたい}との連携状^{れんけいじょうきょう}況

【問9】 多言語情^{たげんごじょうほう}報^{かか}に関わること^{こと}で、他^たの自治体^{じちたい}の教^{きょう}育^{いく}委員会^{いいんかい}と情^{じょうほう}報^{こうかん}交換^{こうかん}したことがあ^ありますか？

18市町村^{しちょうそん} (49%) が、他^たの市町村^{しちょうそん}の教^{きょう}育^{いく}委員会^{いいんかい}と多言語情^{たげんごじょうほう}報^{かか}に関する情^{じょうほう}報^{こうかん}交換^{こうかん}を行^{おこな}っている。他^たの教^{きょう}育^{いく}委員会^{いいんかい}が発行^{はっこう}している多言語資^{たげんごじりょう}料^{さんこう}を参考^{ていきょう}のために提^{てい}供^{きょう}してもら^おったケ^おースが多^{おほ}く、10件^{けん} (27%) がある。〔図2-10/図2-11〕

図2-10 他^たの自治体^{じちたい}との情^{じょうほう}報^{こうかん}交換

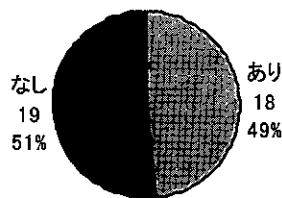
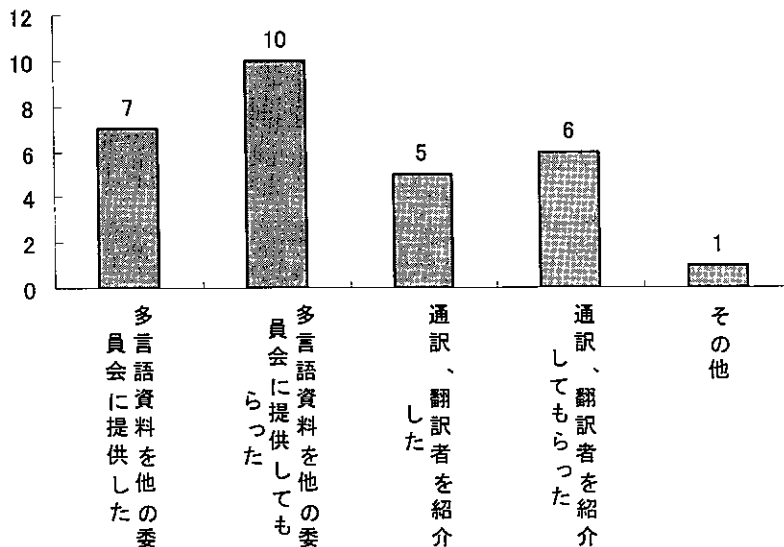


図2-11 情^{じょうほう}報^{こうかん}交換^{ないう}の内容^{ふくすうかいどうか} (複数回^た答^た可^か) N=37

(市町村)

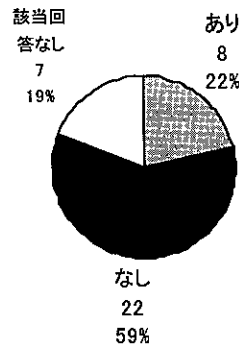


(4) 自由記述欄の意見

【問10】 これまで【問1】から【問6】の設問で触れた資料以外に、外国人児童生徒等の学習環境をよりよくするために、今後、多言語化されるとよいと思う資料はありますか？

今後、多言語化されるとよいと思う資料が「ある」という回答は8件(22%)ある。内容は、教科書や教科の補助教材など教科指導に利用する資料が目立つ。ほかに、日本語指導教材、進路や入試に関する情報の多言語化を望む声や、「必要とされる情報が多言語化できるシステムが広域的にあるとよい」という意見もある。〔図2-12〕

図2-12 資料の多言語化の要望



以下に具体的な回答内容を3つの項目に分けて掲載する。

1) 教科書・教材

- 一部のテキスト。特に中学校用。
- 教科書図書・副読本・(学校たより等)
- 算数(数学)、理科、社会科の教科書。
- 教科の補助教材。
- 本市では教科で活用できる教材の多言語化が遅れているので、他市のものを活用したり日本語指導講師の自作教材にたよっているのが現状である。
- 教科指導が小・中ともに課題となっています。日本語での理解が深まるよう指導していますが、母語で補助的な指導がある方が効果的な場合が多々あります。そこで、各母語で各々の国で一般的に使用される教科書をライブラリーに置いたり、短期間の貸し出しをしてもらえると大変に助かります。
- 日本語指導の教材(小学生向き)

2) 進学情報

- 進路(高校)や入試に関する情報。

3) 多言語化のシステム共有

- ・何が、というより、必要とされるものが、リアルタイムで作成できるシステム(一町、だけでなく広域に)が欲しいと考えます。

【問11】 「学校における多言語情報」や「外国人児童生徒および保護者とのコミュニケーション」について、ご意見やご要望があれば、自由にお書きください。

意見と要望については、通訳者・翻訳者の確保が予算的に難しく、また、適任者が見つからないという声が複数ある。また、ラオス語をはじめとして特定の言語の通訳者が県内に不足しており、県全体で人材を確保できるとよいという意見もある。ほかには、高校進学ガイダンスの開催希望、市町村間で情報や取り組みを共有したいという意見も見られる。

以下に具体的な回答内容を4つの項目に分けて掲載する。

1) 通訳者・翻訳者の確保の困難、特定言語の通訳翻訳者不足

- ・現在、神奈川県内にラオス語を話せる日本語指導員が非常に少ない状況です。県で人材を確保できるシステムができればいいと思います。
- ・本市で採用している日本語指導員では対応できない言語での指導(特に通訳・翻訳)が増えています(タイ語とシンハラ語)。本市の国際交流協会では昨年度から派遣が有料化されたこともあり、派遣が困難な場合もあります。そこで県内在住の方に広くご協力願って、通訳・翻訳ボランティアの人材バンクのようなものをつくってご支援いただくと助かります。
- ・通訳の必要性も感じるが、身近に適した方が見つからないことも課題であると考えます。
- ・通訳者の確保が問題となっている。通訳者・担任・保護者との連絡、調整が困難な場合がでてくる。通訳、翻訳言語が多岐にわたり、対応できない場合がある。

2) 高校進学ガイダンスの開催希望

- ・保護者の関心事はやはり高校進学。国によって「高校は受け入れられる」という所もあり、神奈川の状況が理解できていない。また、制度も複雑でわかりにくい。進路に関する情報は、中学3年になってからでは遅すぎる(進学にお金がかかることもわかっていない保護者も多いので)。現在、高校の情報提供を多言語で行っているのは、「多文化共生教育ネットワークかながわ」のみ。説明会の場所が遠い。せめて近隣2、3市でやってほしい。

3) 市町村間での情報と取り組みの共有

第2章 教育委員会・学校調査結果

- ・今回のような広域的な調査により、市町村間での情報や資料の共有化や、今後の共同による取り組みにつながれば大変うれしく思います。

4) その他

- ・来日してすぐに学校に入学する児童にとっては、大きなストレスとなる事が多い。学習だけにとどまらず、友人関係も慣れるまでは大変だと思う。保護者にとっても、子育て、近隣の人たちとの関係づくり、仕事上の問題等、課題は大きい。サポートできる支援者が必要だと考える。
- ・現在のところ、学校からの要請に応じて日本語指導協力員の派遣で対応しています。今後も、情報提供、資料紹介等よろしくおねがいます。
- ・小さな町なので今まで対応を迫られたことがありません。しかし、今後はいつその必要が生じるかもしれないので先進地区の情報等を確認していきたいと思えます。

2. 学校（国際教室を設置している公立小中学校）

(1) 外国人児童生徒等および保護者への連絡方法

【問1】 文書での連絡が必要なときに、どのような方法をとっていますか？

あてはまる方法を選んでください（複数回答可）。

カッコのついているものは、具体的にどなたが行っているかをご記入ください。

学校から外国人児童生徒等や保護者へ文書での連絡が必要とされるときに、児童生徒に対しては56件（62%）、保護者に対しては61件（68%）の学校でルビ振りが行われている〔図2-13/図2-14〕。学校内で文書作成者が必ずルビ振りをする体制をとっている学校もある。学校によっては、国際教室担当、日本語指導協力者、ボランティア等による翻訳、通訳の努力と同時に、伝わりにくい子どもや親へは、個別に呼んで直接話をするなどの工夫もされている。「日本人と同様」と回答している学校のうち、他の連絡方法を全く採用していない学校は、児童生徒に対しては11校（12%）、保護者に対しては6校（7%）ある。〔表2-8〕

学校通知文の翻訳集、訳語集は、保護者に対し、43校（48%）が作成または利用している。外国人児童生徒等の在籍率の高い横浜市、大和市、秦野市が発行しているものが多く利用されているが、教育委員会が通知文翻訳集を発行している市町村でも、翻訳集を利用していないと回答する学校も複数ある。一方で、他府県の教育委員会や学校が作成した通知文・翻訳集などを掲載しているホームページを利用している学校もある。〔表2-9〕

図2-13 外国人児童生徒等へ文書連絡
(複数回答可) N=90

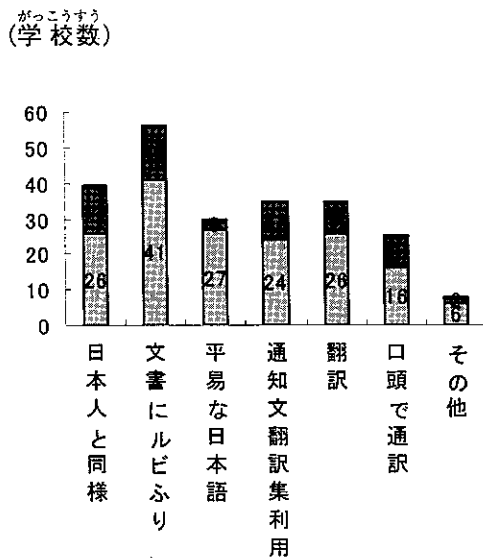
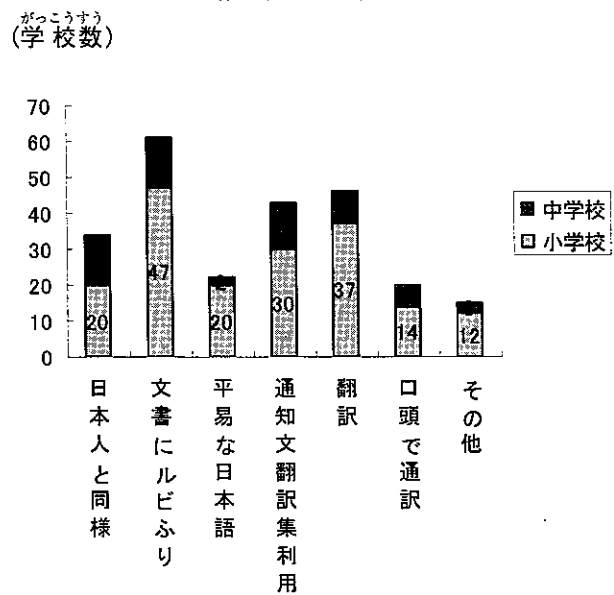


図2-14 外国人保護者への文書連絡
(複数回答可) N=90



第2章 教育委員会・学校調査結果

表 2-8 学校からの文書連絡の方法と誰が行っているか (複数回答可)

| 方法 | 外国人児童生徒等へ | | | 保護者へ | | 誰が行うか? |
|--------------------|-----------|-----|-----|------|-----|---|
| 1 日本人と同様 | 小 | 26校 | 39% | 20校 | 30% | |
| | 中 | 13 | 54% | 14 | 58% | |
| | 計 | 39 | 43% | 34 | 38% | |
| 2 日本語の文書にルビふり | 小 | 41 | 62% | 47 | 71% | 国際教室担当、クラス担任、文書作成者、教務主任、学年職員、教科担任 |
| | 中 | 15 | 63% | 14 | 58% | |
| | 計 | 56 | 62% | 61 | 68% | |
| 3 平易な日本語におきかえ | 小 | 27 | 32% | 20 | 30% | 国際教室担当、クラス担任、文書作成者 |
| | 中 | 3 | 13% | 2 | 8% | |
| | 計 | 30 | 33% | 22 | 24% | |
| 4 学校通知文翻訳集等を利用して翻訳 | 小 | 24 | 36% | 30 | 45% | 国際教室担当、クラス担任、教育相談員、ボランティア |
| | 中 | 11 | 46% | 13 | 54% | |
| | 計 | 35 | 39% | 43 | 48% | |
| 5 その言語を堪能な人が翻訳 | 小 | 26 | 39% | 37 | 56% | 国際教室担当、クラス担任、英語教諭、両言語わかる児童、市教委派遣通訳者、日本語指導協力者、日本語教室講師、留学生、市国際交流協会、他の保護者(保護者へ)、地域ボランティア |
| | 中 | 9 | 38% | 9 | 38% | |
| | 計 | 35 | 39% | 46 | 51% | |
| 6 口頭で通訳 | 小 | 16 | 24% | 14 | 21% | 国際教室担当、クラス担任、英語教諭、両言語わかる児童、日本語教室講師、日本語指導協力者、教育相談員、保護者の友人・親戚 |
| | 中 | 9 | 36% | 6 | 25% | |
| | 計 | 25 | 28% | 20 | 22% | |
| 7 その他 | 小 | 6 | 9% | 12 | 18% | <内容> PCの翻訳ソフト利用(複数回答あり)、外国人保護者会の提案で重要な文書には「important」と押印、個別に呼んで説明、保護者と直接電話で話す |
| | 中 | 2 | 8% | 3 | 13% | |
| | 計 | 8 | 89% | 15 | 17% | |

第2章 教育委員会・学校調査結果

ひょう 表 2-9 がっこうつうちぶんとう ほんやくしゅう やくごしゅう
学校通知文等の翻訳集・訳語集

| | タイトル | 発行者 | 発行年 | げんご 言語 | けいたい 形態 | りよう 利用 |
|---|---|--|------|-----------------------------|-------------------|--------|
| 1 | がっこうようご つうちぶんほんやくしゅう しょうがっこうよう 学校用語・通知文翻訳集 小学校用 ちゅうがっこうよう 中学校用 | よこはましきょういくいんかい 横浜市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・ハト・ク ガ・ス・ポ・英 | A4 たんびょう 単票 | 13 |
| 2 | がっこうようごしゅう 学校用語集 | かわさしきょういくいんかい 川崎市教育委員会 | | 中・韓・タガ・ス・ポ | さっし 冊子 | 4 |
| 3 | つうちぶんしよほんやくしゅう 通知文書翻訳集 1・2 | やまとしきょういくいんかい 大和市教育委員会 | 1998 | 中・韓・ハト・ラオ・カン ホ・ス・ポ・英 | ファイル | 9 |
| 4 | かてい つうちぶん たいやくしゅう きゅうろく こくご 家庭への通知文・対訳集 (旧六ヶ国語 対訳集) | ふじさわしきょういくいんかい 藤沢市教育委員会 | 1993 | ス・ポ | さっし 冊子 | 2 |
| 5 | がっこうつうちぶんほんやくしゅう 学校通知文翻訳集 | よこすかしきょういくいんかい 横須賀市教育委員会 | 2000 | 日・中・韓・ス・ポ・ 英 | さっし 冊子 | 1 |
| 6 | つうちぶん ほんやくしゅう 通知文の翻訳集 | さがみはらしきょういくいんかい 相模原市教育委員会 | | 中・韓・ハト・ラオ・カン ホ・タガ・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 7 | まこく とにちじどうせいとがっこうせいかつ 帰国・渡日児童生徒学校生活サポート じょうほう おし おんれい 情報「お知らせ文例」 | おおさかふきょういくいんかい 大阪府教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ハト・ポ | Web | 1 |
| 8 | がいこくじんじどうせいときょういくしりょう がっこうぎょうじかんけい 外国人児童生徒教育資料「学校行事関係 の案内文」[保健関係の書類] | とよはしきょういくいんかい 豊橋市教育委員会 | | ポ・ス | Web | 2 |
| 9 | こまきしがいこくじんじどうせいときょういくれんらくきょうざいかい 小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会 ほんやくぶんしよ 翻訳文書 | こまきしがいこくじんじどうせい 小牧市外国人児童 ときょういくれんらくきょうざいかい 生徒教育連絡協議会 | 2004 | ス・ポ・中・英 | Web | 2 |
| | けんきゅうきょうだいい しゅう がいこくじんじどう せいと 研究紀要第68集 外国人児童・生徒の しえん 支援のために | はだのしきょういくけんきゅう 秦野市教育研究 しょ 所 | 2004 | 日・ベト・ラオ・カンホ・ ス・ポ | さっし 冊子 | 8 |
| | かくしゅうつうちぶん ほんやく ほけんかんけいしよようし 各種通知文の翻訳 (保健関係諸用紙) | あいかわまちきょういくいんかい 愛川町教育委員会 | 2003 | ス・ポ | A4 たんびょう 単票 | 2 |
| | がいこくせきじどう せいと しどう てびき 外国籍児童・生徒のための指導の手引き | あいかわまちきょういくいんかい 愛川町教育委員会 | 2002 | ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| | かてい れんらくぶんしよ などたいやくしゅう しゅうがく 家庭への連絡文書等対訳集 - 就学 かんけい ほけんかんけいなど 関係・保健関係等 - | あやせしきょういくいんかい 綾瀬市教育委員会 あやせしりつしゅう 綾瀬市立小 ちゅうがっこうこくさいきょうしつ 中学校国際教室 | 1999 | 日・中・ベト・ラオ・ カンホ・ス・ポ・ 英 | ファイル | 1 |
| | がっこうようごたいやくしゅう かてい れんらくぶん 学校用語対訳集 家庭への連絡文 | あつぎしきょういくいんかい 厚木市教育委員会 | 1992 | 中・ス | さっし 冊子 | 1 |
| | せいとかんきょうれんらくきょう 生徒環境連絡表 | よこはましりつなまむぎちゅう 横浜市立生麦中 | 2004 | 日・中・タガ・ポ | A4 たんびょう 単票 | 1 |
| | ひょうごけんきょういくいんかい がっこうせいかつ 兵庫県教育委員会 学校生活ガイド | ひょうごけんきょういくいんかい 兵庫県教育委員会 | | 日・中・韓・ベト ・ス・ポ・英 | Web | 1 |
| | はままつしきょういく がいこくじんじどう 浜松市教育ネットワーク 外国人児童 せいとかんけいしよるい 生徒関係書類 | はままつしきょういくいんかい 浜松市教育委員会 | 2002 | タガ・ス・ポ・ 英 | Web | 1 |
| | しよるいほんやく 書類翻訳 | しずおかけんきょういくいんかい 静岡県教育委員会 せいぶきょういくじむしょ 西部教育事務所 | | 日・ス・ポ | Web | 1 |
| | かるのひがししゅう 軽野東小ダウンロードコーナー | いばらきけん かしまぐん 茨城県鹿島郡 かみすまちおくのやかるの 神栖町奥野谷軽野 ひがししゅうがっこう 東小学校 | | タガ・ポ | Web | 1 |
| | はくおうだいがく たかはしせつこきょうじゅ 白鷗大学 高橋節子教授ホームページ | | | ス | Web | 1 |

第2章 教育委員会・学校調査結果

| | | | | | |
|-----------------------------|-----------------|-------------|--------------|-------|---|
| ポルトガル語資料集・スペイン語資料集(ともに保健関係) | 鈴鹿市教育委員会 | | ス・ポ | Web | 1 |
| 静岡県小笠郡小笠町岳洋中学校ホームページ | 静岡県小笠郡小笠町岳洋中学校 | | ポ | Web | 1 |
| 学校用語 英語小事典 | 大修館書店 | 2004 第3版 | | 書籍 | 1 |
| Just system & School ホームページ | Just system | | ポ | Web | 1 |
| 小牧市立篠岡小学校ホームページ | 小牧市立篠岡小学校 | | ス・ポ・英 | Web | 1 |
| すぐに使える!6か国語保育の会話&文書便利帳 | チャイルド本社 | 2004 | 中・韓・タガ・ス・ポ・英 | 書籍とCD | 1 |
| 外国籍児童生徒の指導資料(家庭通知文・就学案内通知) | 長野県教育委員会 | | 日・中・ポ・英 | Web | 1 |
| 転出書類(在籍・卒業証明/成績証明・履修証明) | 横浜市立潮田中学校 | | ス・ポ・英 | | 1 |
| 衣替え、三者面談等お知らせ | 横浜市立潮田中学校 | | ス・ポ | | 1 |
| 必要プリント類 | 藤沢市立明治小学校日本語指導員 | 2004 | ポ | | 1 |
| 北京2000TWIN(翻訳ソフト) | 株式会社高電社 | 2000 | 中 | DVD-R | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

(2) 多言語資料の作成・利用状況

【問2】 学校生活を説明する多言語資料を作成または利用していますか？

学校生活を説明する多言語資料は、44件(49%)の小中学校で利用されている〔図2-15〕。学校が独自に説明資料を作成しているところもあり(横浜市立潮田中、横浜市立いちょう小、相模原市立相模台小)、国際教室の担当者会で作成している市(藤沢市)もある。NGO「多文化共生教育ネットワークかながわ」が発行した「高校進学ガイドブックかながわ」の利用も4件ある。〔表2-10〕

第2章 教育委員会・学校調査結果

図2-15 学校生活を説明する多言語資料の作成・利用

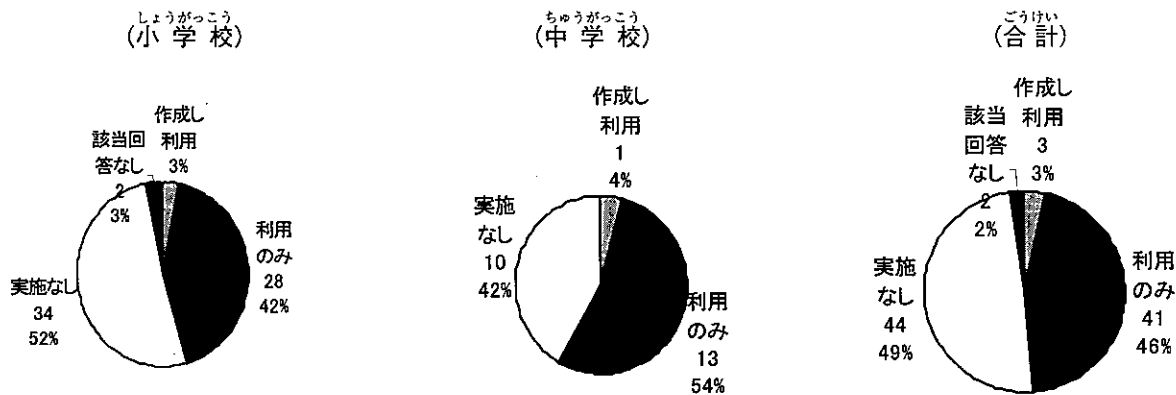


表2-10 学校生活を説明する多言語資料

| タイトル | 発行者 | 発行年 | 言語 | 形態 | 利用 |
|--------------------------------------|------------------------------|------|-------------|--------|----|
| 1 きょうからはまっこ | 横浜市教育委員会 | 2000 | 日・中・韓・ポ・英 | 冊子 | 10 |
| 2 外国人保護者用就学ハンドブック 「ともに生きる社会をめざして」 | 川崎市教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ス・ポ・英 | リーフレット | 3 |
| 3 楽しい学校～外国人児童生徒・保護者のための学校の手引き | 大和市教育委員会 | 1993 | 中・韓・ポ・英 | 冊子 | 7 |
| 4 ビデオ「日本の学校生活 Viva」 | 藤沢市教育委員会 | 1993 | 日・ス・ポ | ビデオ | 6 |
| 5 外国人児童・生徒の手引 | 相模原市教育委員会 | 1994 | 中・韓・ポ・英 | 冊子 | 3 |
| 6 進学指導用パンフレット | 相模原市教育委員会 | | 中・韓・ポ・英 | | 0 |
| 7 帰国・渡日児童生徒学校生活サポート 情報「保護者の方々へ」 | 大阪府教育委員会 | 2004 | 日・中・韓・ポ | Web | 2 |
| 8 外国人児童生徒教育資料「豊橋の学校案内」 | 豊橋市教育委員会 | | ポ | Web | 1 |
| 9 高校進学ガイドブックかながわ | 多文化共生教育ネットワークかながわ | 2002 | 日・中・韓・ポ・英 | 冊子 | 4 |
| 外国人児童・生徒の支援のために | 秦野市教育研究所 | 2004 | 日・ポ・英 | 冊子 | 6 |
| 外国籍児童生徒・保護者のための学校の 手引き「学校へ行こうよ」 | 藤沢市国際教室 担当者会／藤沢市 教育委員会 | 2003 | 中・ポ | 冊子 | 5 |
| にほんごをまなぼう | 文部科学省 | 2001 | 日・中・韓・ス・ポ・英 | CD, 冊子 | 3 |
| 横須賀市生活ガイドブック | 横須賀市教育委員会 | 1996 | ス | 冊子 | 1 |

第2章 教育委員会・学校調査結果

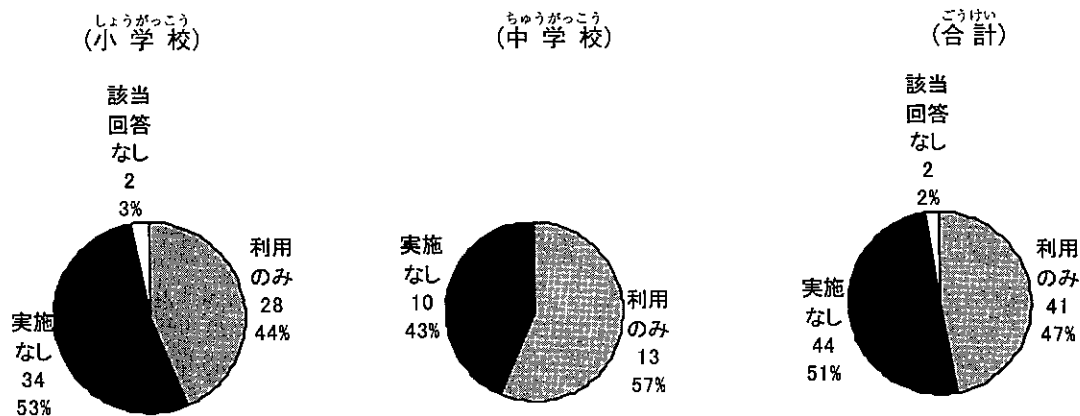
| | | | | | |
|--------------------------------|-----------------|-------------|----------------|-----------|---|
| 「はじめての日本語・10日間までのテキスト」(現在作成中) | 藤沢市国際教室 担当者会 | 2004の 予定 | 中・ベト・ス・ ポ・英 | さっし 冊子 | 1 |
| 学校用語対訳集 家庭への連絡文 | 厚木市教育委員会 | 1992 | 中・ス | さっし 冊子 | 1 |
| 日本の学校での生活～学校生活を楽しく送るために～ | 愛川町教育委員会 | 2002 | 日・ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 学校説明パンフ | 横浜市立潮田 中学校 | | ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 新1年生保護者説明会資料 | 横浜市立いちよう 小学校 | 2002 | 日・中・ベト・カン ホ | さっし 冊子 | 1 |
| 新1年生保護者説明会資料(一部多言語) 学校紹介VTR | 横浜市立いちよう 小学校 | 2002 | 日・中・ベト・カン ホ | ビデオ | 1 |
| School Guide | 相模原市立相模台 小学校 | 2003 第3版 | 英 | さっし 冊子 | 1 |
| ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるごとガイド | スリーエーネットワ ーク | 2003 | 日・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| 新・教育現場のポルトガル(ブラジル)語 | 国際語学社 | 2003 | 日・ポ | さっし 冊子 | 1 |
| NHKスペイン語講座 | | 2004 | ス | ビデオ | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

【問3】 外国人児童生徒等の母語で作られた教科学習の補助教材を作成または利用していますか？

教科学習で使われる多言語教材を作成している学校はなく、利用のみである。41件(47%)が利用している。小学校(44%)よりも、中学校(57%)の方が利用率が高い。[図2-16/表2-11]

図2-16 教科学習で使う多言語教材の作成・利用



第2章 教育委員会・学校調査結果

表2-11 母語で書かれた教科書習の教材

| 番号 | タイトル | 発行者 | 発行年 | 言語 | 形態 | 利用 |
|----|--|---------------------|------|-------------------------|------------------|----|
| 1 | 小学校の算数 数と計算対訳集 | 川崎市総合教育センター | 1993 | 中・韓・タガ・ス・ポ ・英 | さっし 冊子 Web | 8 |
| 2 | 楽しい学校～教科書によく出てくる漢字や言葉 | 大和市教育委員会 | 1995 | 中・韓・ベト・ラオ・カン ホ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 7 |
| 3 | 漢字を覚えよう | 綾瀬市教育委員会 | 1992 | ス・ポ | さっし 冊子 | 2 |
| 4 | 算数学習資料集 | 綾瀬市教育委員会 | 1993 | ス・ポ | さっし 冊子 | 2 |
| 5 | 理科学習資料集 | 綾瀬市教育委員会 | 1994 | ス・ポ | さっし 冊子 | 2 |
| 6 | 帰国・来日等の子どものための社会科 学習対訳補助教材「日本の地理と産業」 | 大阪市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・タガ・タイ ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 0 |
| 7 | 帰国・来日等の子どものための社会科 学習対訳補助教材「日本のあゆみと世界」 | 大阪市教育委員会 | 2002 | 日・中・韓・タガ・タイ ・ス・ポ・英 | さっし 冊子 | 3 |
| 8 | 外国人児童生徒教育資料「対訳教材」 (中1数学、初期適応、初期指導) | 豊橋市教育委員会 | | ポ | Web | 0 |
| 9 | 来日外国人人生徒用教科指導テキストポルト ガル語対応「社会・数学・理科・英語」 | 四日市市立橋北 中学校 | | ポ | Web | 1 |
| 10 | 中学校数学「新訂数学1年」(啓林館) 日中対訳 | 東大阪市長盾津 中学校 | 1997 | 中 | さっし 冊子 | 0 |
| 11 | 中学校社会科重要語句日中対訳集 【地理・歴史・政治・経済 重点名詞集】 | 大阪府在日外国人 教育研究協議会 | 1997 | 中 | さっし 冊子 | 2 |
| 12 | 中学校英語「NEW CROWN (1～3年)」 (三省堂) 日中対訳 | 大阪市外国人教育 研究協議会 | 1997 | 中 | さっし 冊子 | 1 |
| 13 | 中学校英語「NEW HORIZON (3年)」 (東京書籍) 日中対訳 | 大阪市外国人教育 研究協議会 | 1997 | 中 | さっし 冊子 | 0 |
| 14 | 中学校理科の対訳教材「初・中理科中 日文対訳」 | 大阪市外国人教育 研究協議会 | 1997 | 中 | さっし 冊子 | 4 |
| 15 | 【中学英語文法の参考】 | 中国帰国者定着 促進センター | 1999 | 中 | さっし 冊子 | 0 |
| 16 | 【文型数学】 | 中国残留孤児援護 基金 | 1990 | 中 | さっし 冊子 | 0 |
| 17 | 【文型さんすう】 | 中国残留孤児援護 基金 | 1988 | 中 | さっし 冊子 | 0 |
| | 小学校の算数 | 平塚市教育委員会 | | ス・ポ | さっし 冊子 | 1 |

※二重線以下は、アンケート回答により把握できた資料

【問4】 これまで【問2】と【問3】で回答した資料以外に、多言語資料を外国人児童生徒等および保護者に案内していますか？

問2～問3の資料以外に多言語資料を案内している学校は12校(13%)である(図2-17)。横浜市、大和市、綾瀬市のいくつかの学校では、市や国際交流協会の発行する生活情報紙を保護者に渡している。担当教諭の配慮によって、多言語生活情報流通の場となっている学校もあるようだ。(表2-12)

図2-17 問2～問3以外の多言語資料の案内

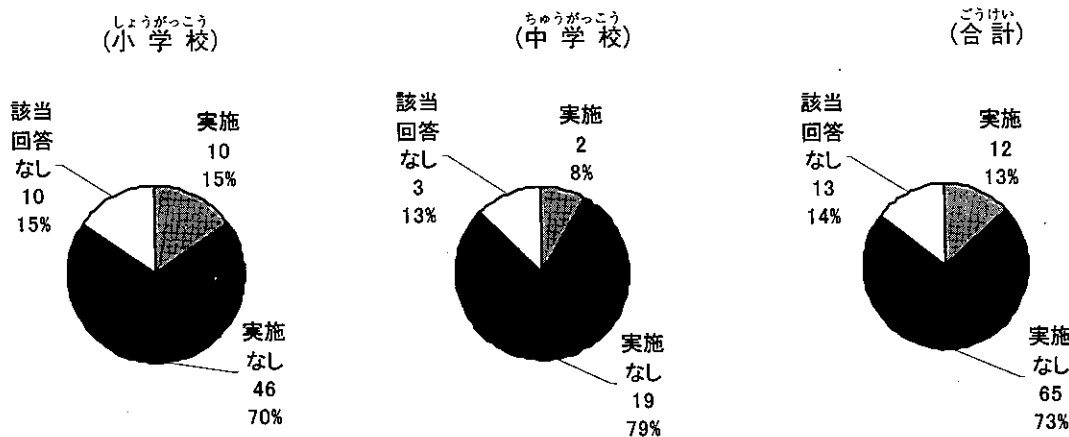


表2-12 学校が問2～問3の資料以外に案内している多言語資料

| タイトル | 発行者 (はっこうしゃ) | 発行年 (はっこうねん) | 言語 (げんご) | 形態 (けいたい) | 利用 (りよう) |
|---|---------------------------------|--------------|------------------------------------|------------------|----------|
| 1 よこはま Yokohama | 横浜市国際交流協会 (よこはましこくさいこうりゅうきょうかい) | 毎月 (まいつき) | やさしい日・中・韓・ポ・英 (やさしいにち・ちゅう・かん・ぽ・えい) | A4 | 3 |
| 2 「ニイハオ」「Tierra」「Terra」 | 大和市国際化協会 (やまとしこくさいかきょうかい) | 隔月 (かくげつ) | 中・ス・英 (ちゅう・す・えい) | A4 | 1 |
| 3 あやせシティライフ 綾瀬市多言語情報資料 (あやせしたげんごじょうほうしりょう) | 綾瀬市 (だんじょきょうどうしゃかい) (あやせし) | 隔年2回 (ねんかい) | 日・中・韓・ポ・英 (にち・ちゅう・かん・ぽ・えい) | A3 表裏 (おもてうら) | 1 |
| 4 これって、なに？ 子どものための5カ国語絵単語帳 (こどものためのごこごえたんごちょう) | チャレンジ日本委員会 (チャレンジにほんいんかい) | 1998 | 日・中・ス・ポ・英 (にち・ちゅう・す・ぽ・えい) | | 1 |
| 5 どこへ行くの？ 子どものための5カ国語絵単語帳 (こどものためのごこごえたんごちょう) | チャレンジ日本委員会 (チャレンジにほんいんかい) | 1998 | 日・中・韓・ス・ポ・英 (にち・ちゅう・かん・す・ぽ・えい) | | 1 |

(3) 学校で所蔵している多言語資料・図書

【問5】図書室に外国人児童生徒等の母語で書かれた図書はありますか？

外国人児童生徒の母語で書かれた図書を図書室に所蔵している学校は、31校(34%)である〔図2-18〕。ベトナム、ラオス、カンボジア、タガログ、タイ語の東南アジアの言語に比べ、中国語、韓国語、朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、英語の図書を持っている学校が多い〔図2-19/表2-13〕。

児童生徒の国際理解教育の教材として利用しているケースが一番多く19件(21%)あり、外国人児童生徒等の母語教育の教材として利用したり、読書ニーズに応えるために所蔵しているケースもそれぞれ12件(13%)ある〔図2-20〕。

図2-18 外国人児童生徒の母語で書かれた図書(図書室)

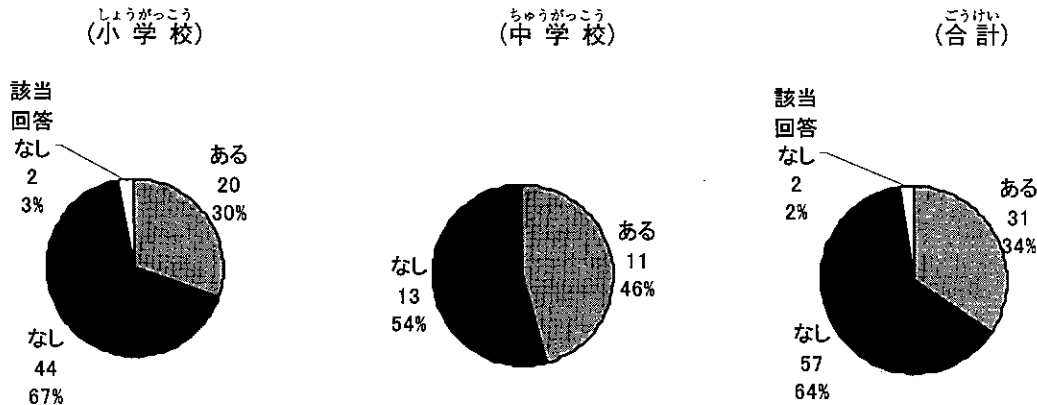


図2-19 外国人児童生徒の母語で書かれた図書が図書室にある学校(言語別) N=90



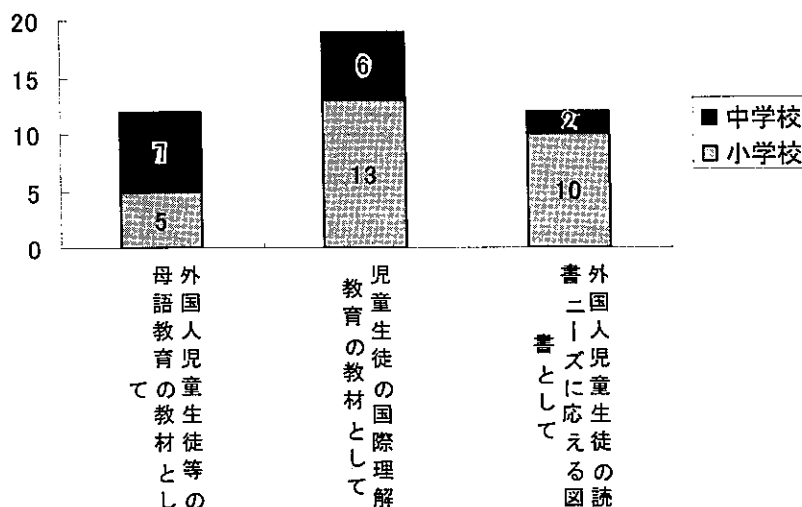
第2章 教育委員会・学校調査結果

表 2-1-3 外国人児童生徒の母語で書かれた図書が図書室にある学校

| | |
|--------|---|
| 中国語 | 1-9冊：横浜市立下野谷小・南吉田小・上飯田小・俣野小・鶴見中・潮田中・市場中、 大和市立渋谷中、平塚市立横内中、秦野市立本町中 20冊-：横浜市立いちょう小 |
| 韓国朝鮮語 | 1-9冊：横浜市立汐入小・北方小・南吉田小、川崎市立富士見台小、藤沢市立俣野小、 平塚市立大原小、横浜市立鶴見中・潮田中・市場中 10-19冊：横浜市立潮田小・下野谷小 |
| ベトナム語 | 1-9冊：横浜市立いちょう小、藤沢市立俣野小、平塚市立横内中 |
| ラオス語 | 1-9冊：横浜市立汐入小、平塚市立横内中、秦野市立本町中 |
| カボギア語 | 1-9冊：横浜市立いちょう小・上飯田小、平塚市立横内中 |
| タガログ語 | 1-9冊：横浜市立下野谷小・平安小・潮田中 |
| タイ語 | 1-9冊：横浜市立下野谷小・潮田中 |
| スペイン語 | 1-9冊：横浜市立潮田小・汐入小・下野谷小・平安小・いちょう小、藤沢市立俣野小、 はだのしりつおほらしょう あいかわちようりつすがわらしょう よこはましりつつるみちゅう うしおだちゅう いちばちゅう ひらつかしりつよこうちゅう 秦野市立南小、愛川町立菅原小、横浜市立鶴見中・潮田中・市場中、平塚市立横内中、 はだのしりつほんちようちゅう 秦野市立本町中 |
| ポルトガル語 | 1-9冊：横浜市立潮田小・汐入小・下野谷小、川崎市立富士見台小、藤沢市立俣野小、 あいかわまちりつすがわらしょう よこはましりついちばちゅう ひらつかしりつよこうちゅう はだのしりつほんちようちゅう あやせしりつりょうほくちゅう 愛川町立菅原小、横浜市立市場中、平塚市立横内中、秦野市立本町中、綾瀬市立綾北中 20冊-：平塚市立大原小、横浜市立潮田中 |
| 英語 | 1-9冊：横浜市立下野谷小・北方小・いちょう小・川上北小、藤沢市立大越小、藤沢市立 またのしょう さがみはらしりつさくらだいしょう ふちのべしょう ひらつかしりつよこうちゅう よこはましりつつるみちゅう いちばちゅう 俣野小、相模原市立桜台小・淵野辺小、平塚市立横内小、横浜市立鶴見中・市場中、 やまとしりつしづやちゅう ひらつかしりつよこうちゅう おおのちゅう はだのしりつほんちようちゅう 大和市立渋谷中、平塚市立横内中・大野中、秦野市立本町中 10-19冊：綾瀬市立寺尾小、横浜市立生麦中 20冊-：川崎市立富士見台小、相模原市立緑台小、横浜市立東野中・潮田中、平塚市立 かんだしょう 神田小 |

図 2-20 利用方法 (複数回答可) N=90

がっこうさう
(学校数)



【問6】 国際教室に外国人児童生徒等の母語で作成された資料はありますか？
日本語指導教材と教科の補助教材は除きます。

外国人児童生徒の母語で書かれた図書を国際教室に所蔵している学校は、44校（49%）ある〔図2-21〕。中国語、スペイン語、ポルトガル語の図書を持っている学校が多い〔図2-22／表2-14〕。
児童生徒の国際理解教育の教材として利用しているケースが一番多く23件（26%）あり、外国人児童生徒等の母語教育の教材として利用は19件（21%）、読書ニーズに応えるために所蔵しているケースは18件（20%）ある。〔図2-23〕

図2-21 外国人児童生徒の母語で書かれた図書（国際教室）

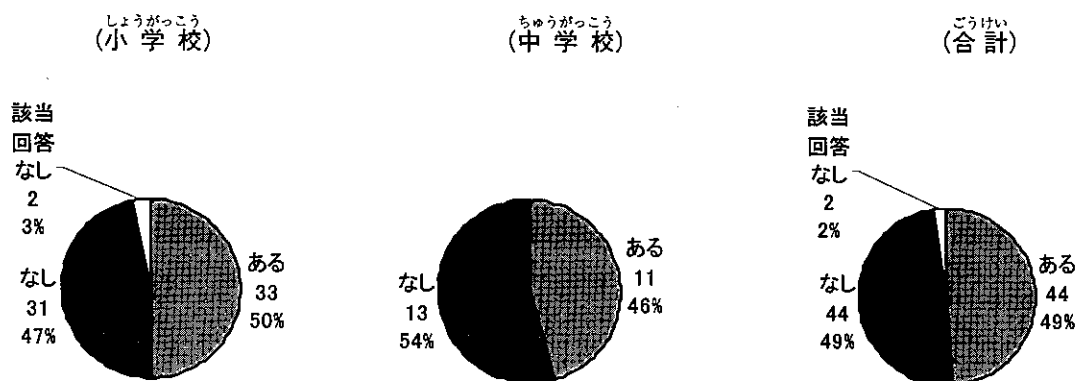
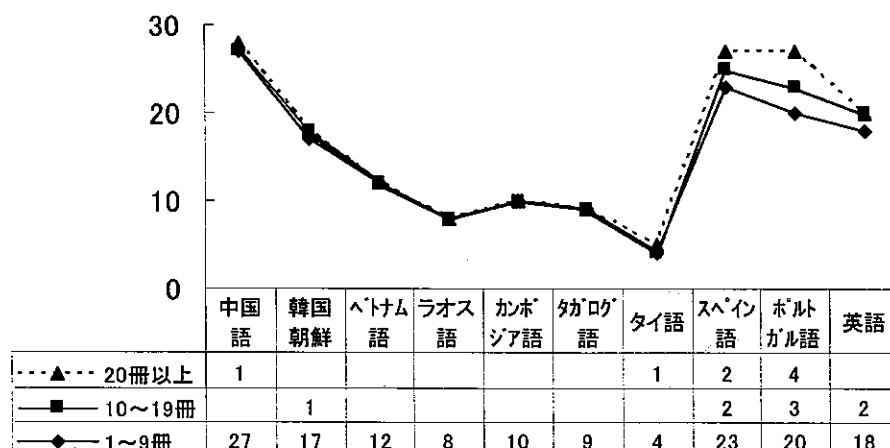


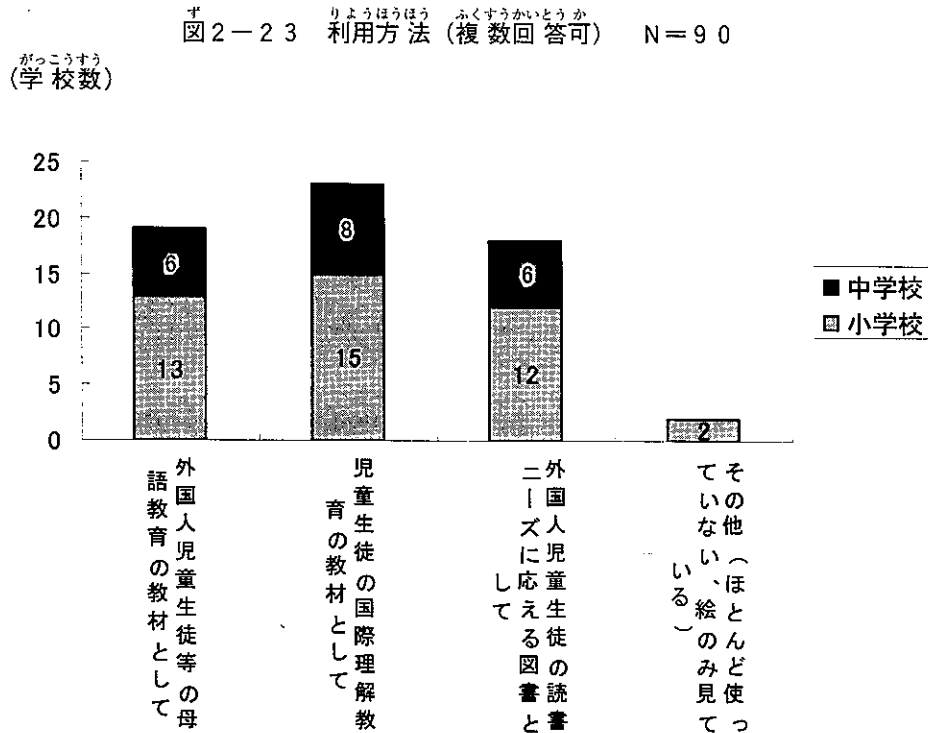
図2-22 外国人児童生徒の母語で書かれた図書が国際教室にある学校（言語別）



第2章 教育委員会・学校調査結果

表 2-14 外国じん児童生徒の母語で書かれた図書が国際教室にある学校

| | |
|-----------------------------|--|
| ひょう ちゅうごくご 中国語 | ひょう か としょ こくさいきょうしつ がっこう さつ よこはましりつうしおだしやう したのやしやう つるみしやう なまむぎしやう かたびらしやう おおおかしやう みなみよしだしやう 1-9冊：横浜市立潮田小・下野谷小・鶴見小・生麦小・帷子小・大岡小・南吉田小・ おりもとしやう しやう かみいだしやう かわかみきたしやう かわさきしりつとのまちしやう よこすかしりつうらごうしやう 折本小・いちやう小・上飯田小・川上北小、川崎市立殿町小、横須賀市立浦郷小、 ふじさわしりつしやうなんだいしやう さがみはらしりつだい しやう みどりだいしやう やまとしりつりんかんしやう はだのしりつほりかわしやう 藤沢市立湘南台小、相模原市立大島小・緑台小、大和市立林間小、秦野市立堀川小、 ひらつかしりつようちしやう よこはましりつなまむぎちやう ひがしのちやう つるみちやう うしおだちやう やまとしりつしもふくだちやう 平塚市立横内小、横浜市立生麦中・東野中・鶴見中・潮田中、大和市立下福田中、 ひらつかしりつかんだちやう おおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 平塚市立神田中・大野中、綾瀬市立綾北中 さつ よこはましりつみなどちやう 20冊-：横浜市立港中 |
| かんこくちやうせん 韓国朝鮮 ご 語 | さつ よこはましりつうしおだしやう しおいりしやう したのやしやう つるみしやう なまむぎしやう かたびらしやう おおおかしやう 1-9冊：横浜市立潮田小・汐入小・下野谷小・鶴見小・生麦小・帷子小・大岡小・ みなみよしだしやう かわさきしりつとのまちしやう よこすかしりつうらごうしやう さがみはらしりつみどりだいしやう よこはましりつみなどちやう 南吉田小、川崎市立殿町小、横須賀市立浦郷小、相模原市立緑台小、横浜市立港中 ひがしのちやう うしおだちやう いちばちやう ひらつかしりつおおのちやう あやせしりつりやうほくちやう ・東野中・潮田中・市場中、平塚市立大野中、綾瀬市立綾北中 さつ やまとしりつしおやしやう 10-19冊：大和市立渋谷小 |
| ご ベトナム語 | さつ よこはましりつ しやう あやせしりつりやうほくちやう てんだいしやう さがみはらしりつおおしましやう みどりだいしやう 1-9冊：横浜市立いちやう小、綾瀬市立綾北小・天台小、相模原市立大島小・緑台小、 いせはらしりつたかべやしやう よこはましりつみなどちやう なまむぎちやう ひがしのちやう やまとしりつしもふくだちやう ひらつかしりつ 伊勢原市立高部屋小、横浜市立港中・生麦中・東野中、大和市立下福田中、平塚市立 おおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 大野中、綾瀬市立綾北中 |
| ご ラオス語 | さつ よこはましりつしおいりしやう あやせしりつりやうほくちやう てんだいしやう さがみはらしりつみどりだいしやう ひらつかしりつようち 1-9冊：横浜市立汐入小、綾瀬市立綾北小・天台小、相模原市立緑台小、平塚市立横内 しやう やまとしりつしもふくだちやうちやう ひらつかしりつおおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 小、大和市立下福田中、平塚市立大野中、綾瀬市立綾北中 |
| ご カンボジア語 | さつ よこはましりつ しやう かみいだしやう あやせしりつてんだいしやう さがみはらしりつおおしましやう ひらつかしりつ 1-9冊：横浜市立いちやう小・上飯田小、綾瀬市立天台小、相模原市立大島小、平塚市立 きじましやう よこちしやう やまとしりつしもふくだちやうちやう ひらつかしりつかんだちやう おおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 城島小・横内小、大和市立下福田中、平塚市立神田中・大野中、綾瀬市立綾北中 |
| ご タガログ語 | さつ よこはましりつうしおだしやう つるみしやう かたびらしやう おりもとしやう さがみはらしりつおおしましやう ひらつかしりつおおのしやう 1-9冊：横浜市立潮田小・鶴見小・帷子小・折本小、相模原市立大島小、平塚市立大野小、 よこはましりつうしおだちやう ひらつかしりつおおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 横浜市立潮田中、平塚市立大野中、綾瀬市立綾北中 |
| ご タイ語 | さつ よこはましりつなまむぎしやう かたびらしやう さがみはらしりつみどりだいしやう よこはましりつうしおだちやう 1-9冊：横浜市立生麦小・帷子小、相模原市立緑台小、横浜市立潮田中 さつ ひらつかしりつおおのちやう 20冊-：平塚市立大野中 |
| ご スペイン語 | さつ よこはましりつうしおだしやう しおいりしやう したのやしやう つるみしやう なまむぎしやう おりもとしやう よこすかしりつ 1-9冊：横浜市立潮田小・汐入小・下野谷小・鶴見小・生麦小・折本小、横須賀市立 うらごうしやう おっぱましやう ふじさわしりつふじみだいしやう またのしやう さがみはらしりつおおしましやう みどりだいしやう やまとし 浦郷小・追浜小、藤沢市立富士見台小・俣野小、相模原市立大島小・緑台小、大和市 りつりんかんしやう はだのしりつすえひろしやう ほりかわしやう みなみしやう ひらつかしりつおおのしやう おおはらしやう よこはましりつ 立林間小、秦野市立末広小・堀川小・南小、平塚市立大野小・大原小、横浜市立 なまむぎちやう うしおだちやう いちばちやう よこすかしりつおっぱましやう あやせしりつりやうほくちやう 生麦中・潮田中・市場中、横須賀市立追浜中、綾瀬市立綾北中 さつ ひらつかしりつかんだちやう おおのちやう 10-19冊：平塚市立神田中・大野中 さつ ふじさわしりつしやうなんだいしやう あやせしりつりやうほくちやう 20冊-：藤沢市立湘南台小、綾瀬市立綾北小 |
| ご ポルトガル語 | さつ よこはましりつうしおだしやう しおいりしやう したのやしやう つるみしやう なまむぎしやう おりもとしやう かわさきしりつとのまち 1-9冊：横浜市立潮田小・汐入小・下野谷小・鶴見小・生麦小・折本小、川崎市立殿町 しやう よこすかしりつうらごうしやう おっぱましやう ふじさわしりつふじみだいしやう またのしやう あやせしりつてんだいしやう 小、横須賀市立浦郷小・追浜小、藤沢市立富士見台小・俣野小、綾瀬市立天台小、 さがみはらしりつみどりだいしやう はだのしりつすえひろしやう ほりかわしやう ひらつかしりつおおのしやう おおはらしやう よこはましりつみなどちやう 相模原市立緑台小、秦野市立末広小・堀川小、平塚市立大野小・大原小、横浜市立港中 なまむぎちやう いちばちやう ・生麦中・市場中 さつ ひらつかしりつかんだちやう おおのちやう あやせしりつりやうほくちやう 10-19冊：平塚市立神田中・大野中、綾瀬市立綾北中 さつ ふじさわしりつしやうなんだいしやう あやせしりつりやうほくちやう よこはましりつうしおだちやう よこすかしりつおっぱましやう 20冊-：藤沢市立湘南台小、綾瀬市立綾北小、横浜市立潮田中、横須賀市立追浜中 |
| えいご 英語 | さつ よこはましりつうしおだしやう なまむぎしやう かたびらしやう おおおかしやう よこすかしりつうらごうしやう おっ 1-9冊：横浜市立鶴見小・生麦小・帷子小・大岡小・川上北小、横須賀市立浦郷小・追 ぱましやう ふじさわしりつしやうなんだいしやう ふじさわしりつまたのしやう あやせしりつてんだいしやう さがみはらしりつみどりだいしやう 浜小、藤沢市立湘南台小、藤沢市立俣野小、綾瀬市立天台小、相模原市立緑台小、 ひらつかしりつおおはらしやう よこちしやう よこはましりつなまむぎちやう いちばちやう ひらつかしりつかんだちやう おおのちやう あやせし 平塚市立大原小・横内小、横浜市立生麦中・市場中、平塚市立神田中・大野中、綾瀬市 りつりやうほくちやう 立綾北中 さつ あやせしりつてらおしやう やまとしりつりんかんしやう 10-19冊：綾瀬市立寺尾小、大和市立林間小 |



(4) 通訳と翻訳

【問7】 通訳を依頼したことはありますか？

【問8】 翻訳を依頼したことがありますか？

通訳を依頼している学校は、77校（86%）ある〔図2-24〕。個人面談55件（61%）、家庭訪問40件（44%）など、児童生徒・保護者との緊密なコミュニケーションを図る際に依頼することが多い。教科指導に通訳を依頼している学校が28校（31%）ある〔図2-26〕。依頼相手は、日本語指導協力者が41件（46%）で最も多く、次は23件（26%）で市町村教育委員会が多い〔図2-28〕。翻訳を依頼している学校は、61校（68%）あり、内容は多岐にわたる〔図2-25/図2-27〕。依頼相手は、通訳同様、日本語指導協力者が37件（41%）で最も多く、次は16件（18%）の市町村教育委員会である。通訳に比べ、翻訳は市国際交流協会と国際交流ラウンジへの依頼が少ない〔図2-28〕。

図2-24 つうやく いらい 通訳の依頼

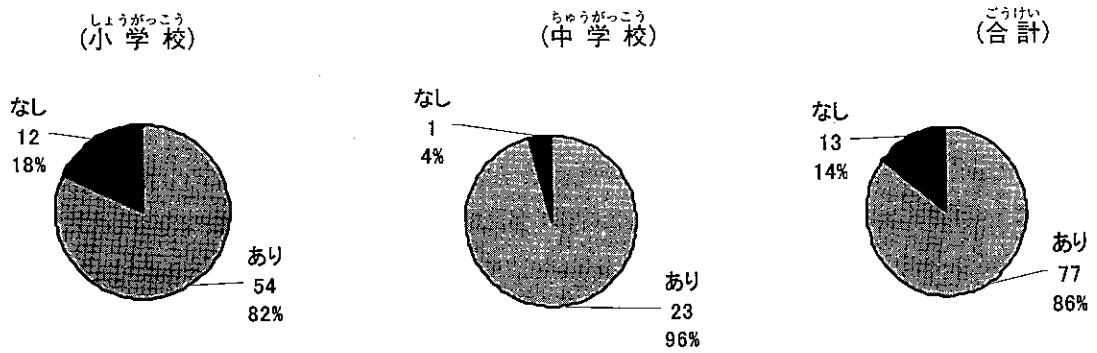


図2-25 ほんやく いらい 翻訳の依頼

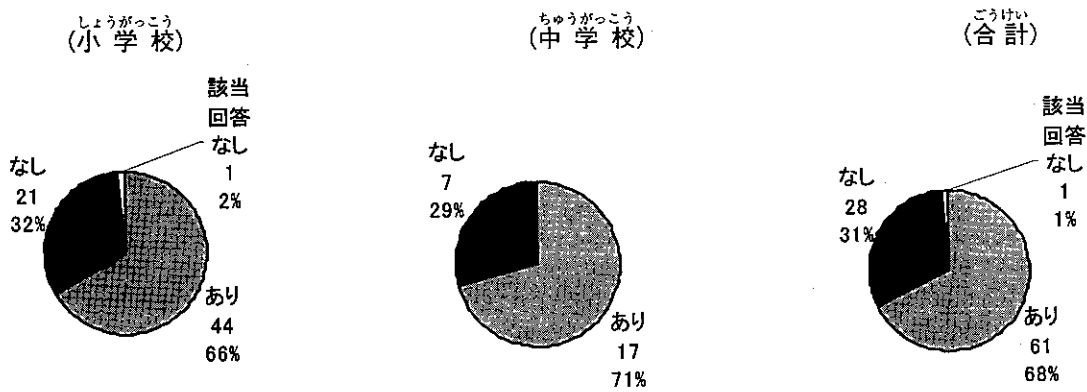


図2-26 つうやくいらい ないよう ふくすうかいどうか 通訳依頼の内容 (複数回答可) N=90

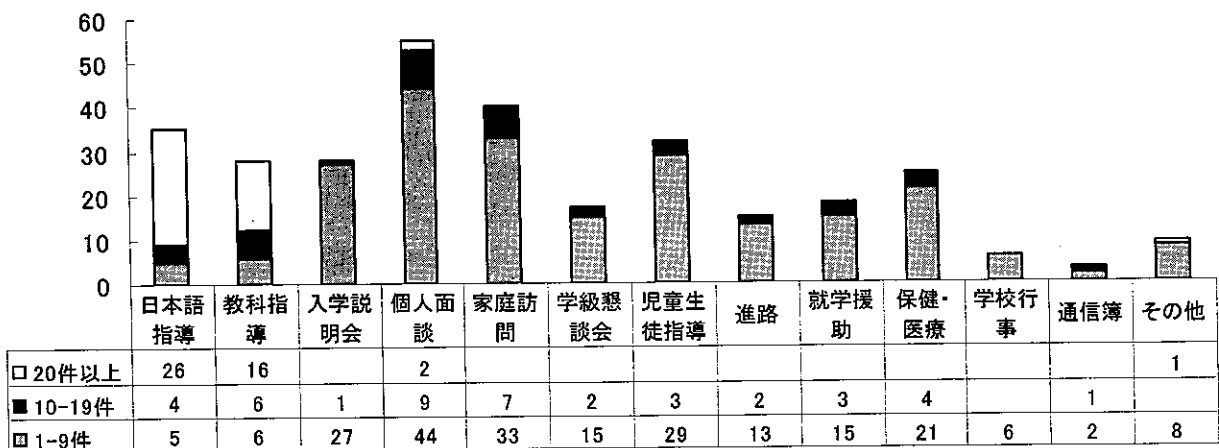


図2-27 翻訳依頼の内容 (複数回答可) N=90

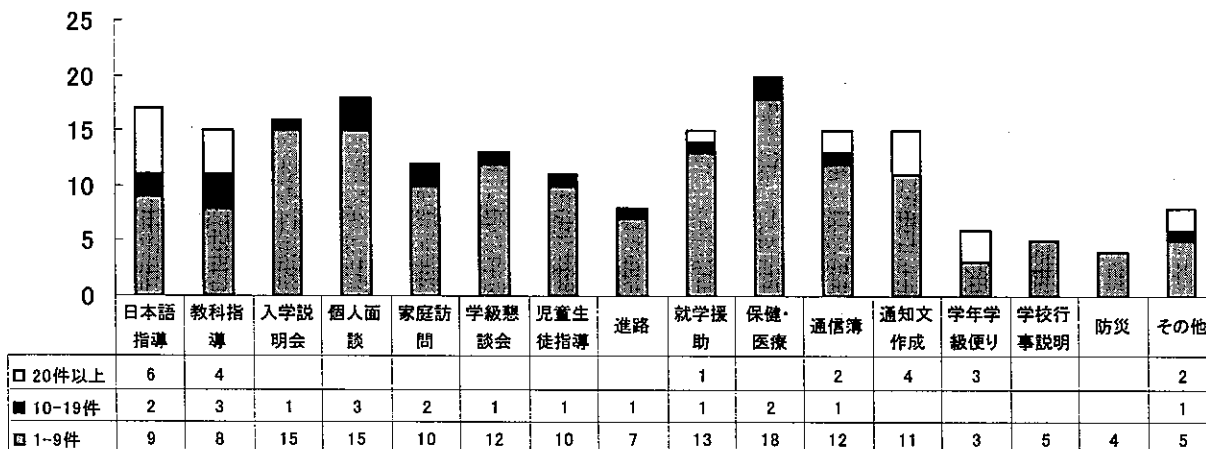
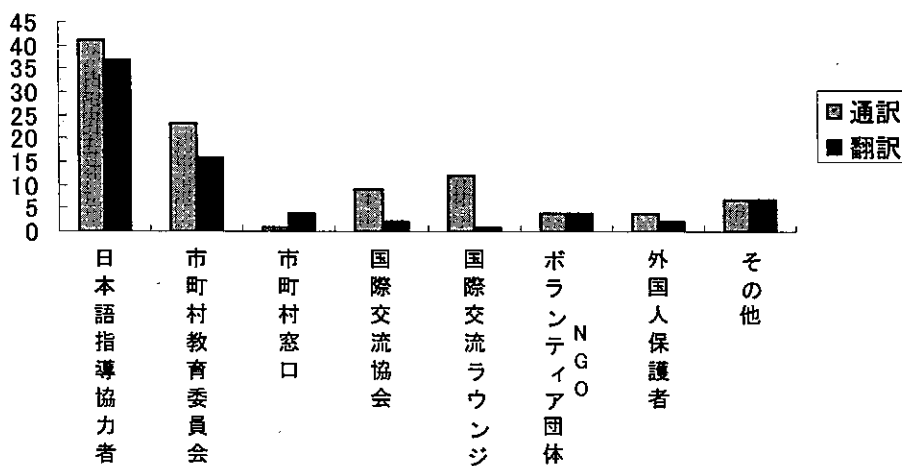


図2-28 通訳・翻訳の依頼相手 (複数回答可) N=90

がっこうすう
(学校数)



(5) 外国人児童生徒支援を目的にした団体・機関との連携

【問9】 学校内外の団体・機関と連携を図っていますか？

学校内外の団体・機関との連携があるのは、73校(81%)である〔図2-29〕。連携先として回答が多かったのは、国際教室担当者連絡会50件(56%)、市町村教育委員会45件(50%)であった。市町村国際交流協会には主に通訳翻訳の依頼を行っており、その他、地域の日本語ボランティア教室、学習補習教室、母語教室等との情報交換や支援の連携も見られる。他に、学校の外国人保護者への通訳翻訳依頼、大学の留学生や日本人学生に授業のサポートを依頼しているケースも目立つ〔表2-15〕。横浜市の鶴見区や泉区上飯田地域などでは、地域団体との連携とともに、複数の学校間で連絡会が開かれている。横浜市では教育委員会と学校の連携で母語教室が開催されている。

図2-29 学校内外の団体・機関との連携

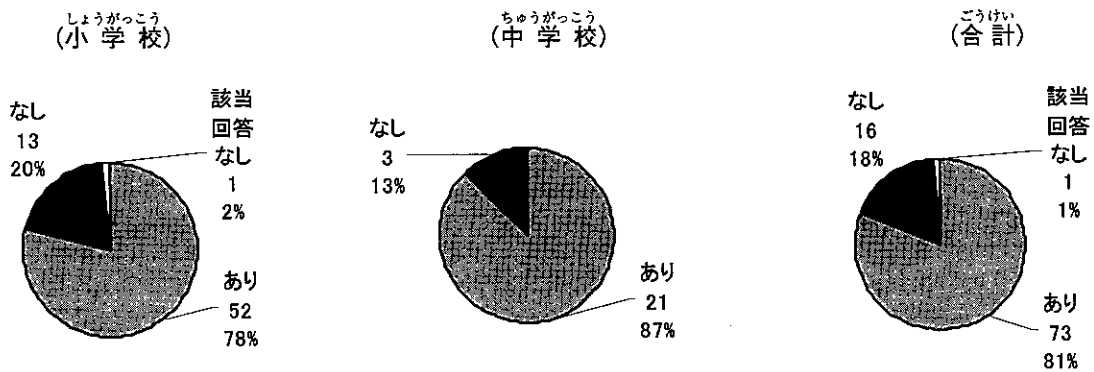


表2-15 学校内外の団体・機関との連携 (複数回答可)

| 連携先 (れんけいさき) | 校数 (こう) | 連携内容 (れんけいないよう) |
|-------------------------------|---------|---|
| 学校のPTA (がっこうのPTA) | 11 | 通訳・翻訳の依頼(3)、外国人保護者へのコミュニケーション促進(2)、外国人児童生徒むけ行事開催、母語教室開催、ふれあい行事開催、外国人保護者の会開催 |
| 町内会・自治会等 (ちやうないかい・じちかいなど) | 4 | 地域の多文化共生に関する話し合い ・(自治会による)日本語指導・情報交換 ・地域の祭りなどの行事への勧誘 ・鶴見区国際交流事業推進委員会の鶴見区国際交流まつり開催など |
| ボランティア団体の日本語教室 (だんたいの日本語教室) | 11 | 日本語指導を依頼、教室の様子を見学に行く、親子の日本語教室の共同開催、学習補助を依頼 |
| ボランティア団体の学習補習教室 (だんたいの学習補習教室) | 12 | (団体が学校内で)長期休業中およびテスト前に学習補習実施、教室へ教科学習補習を依頼、(学校の)夏休み学習教室のサポート依頼、転入生があったときの情報交換、教室の見学と情報交換、受験前に通わせている、大学のサークルの協力 |

第2章 教育委員会・学校調査結果

| | | |
|---|-----------|--|
| <p>がいこくじんだんたい 外国人団体・ ほごきょうしつ 母語教室など</p> | <p>5</p> | <p>ほごきょうしつ べんきょうかい ほごしゃかい 母語教室、勉強会、保護者会、イベント、ワークショップなど、学・習・生活面 での情報収集</p> |
| <p>しちょうそんこくさいこうりゅう 市町村国際交流 きょうかい 協会</p> | <p>14</p> | <p>つうやくほんやくいらい でまえばんかこうざかいざい こうしいらい ほご 通訳翻訳依頼(6)、出前文化講座開催・講師依頼(3)、母語による教科学習支援 (2)、教員向けセミナー・シンポジウム開催(2)、広報協力</p> |
| <p>がいこくじんしえん 外国人支援 NGO</p> | <p>4</p> | <p>だんたい がっこうない ちようききゅうぎょうちゆう (団体が学校内で)長期休業中およびテスト前に学習補習実施、教科 がくしゅう しえんいらい がくしゅうようご ほんやく こくさいりかいきょうりく 学習の支援依頼、学習用語の翻訳、国際理解教育教材の貸出、JFC の子どもと国際教室の子どもの交流</p> |
| <p>こくさいきょうしつたんとうしゃ 国際教室担当者 れんらくかい 連絡会</p> | <p>50</p> | <p>じょうほうこうかん けんしゅう じゅぎょう じっせんけんきゅう きんりんしやうちゅうがっこう しどう うんえいほうほう 情報交換、研修、授業・実践研究、近隣小中学校との指導や運営方法 の研究、日本語指導協力者訪問予定日の調整、各校への配当予算の 執行、日本語指導、通訳ボランティア依頼、大学生ボランティア、NPO等 を依頼、行事の打ち合わせ、児童を中心としたお楽しみ会(親睦会)開催、父母 を対象とした懇談会開催、教材の交換、民族性の理解のための学習会、 なつやす こくさいきょうしつ しどう えんじょ せつめいかい れんらく ちようせい 夏休み国際教室での指導の援助、説明会の連絡・調整 ・鶴見区内の中学校国際教室担当連絡会：情報交換、受け入れのため のパンフレット作成、進路調査、入試制度改善のための活動</p> |
| <p>がっこう 学校</p> | <p>11</p> | <p>ちいさき しやうちゅうがっこう じょうほうこうかん せんしんてき とりく じょうほうしゅうしゅう ・地域の小中学校(情報交換、先進的な取り組みの情報収集) ちいさき こうこう じょうほうこうかん ・地域の高校(情報交換) よこはまこくだいにほんごきょういく にほんごとくべつしどう ほんやくいらい ・横浜国大日本語教育コース(日本語特別指導のボランティア、翻訳依頼、 ほごきょうしつこうし いらい 母語教室講師の依頼) とうきやうがいこくごだいがく がくせい きょうかしどう つうやくなどいらい ・東京外国語大学(ボランティアの学生に教科指導の通訳等依頼) けいおうだいがく だいがくせい にほんご ほしゅうしえん いっぱんがききゅう ・慶応大学(大学生ボランティアの日本語・補習支援、一般学級での こくさいりかいきょうりく じっし いらい 国際理解教育プログラムの実施を依頼) とうきやうがくげいだいがく しどう ・東京学芸大学(指導)</p> |
| <p>しちょうそんきやういっくいんかい 市町村教育委員会</p> | <p>45</p> | <p>にほんごしどう にほんごしどうほうほう しどう にほんごしどうじゆんかいこうし はけん ほんやく 日本語指導、日本語指導方法の指導、日本語指導巡回講師の派遣、翻訳・ つうやくてはい けんしゅうかいざい ほご せいかつ がくしゅうえんじょ けんしゅう れんらく ほご 通訳手配、研修開催、母語での生活・学習援助、研修や連絡、母語 きょうしつかいざい にほんごしどうきょうりくしゃはけん こくさいきょうしつたんとうしゃかいがいざい がっこう 教室開催、日本語指導協力者派遣、国際教室担当者会開催、学校 つうちふんほんやくおんていききょう きやうりくそうだんいんはけん こくさいきょうりくしよくいんけんしゅうかいこうしいらい 通知文翻訳文提供、教育相談員派遣、国際教育職員研修会講師依頼、 ボランティア団体の紹介、編入児童の面接・学校生活説明等、課題のあ じどうおよ ほごしゃ かん れんらく そうだん びひんどう ようせい しどうしりようとう しょうかい る児童及び保護者に関する連絡と相談、備品等の要請、指導資料等の紹介、 じょうほうていききょう しどうほう そうだん 情報提供、指導法の相談</p> |
| <p>そのた その他</p> | <p>7</p> | <p>にほんごしどうきょうりくしゃ ねんど がっき しゅう けいかく しんど つうちひょう ほんやくなど ・日本語指導協力者(年度・学期・週の計画や進捗、通知票の翻訳等) きんりん こうれんらくかい じょうほうこうかん ・近隣4校連絡会(情報交換) にほんごたんとうしゃかい しどう なや ほうほう しゆだん きやうりく ・日本語担当者会(指導の悩み、方法、手段の共有) りやういきべつけんきやうきやうざいがいこくじんせいとりかいきやうりくぶかい た ばんかきやうせいきやうりくぶかい ・領域別研究協議会外国人生徒理解教育部会(→多文化共生教育部会 かいめいよてい つるみく ぜんちゅうがっこう れんけい に改名予定)(鶴見区の全中学校との連携。つるみーていんぐの活動の母体 となる。) ・ブラジルのカポエラ(武闘ダンス)グループ</p> |

(6) 自由記述欄の意見

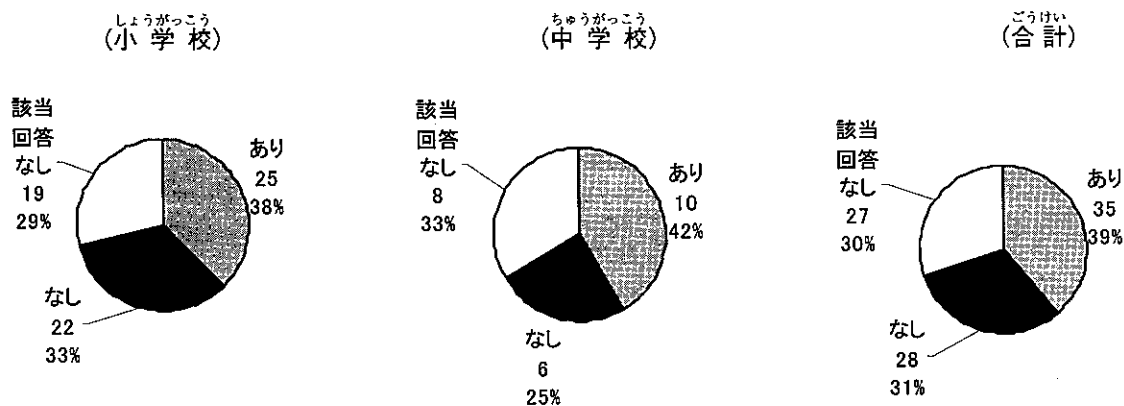
【問10】 これまで【問1】から【問4】の設問で触れた資料以外に、外国児童生徒等の学習環境をよりよくするために、今後、多言語化されるとよいと思う資料はありますか？

今後、多言語化されるとよいと思う資料が「ある」という回答は35件(39%)だった。教育委員会の「ある」22%に対し、現場の要望の方が高い(図2-30/図2-12)。

内容は、教科書や教科の補助教材など教科指導に利用する資料が圧倒的に多く、ダイジェスト版やルビ振りだけでもほしいという切実な要望が目立つ。ほかに、市独自の学校通知文の作成、保健関係の翻訳文書の充実、通信簿等の評価の翻訳等を望む声があった。

内容とは別に、多言語資料をデジタル化し、パソコンで利用したいという意見もあった。

図2-30 資料の多言語化の要望



以下に具体的な回答内容を5つの項目に分けて掲載する。小学校からの回答は「小」、中学校からの回答は「中」と記す。

1) 教科書・教材

- 教科書に対応した翻訳書 (小)
- 各教科の教科書のダイジェスト版の多言語化 (小)
- 教科書を外国児童向けにしたもの(文章はやさしく言い換え、内容は要約したもの。絵や写真は多く残して)が是非ほしいです。教室での教科書を使った授業が大変難しく、一般児童と同じ教科書では、特に高学年では、説明する方も、される方も非常に大変で、苦労が多く、実りが少ない状態です。(小)
- 日本の教科書にある物語文「スイミー」「ごんぎつね」など (小)
- 国語教材の物語のCDかビデオ (小)

第2章 教育委員会・学校調査結果

- ・初歩の算数教材(スペイン語)(小)
- ・算数、漢字、理科、社会(小)
- ・算数の学習用語、社会の学習用語、理科の学習用語(小)
- ・理科・社会の教科書(ふりがなだけでも。)(小)
- ・教科書(小2件、中5件)
- ・「教科書の多言語版」及び「教科書のルビふり版」の出版を強く希望します。(中)
- ・教科書、または参考書がもっとほしい。(中)
- ・各教科の重要語句解説集(中)
- ・中学校の学習用語・用例集(中)
- ・教科書で学習する内容(特に社・理)を、母語で説明してある資料(中)
- ・小学生のための日本語指導テキスト 初級～中級(小)
- ・短期滞在の場合、どうしても母語保持及び母語増加をさせることが必要と思ひ、日本語指導と母語を関連づけて教えています。日本の生活習慣を教材にしながら、それを母語で説明した教材があればと考えています。(小)

2) 進学・就学援助情報

- ・就学援助申請書類の記入の仕方(小)
- ・公立高校入試問題の過去問題5年分(中)
- ・進路に関する説明及び対訳集(中)

3) 学校通知文・日常会話集

- ・他市の「外国籍児童・生徒の手引」を利用しているが、本市と違うところがあるので、できたら作っていただけると助かります。(小)
- ・全市的に配布する手紙など(例：警報発令時の…) (小)
- ・特定の資料というより、①教育用語に関する資料(学習指導を含む)、②保健・医療に関する資料、③就学転学等に関する資料、④学校施設等に関する資料を考えた。単語から表現文例のできる資料(小)
- ・プール指導について、春・夏・冬休み等について、日本の学校生活について(小)
- ・保健に関すること(健康生活に関すること全般。健康診断のやり方、治療勧告。学校事故の時の連絡方法、システム。)(小)
- ・日本の学校生活、日常生活全般に関するガイドブックのようなもの、と同時に、世界各国の学校生活についての資料なども多言語化されるとよいと思う。(小)
- ・学校で使う日常会話や手紙文例(小)
- ・より密なコミュニケーションをとるために、日常会話集があるとよい。(小)
- ・学校で使う用語集などの充実。(小)
- ・市独自の学校通知文や就学援助等にかかわる対訳集(中)
- ・保健調査票・連絡票(中)
- ・日常会話集・用語集(初めて学校にやってきた日のために)(日曜日や日程、必要なもの、具合が悪い、トイレ)

レに行きたい等の言い方(中)

- ・保健関係の資料(日本脳炎の予防接種等)(中)

4) 出身国等の情報

- ・各国の五十音表のようなものがあつたらよい。(小)
- ・日本の学校生活、日常生活全般に関するガイドブックのようなもの、と同時に、世界各国の学校生活についての資料なども多言語化されるとよいと思う。(小)

5) その他

- ・「あゆみ」など家庭に渡す評価の翻訳(小2件)
- ・CD-ROM化されPCで活用できるとよい。(小)
- ・タガログ語資料。(小)
- ・カンボジア語の資料、図書が少ない。(小)
- ・日本語学習の評価の多言語化(親向けの文章の例文サンプルや評価の表記)(小)
- ・二言語、三言語環境に育つ子ども達の言語習得や異文化の中で育つ心の問題について、保護者に知らせる、または共に考えられるような資料。(小)
- ・学校で生活するというよりも、地域で生活するにあたっての指導も必要なので、地域でのきまりごと等の資料が必要。町にはポルトガル語・スペイン語版の「くらしの便利帳」があるので、来日したばかりの生徒には役に立ちそうだ。(中)

【問11】 「学校における多言語情報」や「外国人児童生徒等および保護者とのコミュニケーション」について、ご意見やご要望があれば、自由にお書きください。

通訳、翻訳を依頼できる体制を望む声が多く見られ、中でも、翻訳を依頼できる仕組みが十分でないという指摘が複数見られる。日本語指導協力者の増員、指導時間の増加が望まれている。

タガログ語、タイ語、カンボジア語など東南アジアの言語の資料が足りないという意見、保護者とのコミュニケーションを望みながら、保護者の仕事が忙しく、なかなか話をする機会を持ってないという悩みも多く見られる。

「帰国する児童生徒が必要な書類」「日本語教室・学習支援教室・母語教室の一覧表」「日本にある外国人学校一覧表」など市町村間でさまざまな外国人児童生徒支援情報を共有する必要は認識されているが、情報を共有する際には、資料のホームページ掲載や拠点校への送付が必要との指摘もあった。

以下に具体的な回答内容を8つの項目に分けて掲載する。小学校からの回答は「小」、中学校からの回答は「中」と記す。

1) 通訳・翻訳体制の不足

- ・文書の翻訳作業をスムーズ(短期間・無料)にしてくださる機関が欲しいです。(小)
- ・コミュニケーションに関して、困った問題がある時等、すぐに相談できる所があるとよいと思う。(小)
- ・担当者として一人で教えることには、限界があるので、日本語指導員の指導時間の増加、翻訳費の増加等、予算をとまなうことであるが、お願いしたいと思います。(小)
- ・タイ語、フィリピン語、カンボジア語、中国語、ラオス語、ペルシア語などの翻訳ソフトが欲しい。(小)
- ・通訳の方の必要性を感じています。保護者の方への生活環境の整備等ができる相談員のような方がいられるとよいのですが・・・本市の市民課にはいますが、多忙すぎたり、夜の対応などたいへんそうなので。(小)
- ・日本語指導協力者は、家庭と学校をつなぐ大切なパイプ役としての役割だけでなく、保護者が母国語で児童のことを話せる相手としても重要な役割を果たしている。(小)
- ・現在、横浜市国際交流協会の通訳ボランティアに助けていただけていますが、生徒指導に関する通訳は受け付けてもらえないので、日本語指導協力者を増員し、国際教室のある学校や、来日年数(滞日年数)の長い生徒に対して、巡回指導していただけることを強く望んでいます。(中)
- ・せめて連絡票だけでも翻訳して保護者にわたしたいのですが、日本語指導協力者も、国際交流協会も翻訳は受けていただけないので、困っています。情報不足なのかもしれませんが、公的に翻訳サービスが受けられるようになることを強く望んでいます。(中)
- ・急な生徒指導や学校事情等にも対応できる通訳システムがあるとうれしい。(中)
- ・通訳者の人材バンクをつくってほしい。(中)

2) 特定言語の資料の不足

- ・横浜市国際交流協会からの多言語情報紙「よこはまYokohama」はありがたい。タガログ語もほしい。(小)
- ・タガログ語資料(小)
- ・カンボジア語の資料、図書が少ない。(小)
- ・韓国・南米からの子については用語集などがあり、意思も伝わるが、東南アジアについては、資料・用語集が少ない。(小)
- ・タイ語についての翻訳資料があれば、教えて頂きたいと思っています。(小)

3) 市町村間での情報の共有、発信の方法

- ・本市は、国際教室につく予算はゼロです。市教委からの現地の方に通訳を依頼するしか方法がありません。各市独自の多言語教材もそろそろまとめて、統一されたよりよい物が実践のない他市にも使えるようにしたいと思います。(小)
- ・県や市町村などに外国籍児童に対する取り組みにかなりバラつきがあり、窓口の人によってもずいぶん対応が違うようだ。県が中心になってもっと理解を深めてほしいと思う。このような交流協会方面からの働きかけもとても必要と思われる。藤沢市では昨年からは国際教室設置校連絡会が中心になって、主に進路進学の話を中心にした(外国人)保護者懇談会を始めた。(小)
- ・母国へ帰国していく生徒にとってどんな書類が必要なのか、国ごとの資料があればよい。また、日本語教室や学習支援教室、母語教室の一覧表、又、日本にある外国人のための現地校一覧などがあると都合がよい。ただ郵送やインターネットのみによる調査だと落ちがあるので、各地の市町村交流協会、NGO連絡会議などに連絡を必ずとること。国際交流協会に資料があっても、保存の意味しかない。資料はインターネットで自由に「アクセス番号」を入れて使えないとしようがない。また、集めた資料を各地の拠点校へ送ってほしい。(中)

4) 保護者との連絡がうまくいかない

- ・保護者に日本の学校のことを知らせ、学校、保護者ともに連携しあって子どもを育てていきたい。学校のこと、子どものこと等不安なこと、困ったことなどを話せるようにしていきたい。そのため、保護者との交流をし、気持ちを通わせたいと思っているが、生活上の都合からか、あまり学校に来ない。保護者と共にできる行事があったら教えてほしい。(小)
- ・家庭との連絡をとりたい時に、現在は子供に通訳してもらおうことが多いが、子供では通じきらない場合も多く、どなたに通訳を頼めばいいのか。面談とかではなく、電話で伝えてもらいたいことがある時(例えば通院、予防接種等)、困っている。(小)
- ・ペルーより来日してまもない保護者の方でスペイン語だけを話す方とのコミュニケーションに苦労しています。大和市では相談員さんに随分助けられています。が、国際級担当者も最小限、学校現場で必要なスペイン語を獲得できる研修や教室があればと思います。(小)
- ・交流会や学習参観等を行い、保護者とコミュニケーションをとりたいと思っているが、仕事の関係などで休みがとれず多くの保護者と十分な話し合いがもてない。(小)
- ・地域ごとの外国人児童・生徒の言語別の連絡網などがあればと思います。(小)

第2章 教育委員会・学校調査結果

- ・学校の担任は、ふだん児童が日常会話に支障がなければ、保護者との意思の疎通がはかかれていなくても、あまり問題と感じていないようである。クラスで出す“たより”にちょっとふりがなをつけるだけでも親からの信頼度はぐっと増すが、そこまで手をかける必要性もあまり感じていない様子。教員は忙しいということは承知している。だからこそ、外国人児童・保護者がなぜ日本に来たのか、どんな文化の違いに悩むのか、先生方にもっと知ってほしい。知る機会を与えてほしい。その方策をどうとるか、国際担当として、大変悩んでいる。(小)
- ・生活に精一杯で学校との連絡をとろうとしない保護者の場合、困る。(中)

5) 保護者への要望

- ・外国人保護者の中には、日本の学校の考えに歩み寄ろうと努力している人が多いと思われる。しかし、国民性から私達日本人の学校に対する意識(些細な事で学校を休ませない等)と、多少のずれを感じる。日本で、日本人の信頼を得るために保護者の意識を変えたいと思っている。日本人の学校に対する意識等をまとめた多言語情報が多くの人に伝わるとよい。(小)
- ・もっと日本語を学ぶ必要があるということ認識させる必要があると思う。いつまでも多言語資料・情報にたよってはいは進歩がない。(中)

6) 教育委員会への要望

- ・「きょうからはまっこ」の改訂は早急に進めないと、内容の変更点が多いので現場では使えなくなっている。その際「はまっこふれあいスクール」との名称の混同を避けるために名称の変更もした方がよい。(小)
- ・本市の場合は、外国籍の児童は、国際教室に入ることができるが、日本籍でも外国の児童が増えてきているので、同じにして欲しい。(小)
- ・外国籍生徒の保護者に対する入学(編入学・転入学)時に、市単位で、日本の学校制度等について説明会を行ってほしい。(中)
- ・情報収集のための予算を組んでほしい。教材・書籍などの購入が難しいのが現状です。(中)

7) 子どもたちのこと

- ・子どもたちの心のケアの必要性。親の仕事で来日し、日本の学校へそのまま入学という状況で、子どもたちの心のケアができるカウンセラーの必要性を感じています。(小)
- ・多学年にわたっているため全部の児童が集まることができないため交流の機会をもつことがむずかしいが、学期に一回くらいは何かの会を持ちたいと思っています。(小)
- ・本校の場合、グループで来校するのは入学式当日の一日のみで、(外国人生徒間の)コミュニケーションの機会が少ないので、機会を設定する必要性を痛感している。(中)

8) その他

- ・国際教室への入級、卒級の基準がはっきりしておらず、また、外国人児童生徒教育についてあまり知らない教諭が担当になるケースも多く、児童生徒の学習言語の成熟度も判定できるような客観的な基準が必要だ。(小)
- ・本校の外国人児童について、幼少の頃から日本に在籍している子が多いので、あまり言語に不自由でない実態がある。また、どちらかの親が日本人であるケースが多いので、日本語の文書も理解している状況であるが、低学年の家庭にはできるだけ日本語にルビをふるようにしている。高学年での転入で、両親とも外国人というケースがあれば今以上の対応が必要と感じているが、今の段階ではさし迫った問題ではないように思われる。(小)
- ・保護者への文書の全てにルビをふっていること、重要なお知らせには翻訳文を出し家庭への連絡をきちんと伝えることについては、今後も続けていきたい。(小)
- ・毎月、市国際交流協会から多言語情報紙を1部いただいているが、全員配布すると60名近いので、閲覧できるようにはしているが、実質あまり機能していない。どうしたものか、いつも困っている。(中)
- ・外国人生徒が多くなってきているため、日本人生徒も受け入れがごく自然になってきている。そのためか、転入してくる外国人生徒の意欲や能力によって、すぐに慣れ学習も進んでいくかどうかが大きく影響されると感じる。(中)
- ・学校から本人、家族への情報、連絡等はいずれにも膨大で一つひとつ十分な対応ができていないのが現状です。(中)
- ・初めての担当なので、どのような物をそろえてよいのか？生徒の程度(理解)がすぐれているので、助けられている。(中)
- ・我校の課題として、(1)日本社会、日本の学校における習慣やルール等母国文化、家庭における保護者の価値観との差異を、どのように調整しつつ理解と適応を図っていくか。(2)学習すること、そのものの価値観が、親子と教師間で異なっている場合、国際教室での学習のあり方をどのようにすべきか。(3)生活言語に大きな支障は感じられないが、学習言語の理解が難しく、教科学習への意欲を減退させている面が多く見られる。効果的な指導方法に苦慮しており、何か良い情報がありましたら、お知らせ頂きたいと思います。(中)

第3節 ヒアリング

1. 愛川町教育委員会

日時：2004年12月22日
場所：愛川町役場 教育委員会会議室
対象：愛川町教育開発センター 中村 正さん (指導主事)

【町独自の多言語資料の作成】

本町においては、1991年ごろより外国人児童生徒が急激に増えてきた。どうしても翻訳が必要になり、93年ごろ、はじめは日本語指導協力者に夏休み期間に手書きで翻訳してもらったと聞いている。ポルトガル語とスペイン語で各30文書くらい。それを指導主事がワープロで打ち直した。98年には、学校の仕組みそのものを説明する資料を作成し、99年に予算をつけて、翻訳者に依頼をした。2001年度には、学習指導要領の変更があり、県の高校入試制度の変更も含めて、大幅に改訂をした。「学校生活説明資料」(2002)と「通知文翻訳集」(2003)を発行した後、すでに、制度が変わっているが、全ての変更には対応できない。

学校生活説明資料は、デジタルデータ(MS-Wordファイル)を各学校に配っているため、部分修正はできる。教育委員会で修正するよりもその方が早い。学校通知文の翻訳集も、予防接種をやらなくなるなど、保健関係の通知文の内容が変わったが、こちらはデジタルデータを残せなかったため、作り直す必要がある。

保護者向けの生涯学習の案内や地域生活についての翻訳集はまだないが、部分的に対応するために「生活ガイドブック」を発行した。2002年度から2004年度まで3年間、文部科学省の人権教育指定地域になったことから、その予算で作成した。「生活ガイドブック」は教育委員会をはじめとした役場の各窓口をはじめ、公民館など様々な場所に置いてある。

【日本語指導協力者の活動】

日本語指導協力者等の派遣の回数や期間は以下のとおりである。

- 中津小 県加配教諭2名 日本語指導協力者(町予算)10時間/週(2時間x5日)
外国人児童生徒が70名程(約12%)在籍
中津第二小 加配1名 協力者6時間/週(2時間x3日)
菅原小 加配1名 協力者6時間
愛川東中 加配1名 協力者10時間
愛川中原中 加配1名 協力者6時間

教室は、児童生徒毎に何曜日の何時間目に取り出し授業というように決めている。日本語指導教室

や国際教室には常に子どもがいるような状況である。

日本語指導協力者には、日本語指導に加えて、家庭との連絡等もあらかじめ活動の一つとして明示している。1週間の6時間、10時間の指導時間のほかに、年間に最大48時間(少ないところは8時間)を予算を確保して、個人面談等の通訳やその他の翻訳などを依頼している。

日本語指導協力者をお願いしている人は、外国出身者2名(ポルトガル語+スペイン語+日本語、ポルトガル語+日本語)、日本人3名(家族の都合でスペイン語圏にいたとか、現地で教員をやっていたことのある人など)。探すのは大変である。

【日本語指導協力者や国際教室担当教諭への研修】

年3回、日本語指導学級の担当者会議を開催している。そのいずれかで必ずやっているのは、小・中学校の連携。一人の子をケースとして引き継いだり、情報交換を行っている。また研修なども行っている。最近の例では、人権・同和教育研修講座の部会の一つで国際の課題を扱い参加してもらったりした。

研修会などで出る現場の悩みとしては、保護者との関わり方に関するものが多い。保護者が働く条件などから、休めなかったり、深夜労働であったり、学校に来てもらうのが難しい方もいる。各企業の協力が必要であることなので、なかなか学校だけでは解決ができない。研究指定の1年目には、企業の方に委員に入ってもらい、企業組合を通して催しのチラシを配布してもらうなどをしてもらった。

研修として、卒業した高校生などに話に来てもらうこともあった。高校側にも授業扱いにしてもらっている。交通費程度の謝礼を払っている。卒業後だから言えることを教員や協力者に率直に話してもらうようにしている。卒業生には、学校の国際教室にも来てもらい、外国人児童生徒が先輩の経験を聞く機会もつくっている。ほかに、「交流給食」といって、外国人のお母さんが給食室の職員と協力して、全校給食のおかずの1品を児童生徒出身の国の郷土料理にする試みもあった。外国人保護者に指導する側に回ってもらうのもよい取り組みではないかと考えている。

【外国人児童生徒等への指導方法】

外国人児童生徒等を対象にした指導には、現在のところ、定型がない。児童生徒の転入時のレベル判定もできず、終了のめやすもない。小学校3年生で転入し、6年生に至るまでのようなプロセスで通常の指導と取り出し指導のバランスをとっていくのか。国際教室を10年以上担当しているベテランの教員はいるが、その人の経験をたよりに指導している状況である。障害児学級への入級がさまざまな専門家のチームで検討されるのに比べて、専門家に意見を仰ぐ機会が全くない。外国人児童生徒の指導に関しては、まだ、専門家の間でも定説はないようだが、今回の研修会では、大学院の日本語教育科の先生に来てもらい、子どもたちのレベルチェックや把握のものさしについて、学ぼうと考えている。愛川町の中では、中津小学校が、外国人児童が12%いてケースが多く、教諭もベテランであり、また、学校内の協力体制ができているので、その考え方や仕組みは大いに参考になる。外部に紹介できる存在である。

教員の自主的な研究グループが町にあるのだが、文科省の研究を継続してつなぐ意味で、今年、国際教育研究部がたちあがった。いままでの会議や研修も共催で開催して負担を少なくする工夫

もしている。経験が浅い先生もいるので、今年の研究会のアイデアで中津小の公開授業を見学する機会もつくったりした。研究部の今後に期待している。

【県域で共有したい資料や仕組み】

学校で出す定型的な文書は、デジタルデータとして作成・管理できるとよい。現在、市町村で作成しているものは、その更新がうまくいかないのが課題。市町村でそれぞれ更新しようとするとお金も手間もかかる。ホームページ化も考えるが、ホームページ公開にあたっては、翻訳の誤りや不適切な表現があると困るので、気軽に作成しにくいことと、それを更新しつづけられるかという問題がある。これらを解決できれば、ぜひホームページ化して、誰もが自由にダウンロードできるようにして活用して欲しいと思う。こうしたことを県域レベルでできないものか。

県域レベルでの情報の共有については、県教育委員会、教育センターで会議をたちあげて繰り返しやってみれば、研究員を集められるし、一元化できるのではないかと。市町村によってニーズの違いがあるのが難しいところだが、神奈川県は外国人住民が多い県でもある。まずは、外国人児童生徒が多い市町村だけを集めて会合を始めてもらえると助かる。県が声をかけての市町村の資料の持ち寄り、交換、研究事業化は、市町村にとっては負担感は少ない。また、県レベルであれば、かなり共通の様式化できるはずである。

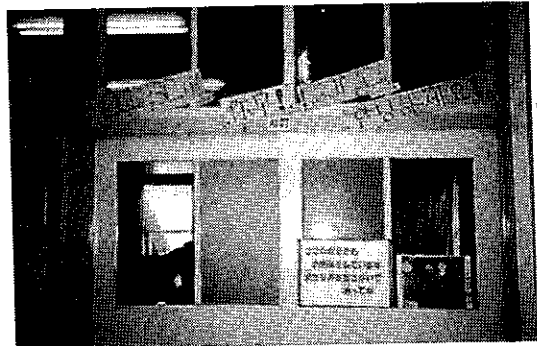
現在は、外国人児童生徒担当の指導主事の交流の機会がない。よその市の出している多言語資料などは、なかなか「ください」とは言いにくいものなので、担当の指導主事が集まる機会があるとよいと思う。年2回研究会が開催されれば、参加できるだろう。

学校の図書費はなかなか厳しいので、母語で書かれた図書を数多く持っている学校は愛川町にはない。なかなか図書購入費を確保できないのが実情であるが、実物が目の前にあると良さもわかり、購入を検討しやすいので、おすすめ多言語図書を段ボール1箱につめて、貸出をすとか、巡回展示などをやってもらえるとおもしろいと思う。

愛川町では、2001年に外国籍児童生徒への支援のニーズやすべての子どもを含めた教育課題を明確にするために、外国人児童5・6年生、中学生、卒業生3学年分を対象にアンケート調査を行い、日本で生活をしていく上で良かったことや不安に思ったことを学校生活を中心に聞いた。回答の選択肢をつくるのが難しく、地域のボランティアの方や日本語指導協力者の方の協力をいただきやっとなんと設定することができた。結果の中で、学校に特に望むこととして、友だち関係の改善が第1位にあげられたことは重大なことであると受けとめている。第2位は、日本人児童生徒への「国際教育の充実」であり、自分たちへの「日本語指導」や「学習指導」を大きく上回った。受入側が変わることが求められていることがわかった。

2. 藤沢市立湘南台小学校・日本語指導教室

日時：2005年1月12日
 場所：藤沢市立湘南台小学校 日本語指導教室
 対象：日本語指導教室担当教諭 今津文美さん
 小山美佳さん
 慶応義塾大学 JUMP 石司えりさん



湘南台小学校・日本語指導教室入り口

【これまでの経緯、教室の概要】

1989年の出入国管理法の改正（1990年施行）により、日系人の労働が認められるようになった。湘南台小学校の近くには、いすゞ自動車の工場があり、日産自動車工場の下請工場もいくつもあることから、日系の南米の人たちが多く住みようになり、ブラジル、ペルー、アルゼンチン等の出身の子どもたちも増えた。1990年6月に藤沢市が日本で初めての日本語指導教室を湘南台小学校につくった。当時の計画では、湘南台小に外国籍の子どもたちを集め、そこで日本語を勉強させようとしたが、近隣の学校に入学、転入するという自然な流れがあり、北部の拠点校として、近くの中学校の子どもたちがここで勉強していた。

そのころから現在まで、日本語指導員（当時は言語相談員）と呼ばれる、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語などを話せる人たちが支援にあたっている。日本語指導員の業務の中には、通訳や翻訳も含まれているが、基本的に、日本語指導教室内で、取り出しの子どもたちに対し、日本語指導と教科の補習を行っている。指導は、「1対1」が基本。主に国語か算数のときに取り出しを行うが、子どもによっては、社会などのときもある。現在、藤沢市の日本語指導員は6名であり、湘南台小には、スペイン語とポルトガル語の1名ずつ2名が巡回で来てくれている。

1990年に日本語指導教室開設を新聞で知った、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の教授から協力の申し出があり、以来、SFCの学生団体 JUMP にも日常的に日本語指導他の協力を仰いでいる。担当教諭2名、日本語指導員、JUMPのメンバーで一人ずつの子どもを見るために、マトリックスをつくっている。JUMPは、近年、本格的に一般学級の中での日本人生徒向けの授業にも関わってくれている。

現在、在籍の31名の外国人児童は南米出身がほとんどだが、中国、ベトナム、タイ、フィリピン、エジプト籍の子どももいる。また、日本語指導教室に来ていない外国籍の子どももいる。どの子ども生活言語に不自由はないが、学習言語の習得には多くの課題がある。

（今津さんは、2001年度より、湘南台小の日本語指導教室担当。小山さんは、2000年度から明治小学校の国際教室の担当をし、今年度の4月からは、湘南台小の日本語指導教室で勤務している。）

【多言語ビデオ】

「Viva」という学校説明ビデオは、慶応大学と JUMP の協力の元、14 年前に作成された。主に小学校での生活や勉強方法を子どもと親に伝えるビデオであり、よその県からも問合せがあって、コピーを送付したりしている。日本語、スペイン語、ポルトガル語の順番に約 20 分ずつ収録されている。スペイン語とポルトガル語は日本語指導員のナレーションが入っている。クイズなどがちりばめられ、子どもが親しみやすい工夫がされている。使い方としては、学校に転入してきた際に、学校で見せたり、家庭へ貸出も行っている。

現在は、JUMP の学生たちが保護者向けの新しいビデオを作成している。今度は、親が学校生活にあたって、どんな手続きをすればいいのか、親の関わり方、学校に持っていく持ち物の説明などを含め、今年度の完成を目指している。スペイン語、ポルトガル語に加え、ベトナム語と中国語も作りたいてい考えている。

【多言語資料・図書】

対訳集は、他の市からほしいと言われることもあるが、1993 年発行で古く、ニーズに合わない。部分的に使うことはあるが、行事の中身や日程は変わってきているので、実際には、必要に迫られて日本語指導員に訳してもらい、学校独自の翻訳資料を作成し、ファイルしている。翻訳をお願いする相手は、いつも、日本語指導員である。

外国人児童生徒が少ない学校にひとりでポツンといる子は、そうした訳文をもらわずに過ごしていることがほとんどである。そのため、どこの学校でも使える翻訳資料を抜粋して冊子にし、配布しようとする委員会や市内に 7 校設置されている国際教室の担当者間で検討している。

スペイン語の場合は、使われている語彙や言い回しが国や地域で異なる上、保護者の言語環境によって、完全に理解されていない場合もあるように思う。

『学校へいこうよ～はじめての日本語・10 日目までのテキスト～』（2003）は、その多くは大和市の資料を参考にさせてもらい作成した。特に、国際教室がない学校で、外国人の子どもが突然学校にくることになり、どうしてよいかわからないときに、利用することを目的にしている。藤沢市の全校へ配布した。10 日間位、このテキストを利用して過ごしてもらえれば、日本語指導員を派遣してもらおう等の対応ができるだろうと考えた。日本語指導教室でも、初期指導に使っている。このテキストは、親が学校の様子を知るのにも役立つようで、保護者に喜ばれている。保護者は、学校で何が行われているか理解できず不安のようなので、保護者向けに教科用語の翻訳集の作成も進めている。『学校へいこうよ～外国籍児童生徒・保護者のための学校の手引き～』は、入学説明会や編入の折に保護者に渡している。

多言語の図書は、教育委員会から日本語指導教室への補助費で購入するほか、関係者が寄贈して、日本語指導教室に置いている。

- (1) 難しい学習ができたときに、気分転換のために読ませる
- (2) 母語を指して「日本語で何というか」たずね、日本語教材として利用
- (3) 休み時間に来て読む
- (4) アルファベットの学習に使う
- (5) 一般学級で国際理解教育としてスペイン語講座等を行うときに利用

など様々な利用をしている。図書購入の際に要望は出しているが、日本人の子ども向けの外国を知る

ための本が優先される傾向がある。

【合同の外国人保護者懇談会】

外国人保護者とのコミュニケーションは、悩みのひとつである。基本的に、昼間は仕事なので夜ではないとダメという保護者が多く、また、日本語ができないから学校に行きたくないという保護者も多い。とはいえ、会合の度に各校で通訳をつけるとコストがかかる。そこで、昨年度より、国際教室がある学校によびかけて、合同の外国人保護者懇談会を年に2回、湘南台文化センターで開催している。昨年度は、学校生活を説明したり、保護者の不安を聞いた。今年度は、入試制度が変わるため、高校進学の方法、就職のことなどをテーマにした。参加者の人数はだんだん増えてきて70名くらいになっている。

懇談会は、保護者に大変好評で、今後も続けてほしいとの声大きい。「学校では『わかった』と言っていたけど、実はわかっていなかったことがわかった」「孤立しないで済む安心感が持てた」「夜に開催してもらえて本当にありがたかった」「子どもたちの行事のたびごとに仕事を休むとクビになってしまうので、順番に参加している。学校からはお金を稼ぐことしか考えない親と思われるので、つらい」「母語が話せてスカッとした」など多くの声がもたらされた。

【JUMPとの連携】

JUMPの協力は、本当にありがたい。「ぼくのお兄さん」「ぼくのお姉さん」という関わりができる。年齢も教諭や指導員に比べて子どもに近く、教師とは違う良さがある。子どもたちは、学習支援を受けるだけでなく、悩みを聞いてもらったり、遊んでもらったりしている。指導についても、新しい教材の提案や、教材開発なども行い、イラストや絵も上手である。一般学級の日本人児童への指導は、担当教諭とJUMPのメンバーとで一緒に授業をつくり、話し合うというプロセスを繰り返している。ビデオの編集も上手で本当に助かっている。

日本語指導教室に来ている子どもたちは、学校でも、学校外でも、自分を認めてもらえる場が少なく思う。だから、教師だけでなく、JUMPのお兄さん、お姉さんを含め、多くの人にほめてもらい、かわいがってもらえることが本人の自尊心につながっている。子どもが「ほめてもらっちゃった」と喜ぶ、そうした機会の意味がとても大きいと思う。また、慶応大学をとおして、外国人児童生徒支援に関する講座を知り、参加できる機会も増えてきた。(担当教諭 今津さん、小山さん)

日本語指導教室に通級している子どもたちが、自分の母語や文化に誇りが持てるように、また、一般学級の日本人の子どもたちに日本語指導教室の存在や来ている子どもたちのことを理解してもらうように、2年前から一般学級での国際理解教育のお手伝いもしている。今年の2学期は、5年生の1クラスで木曜日の5時間目をもって、ペルーの文化、スペイン語、ペルーの私立学校のラ・ウニオン校との交流など計15回を担当した。

JUMPのメンバーにとって、湘南台小への支援はとて学ぶことが多く、いい機会を与えていただいている。子どもたちからは、パワーをもらっている。JUMPの登録者は50名くらいだが、コアでよく教室に来るのは10名くらい。いいことばかりではなく、参加している学生は様々であり、意欲のある学生もいれば、連絡無しで活動を休んでしまう学生もいて、メンバーの意識の統一が図りにく

いのが課題である。現在、4年生が中心になって運営しているので、その後の体制にも不安がある。メンバーには、細くでもいいから継続的に長く続けて通ってほしいと言っている。合同懇談会のお手伝いなどで、他の小学校の国際教室の先生方とも知り合い、自分の学校にも来て欲しいという依頼はよくもらうが、大学からの通いやすさなどが湘南台小と違うので、なかなか実現には至っていない。
(JUMP 石司さん)

【その他】

手が回らないことがたくさんある。入学説明会でも、外国人保護者から、母子手帳が読めない、外国語がわかる医療機関がわからないなどの話ができる。神奈川県国際交流協会の多言語問診票の存在は知っているが、他にどんな多言語情報・多言語資料があるのか、もっと知りたいと思う。

未就学の子どものたちの情報がわからないことを課題に思っている。就学児童名簿に入っているのに、入学して来ない子も多い。就学について、保護者に一層丁寧に情報提供されれば、未就学の子がだいぶ減るのではないかと思う。

湘南台小の日本語指導教室は、センター校の名前はあっても、交通手段の問題があって、国際教室のない学校の外国人児童生徒が通ってくることができない。スクールバスを出すなど、何か、送迎できる仕組みを作れるとよいのだが。そういう学校は、日本語指導員が1週間に1時間巡回する程度の支援しかできない現状である。



日本語指導教室に置いてある図書や資料

3. 平塚市立大野中学校・国際教室

日時：2005年1月12日
場所：平塚市立大野中学校 国際教室
対象：国際教室担当教諭 増田 登さん

【教室の概要】

大野中学校の国際教室は、1998年に開設し、初年度は教室は決まっていな中で、教務主任が担当していた。私はその翌年から担当になり、今年で7年目になる。その他、日本語指導協力者2名（ポルトガル語、中国語）が来てくれている。前任校の横内中学校でも国際教室を担当していた。国際教室に来る生徒は、現在10名。最低でも7人、多いときは18人いた。大野中学校は、近くに工業団地があり、ブラジル国籍の生徒が多く、ほかに、スペイン語圏出身者、中国籍、韓国籍の生徒が在籍していたこともある。小学校から上がってくる子が90%くらいいる。中学2年で転入が来ると、高校に進学したいかどうかを聞き、進学希望の場合は、中1に下げて受け入れを行っている。昨年度から入試制度が変わって、学校推薦がとれなくなったので、外国籍の生徒にとっては厳しくなった。高校進学は全体の半数くらい。在日年数が長いと生徒に進学希望が多い。ブラジル出身の子は、15歳になった時点で退学してしまう子も多い。家族とともに働いて、家族を経済的に助けなければという意識が強い。

新入生の1年生や転入生は、すべて私が面接し、国際教室に来たいかどうかを確認する。「来たい」ということになる、(1)週にどのくらい来るか、(2)どんな教科で取り出してもいいか、を相談して決め、週1回しかない「技術」などの教科では取り出せないことも説明する。緊急時の連絡先のほか、家庭内言語、母語能力、家族の日本語能力、本人の日本語学習状況のレベルを確認する。「個人カルテ」を作成している（別表）。戻ってくることもあるので、カルテは全員分保管している。外国籍でも国際教室に全く来ない子もいる。現在、11名の外国籍の生徒のうち、10名が来ている。小学校では、日本語指導を受けていなかったのに、中学に進学してから、「来たい」という子もいる。中学になると、教科についていくのが、厳しくなるのが本人も分かっているようだ。2年、3年では、来る生徒の数は、だんだん減っていく。

試験の時だけ、国際教室に来る子もいる。国際教室での試験は、ルビ振りつき、国語以外の辞書持ち込み可能、教師への質問可能、5分の時間延長という特典がある。だから、3年生になっても、来る。来る来ないが成績にかかってくるからだ。ルビ振りは、それぞれの教科担当者が行う。

国際教室内では、レベルを見てから日本語指導、教科の初歩の指導、教科の中級の指導を行っているが、日本語の初歩は全部自分が引き受け、教科を別の先生に任せている。1週間に最低2コマは取り出しを行うようにし、うち1コマは、私が必ず持つようにして、子どもの相談ののったり、子どもの状況を見るようにしている。ブラジル出身の子は、5教科の時に取り出しをし、全教科の補習をすることが多い。中国、韓国出身の子は、数学、英語は日本より進んでいるため不要で、教科の補習

は社会や国語が多い。

日本語指導協力者は、中国籍の女性とブラジルと日本の国籍を持っている女性の方が教育委員会より派遣されている。日本語指導、教科指導のフォローのほか、翻訳、三者面談での通訳、母語指導、教育相談などが活動内容である。母語指導は、日本語指導協力者が現地の教科書などをつかって、少し実施している。中国やブラジルの雑誌は、購入し教室に置いてある。雑誌のほか、漫画もおいて、日本人生徒と一緒に休み時間にくつろげる場にしている。外国籍の生徒がいてあたりまえの雰囲気をつくろうと考えている。

【多言語資料とその共有について】

対訳集などは、先進校だった横浜市立潮田中学校や横浜市の中学校からほとんどの資料を取り寄せて、それを日本語指導協力者に依頼して、学校にあわせて修正していった。自動振込の説明書と学校行事関係の説明文は、どこにもなかったのが、新たに作成した。国際教室設置が他校より遅かったので、国際教育の研究会等で会った教員に直接電話して手に入れた資料が多い。前任の横内中学校で国際教室を設置した際には、豊橋市、大泉町等の外国人集住地域の学校に出張に行かせてもらったので、その時にもいろいろ資料を集めた。

更新したり、新たに翻訳資料を作成すると、使えそうな資料は平塚市教育委員会へ送付し、他の学校でも使えるように、国際教室設置校だけでなく、外国人児童生徒がいる学校全部へ配布するよう依頼している。学校通知文の翻訳資料は、本当にほしいのは、事務室の先生や教頭先生かもしれない。大野中の国際教室への他校からの問い合わせも事務職員や教頭からが多い。

たとえば、ブラジルの学校へ転入する手続きの方法などは、ブラジル大使館に聞いても教えてくれないので、どんな書類が必要かなど、すべてよその中学に教えてもらった。証明書などもコピーして発行機関のところだけ、変えて使わせてもらっている。

どこの学校にどんな資料があるか、例としてこんなのがあるという情報がホームページで分かると思う。公表できるものは、PDFでダウンロードできると便利である。その際、本になって流通している資料ではなく、各学校や教育委員会が出した手作りに近いものこそ、実際に則しており、参考になるので、その中から自分の学校に必要な資料を選び出したい。保存がきちんとできること、アクセスしてオープンにできること、所在地がはっきりしていることが大切。そういう情報は、公共機関が発信すれば、信用してもらえる。

ボランティア団体が作成した資料や教材もずいぶん出ているが、教育委員会では集められないので、ぜひ集めて欲しい。たとえ、内容が古くても、古い部分は直せばよい。学校名、連絡先さえわかれば、あとは電話すれば、新しい資料が出ているかもしれないし、他にも資料があるかもしれない。まとめた情報は、定期的に会合で流すと同時に、教育委員会から、各学校に流してもらおうと思う。

【保護者とのコミュニケーション】

保護者とのコミュニケーションについては、まず、簡単な挨拶だけでも、保護者の母語を学習してきた。「こんにちは、マスタです」と母語で話すだけでも、親しみを持ってもらうきっかけにもなる。少し話せるのはスペイン語、ポルトガル語だが、中国語、ラオス語、カンボジア語も習った。「先生、カ

ンボジア語できるの?」「勉強しているんです」と言うだけで、相手に安心感を持ってもらえる。すべて日本語だけで進めるのは無理だと思う。

ほかには、新1年生は必ず家庭訪問をしている。担任の先生の家庭訪問のときについていって、最後に少したけ時間をもらっている。名前と顔を覚えてもらって、国際教室で何をやっているかを説明している。三者面談のときも、終わってから、国際教室に来てもらうようにしている。

国際教室に通ってる生徒が多い時は、学校行事の中で何かをやらうかなという話になる。人数が少ないと難しいが、保護者については子どもと一緒に何かをやらうということはある。保護者は土日も必ずしも休めるわけではないので、催しなどは、下ごしらえなどは手伝いますよと声をかけてくれる。

【地域の教室との連携】

大人に対する日本語ボランティア活動は、実績もあり、ずいぶん進んだように思うが、子どもを対象に日本語ボランティア活動を行っている団体はほとんどない。日本語指導協力者が、市内の子どもたちの状況を一番よく知っているのも、協力者から、日本語学習の機会が十分でなく困っている子どもの相談があると、湘南JRC（湘南地区青少年赤十字の略／増田さんが学校外でボランティアとして主宰している）で受け入れている。湘南JRCでは、基本的に国際教室のない学校に通っている子どもたちに日本語などを教えている。ほかには1団体ある。

悩みなどの相談は、言葉は通じて、大人である日本語指導協力者には言いにくいことも多いので、そういうときには、湘南JRCのボランティアの子どもに関わってもらう。当事者の中学生、高校生が10人くらいいて、各国語できるものがそれぞれいる。夏休みなどは、学校外でボランティアに日本語を毎日見てもらうと、見違えるほどに上達する。学校だけで抱えても無理で、外部との連携が必要である。



おおのちゅうがっこう 国際教室にて
大野中学校の国際教室にて

<資料>

外国人生徒の受け入れ時に増田先生が作成している「個人カルテ」

個人カルテ

| | | | |
|----------|---------|---------|--------|
| 国籍 | 日本国籍取得 | | 19 / / |
| 本名 | クラス | | 男女 |
| 通名 | 生年月日 | 19 / / | (歳) |
| 現住所 | 来日年月日 | | (歳) |
| | 在日予定 | 永住 | 滞在 |
| 家族 | 父 | 勤務先 | tel: |
| | 母 | 勤務先 | tel: |
| 緊急連絡先 | | | |
| 入学経緯過程 | | | |
| 家庭内言語 | | | |
| 家族の日本語能力 | 父 | 会話 | 読み書き |
| | 母 | 会話 | 読み書き |
| 本人の学習状況 | 会話 | | |
| ひらがな五十音 | カタカナ五十音 | 濁音・半濁音 | |
| 拗音「やゆよ」 | 促音「っ」 | は・わ | |
| へ・え | を・お | その他の助詞 | |
| カタカナ表記 | のばす音 | 擬態語・擬音語 | |
| 句読点 | 作文 | | |
| その他日本語 | その他教科 | | |

第3章 だい しょう 提言・考察 ていげん こうさつ



第1節 提言

1. 地域における多言語情報の提供・流通に関わる提言

(提言1) 「多言語情報プラットフォーム(多言語情報流通センター)」を創設することが必要である。

多言語資料の「共有」が大きな課題である。県全域をカバーする「多言語情報プラットフォーム(多言語情報流通センター)」を創設し、市町村や各現場のニーズ調査をふまえて、新たに翻訳すべき文書・資料の「作成計画」と「更新計画」を策定するとともに、多言語情報を継続的に「広報」「情報交換」「編集」し、インターネット上で「流通」させることが必要である。「プラットフォーム」の運営には、行政、国際交流協会、外国人団体を含むNGO/NPO、大学等、多様な層の人材のネットワークが関わることを望ましい。

(提言2) 自治体として「公的機関における多言語サービスに関する指針」をつくることが必要である。

外国籍県民かながわ会議・第1期最終報告(2000年10月)において、「県民に提供する行政情報について、漢字にルビをふる、難しい漢字の使用を避けるなどの内部基準をつくり、外国籍県民にもわかりやすい情報の提供に努める」との提言が出されている。すでに川崎市では、川崎市外国人市民代表者会議の1996年度年次報告・提言を受け、「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」(資料1参照)を作成している。県内の他の自治体においても、多言語サービスの指針づくりが必要である。

(提言3) 本格的な通訳・翻訳者の派遣システムを確立することが必要である。本調査の実施を通じて、通訳・翻訳を依頼できる体制が不足していることが明らかになった。外国人住民の増加傾向が続く中で、自治体は、関係機関やNGOと協力しながら、本格的な通訳・翻訳者の派遣システムを確立することが求められている。その際、豊富な人材の確保という面で、通訳・翻訳者への外国人の積極的な登用を図ることが必要である。

(提言4) 多言語情報の流通・提供にかかわる関係機関の人材育成のための研修が必要である。

多言語サービスの質を維持し向上させるためには、公的機関の人材の育成が不可欠である。公的機関の職員を対象とした研修に、多言語情報の提供・流通というテーマを取り上げるとともに、研修に際しては、多言語情報の作成・流通についてのノウハウを持つ機関や外国人コミュニティと、企画段階から連携することが望まれる。

2. 社会教育施設等における多言語情報の提供・流通にかかわる提言

(提言1) 米国で運営されているクリアリングハウス(該当情報を集中管理、整理、評価、更新し、関連機関への紹介を行う機能を多言語部分で担う機関)が必要である。

本調査で、多言語情報の発行・更新情報が把握しづらい状況にあることを、多くの調査対象機関が指摘している(第1章第2節参照)。米国教育情報システム(ERIC)のクリアリングハウス(該当情報を集中管理、整理、評価、更新し、関連機関への紹介を行う機能を多言語部分で担う機関)に該当する機関が必要である。

クリアリングハウスは、国・県・市町村の各自治体レベルで必要だが、県レベルでは、市町村の担当セクションと連携・協力しながら、多言語情報の収集、整理、提供、及び共通のフォーマット化が可能な資料を作成する機能が求められる。設置にあたっては、長期的な視野を持ち継続的に業務を行う専任の担当者を配置することが望まれる。

(提言2) 生活情報は更新頻度が高いので、多言語生活情報はできるだけデジタル化し、インターネット上で発信することが必要である。

資料のIT化は、品切れ状態の解消、流通コストの削減、情報更新の容易化につながるため、多言語生活情報は可能な限りPDFファイルなどでデジタル化し、インターネット上で公開することが必要である。学校関係の調査でも、「紙」媒体を配ることの困難さが指摘されている。

(提言3) 多言語サービスにかかわるマニュアルの作成が必要である。

公的機関の職員が、その熱意と努力、独自の工夫によって外国人住民への公的サービスを実現させている場合、当該職員の人事異動により、公的サービスの質的低下を招くことがある。外国人住民に対し、属人性をこえて公的サービスを提供するためには、文書化された「外国人対応マニュアル」の作成が必要である。

(提言4) 公的機関が連携をはかり、資源と機能をより有機的に活用しあうことが必要である。

本調査の中で、外国人住民向けの図書コーナーの設置を考えている図書館が、資料収集の点で近隣の国際交流ラウンジとの連携の必要性を訴えている事例が確認されている(第1章第2節参照)。4館種が「スペース」・「資料」・「人材」などの資源と、「集う」・「学ぶ」・「交わる」などの機能をより一層有機的に活用しあい、サービスの質を向上させることが必要である。

(提言5) 多言語情報たげんごじょうほうの作成さくせいにかかわる指針ししんが必要ひつようである。

アンケート調査ちやうさの回答かいとうの中に、「多言語生活情報たげんごせいかつじょうほうの作成さくせいが、単発的たんぱつてき、散發的さんぱつてきで、安易あんいなつぎはぎも多おほかったり、更新こうしんがあまりされなかつたりする場合ばあいが多い」との指摘おほがあった。多言語情報たげんごじょうほうの「作成・発行機関はっこうきかん」と本調査ほんちやうさの対象たいしやうである「情報媒介機関じやうほうばいはいきかん」は、別組織べつそしきである場合ばあいが多いが、多言語情報たげんごじょうほうの作成さくせいにあたっては、多言語情報たげんごじょうほうを最前線さいぜんせんで提供ていきやうする「現場げんば」の視点してんと、多言語情報たげんごじょうほうの直接ちやくせつの利用者りやうしやである外国人住民がいこくじんじゆうみんの視点してんを加えた、「作成さくせいにかかわる指針ししんづくり」が必要ひつようである。

(提言6) 情報ニーズ把握けいぞくてきのための継続的ちやうさな調査ひつようが必要である。

近年きんねん、外国人がいこくじんの生活実態せいかつじつたいに関する調査ちやうさは多数たすう行われているが、情報ニーズじやうほうにしばった調査ちやうさはほとんどないと言ってよい。公的機関職員こうてききかんしよくいんの多言語情報提供たげんごじょうほうていきやうに対する認識たいを深めるとともに、外国人住民がいこくじんじゆうみんに活用かつようされる多言語資料たげんごじりやうを作成さくせいするために、定期的ていきできにニーズ調査ちやうさを行うことが望まれる。

3. 学校における多言語情報の提供・流通に関わる提言

(提言1) 「多言語情報プラットフォーム(多言語情報流通センター)」の創設が必要である。

学校で利用する多言語資料、通知文翻訳集などの「共有」が大きな課題である。県と市町村の教育行政、学校関係者、国際交流協会、外国人団体を含むNGO/NPO、大学等、地域の多様な人材が資源を持ち寄り、情報を共有し、情報を発信していく「多言語情報プラットフォーム(多言語情報流通センター)」の創設が必要である。

(提言2) 多言語資料をデジタル化し、ホームページで発信することが必要である。

通知文翻訳集などは更新頻度が高いため、できるだけデジタル化し、インターネットを通じて発信することが望まれる。ホームページに掲載できれば、多言語情報を必要とする人の手に届きやすい。

(提言3) 多言語資料を作成する際には、「更新計画」をたてる必要がある。

本調査を通じて、更新されないままとなっている多言語資料が多いことが明らかになった。資料を作成する際には、掲載内容の変更が必要かどうかを見極め、更新の時期や体制について、あらかじめ計画をたてることが重要である。

(提言4) 通訳・翻訳システムを充実させる必要がある。

広域で利用できる通訳・翻訳システムを拡充し、周知することが必要である。ラオス語、カンボジア語、タガログ語等、特定言語の資料、通訳者が不足しており、人材養成と通訳・翻訳者への研修が必要である。

(提言5) 国際教室担当教員と日本語指導協力者の研修や情報交換の機会の充実は必要である。

国際教室の担当教員には、外国人児童生徒教育を行うための「専門性」が不可欠であり、人材育成を計画的に進める必要がある。担当教員の専門研修や情報交換の機会の充実は、これまで以上に求められる。また、日本語指導協力者の研修や情報交換の機会の確保も重要である。

(提言6) 教科書の翻訳や多言語教材を共同開発する仕組みが必要である。

教科書や教科の補助教材の多言語化のニーズは高いが、多言語化は進んでいない。国や複数の県が連携して、広域レベルで多言語の教材等を共同開発する仕組みをつくる必要がある。

(提言7) 学校は、多言語資料を含む教育資源を他校と共有する必要がある。また、外国人児童生徒等の学習支援のため、外部機関と連携することが重要である。

広域レベルでの多言語資料の共有は、地域レベルでの学校間等の連携協力力の積み重ねによって実現できる。また、学校だけでは難しくても、外部の団体・機関の協力を得て解決できる問題も少なくない。たとえば、次のような試みが期待されている。

(学校でできること)

- (1) 多言語資料が必要なときは、インターネット(資料5のホームページ参照)で探したり、市町村内の学校、先進校、関係団体などに尋ねてみる。
- (2) 翻訳・通訳が必要なときは、教育委員会、市町村窓口、国際交流協会、地域のボランティア団体などに相談してみる。
- (3) 他の学校でも利用できる多言語資料を作成したら、教育委員会等へ送付し、委員会を通じて市内の学校に配布できると、国際教室が設置されていない学校においても活用できる。
- (4) 学校は、児童生徒や保護者に必要な「多言語生活情報」を確実に手渡せる場である。情報を渡す仲立ちをすることが、児童生徒の学習環境の向上につながる。
- (5) 外国人児童生徒の指導、支援については、学校と、地域の日本語教室、学習補習教室、国際交流協会・ラウンジ、図書館、公民館、大学等とが連携・協力できることは多い。
- (6) 多言語で情報を渡せない場合は、ルビをふり、簡潔・簡単な日本語で表現する、直接会って話すなどの工夫をすることで、受け手の理解は格段に深まる。
- (7) 外国人児童生徒を受け入れるときは、本名と呼称・来年月日・国籍・過去の滞在経験・日本語学習歴・出身国での学習歴・持病やアレルギー・好きな勉強や趣味等を聞き、多角的に子どもの状況を把握し、それを記録する個人カード等を作成するとよい。

(164頁参照)

(9) 参考資料

- (特活) 多文化子ども支援ネット「外国人児童生徒のための受け入れガイダンス」

http://homepage3.nifty.com/tabunka_kodomo_shien/

- 鶴見区中学校領域研究会多文化共生部会発行

「手をつなごう～外国から来た生徒受け入れのための手引き」

横浜市立潮田中学校 tel: 045-521-3535

- かながわ日本語学習マップ(日本語教室、学習補習教室、母語教室の紹介)

<http://www.k-i-a.or.jp/classroom/index.html>

- 国際教室などで使える教材情報

<http://www.k-i-a.or.jp/materials/>

第2節 考察

公的機関における多言語サービスの展開と充実に向けて

わた 渡戸 いちろう 一郎

1. 外国人住民に対する多言語サービスの展開

1980年代後期、ニューカマー外国人(注1)の急増を受けた自治体は、当時の用語で言えば「地域の国際化」施策の一環として、多言語サービスを開始した。具体的には、バブルによる好況を背景に、公共施設、駅、観光地など公共空間における「多言語サイン」の設置、多言語による「生活便利帳」「地図」「広報紙」の刊行などの取り組みが普及していった。これらは英語、中国語、韓国語、朝鮮語を中心とする、文字等で固定された「静的情報」の提供であった(90年代に入ると、日系南米人の急増を受けて、ポルトガル語、スペイン語版なども現れる)。とくに「生活便利帳」や「広報紙」の作成には、一部で外国人住民や日本人ボランティアの参加・協力が試みられ、利用者の視点を踏まえた内容の改善が図られるようになった。

こうした取り組みにやや遅れて、地域レベルの「国際交流」という枠組みで、通訳・翻訳サービスシステムの構築が模索され始める。しかし90年代以降、さらに外国人住民が増え、家族呼び寄せや新たな家族の形成、日本人との国際結婚(そしてニューカマーの出産ブーム)などによって“定住化傾向”が高まり、外国人住民の生活に“厚み”が増してくるにしたがい、通訳・翻訳のニーズは瞬間に「生活関連サービス」の各領域に広がっていく(保育所・幼稚園・学校、社会教育施設、医療保健機関など)。「翻訳」は個別の状況に対応した「静的情報」だが、「通訳」を通じて生み出されるのは、生きた「動的情報」であると言える。

2. “総論”から、個々の“実践”を支える“仕組みづくり”へ

上記のような取り組みが広がった90年代以降、自治体における「多言語サービス」の重要性は繰り返し指摘され、その実効性を高めるための種々の提言が行われてきた。例えば、『開かれた地域社会に向けて— 神奈川に在住する外国人との共生—』(神奈川県自治総合研究センター、2002年3月)では、外国人政策の全般的な課題として「情報伝達」を取り上げ、以下のような改善の方向性をアド・ホックに挙げている。

- できるだけ多様な媒体を使い、外国人が身近に情報に接する機会を増やす。
- 情報の分量を多くせず、基本的な事項を簡潔に記載する、多言語対応だけでなく、平易な日本語版(ルビ付き)を作成する。
- 人を介した情報伝達を行う。
- 外国人からの意見を取り入れる仕組みをつくる。
- 外国人への情報伝達のノウハウを集約・蓄積・分析する部署を設ける。
- 外国語ができる、もしくは外国文化を保持する職員を活用する。
- 関係部局が連携を強化し、「外国人へ情報を伝える必要がある」ことを共通認識とし、必要な研修を行う。

同報告書はさらに、総括的提言として「県のホームページの多言語対応」「多言語放送の

実施「庁内体制の整備」を提言している。また、最近刊行された河原俊昭編『自治体の言語サービス — 多言語社会への扉をひらく — 』（春風社）では、全国各地の言語サービス（注2）の実践が報告されている。これらを見る限り、“総論”としての「多言語サービス」充実の提言の段階は過ぎ去り、今日では、個別現場の“実践”を支援する具体的な仕組みづくりが急務となっていると言えよう。

3. 調査を通じて見えてきたもの

本調査はまさにこうした今日の社会的要請を踏まえて企画された。すなわち、調査を通じて多言語サービス「提供」「流通」の現状を明らかにするだけにとどまらず、その現状の改善方策を具体的に見出すことに最大の眼目が置かれているのである。

調査結果から浮上した全般的な現状は次の通りである。第1に、学校、図書館、公民館ともに「各現場の創意工夫」で個別に「多言語サービスの提供」を図っているが、市町村や学校・施設によって取り組みの差が見られる。これは必ずしも外国人住民の人口規模や比率と相関している訳ではなく、むしろ他の要因が影響しているようである。

第2に、多言語情報の「流通」がシステム化されていない現状のなかで、部分的に市町村間や学校・施設間で情報交換が行われている。例えば、現場で必要な翻訳文書を遠方の自治体や関係者から取り寄せたり、入手あるいは作成した文書をその都度市教委に送付したりして他の学校等の利用に供している事例があったが、多くの場合、個人的な努力の域に留まっているように見える。

第3に、具体的に実践されているのは、多言語サービスのための翻訳文書等の「収集」、「流用」、「模倣」、「編集」、「更新」が圧倒的に多く、独自に「翻訳・作成」が行われることは少ないことである。しかし「収集」に当たっても情報が不足しており、担当教員や職員の個人的な努力やネットワークに依存している面が見られる。なお、一部で取り組まれている「翻訳・作成」には、当然のことながら、翻訳者へのコスト（経費と時間）がかかるが、予算の問題だけでなく、適当な翻訳者の確保に苦勞している様子が見えがえた。

4. まとめ

最も重要なことは、公的機関における多言語サービスの提供を自治体の基本政策にきちんと位置づけることである。言語的マイノリティ住民に対する“恩恵”としての多言語サービスではなく、当然の“権利”としての多言語サービスに転換する必要がある。従来の多言語サービスは自治体の国際化施策の一環として行われてきたが、求められているのは、言語的マイノリティとしての外国人住民が必要な情報にアクセスする“権利”の視点であり、自治体としての指針づくりである。

第2に、「静的な情報」である多言語資料や翻訳集などについては、それらのデータベース化による「共有」こそが当面の最大の課題である、と言える。そこで、少なくとも全県を広域的にカバーする「多言語情報プラットフォーム」を創設し、多言語情報を継続的に「収集」「編集」「提供」し、web上で「流通」させることが求められる。この「プラットフォーム」には、多言語サービスの担当者を配置する必要がある。

「プラットフォーム」では、県市町村や各現場のニーズ調査を踏まえて、新たに翻訳すべき文書

・資料の「作成計画」と「更新計画」が策定されること、そしてこれらの作業に必要な予算が確保されるべきである。また、「プラットフォーム」の運営に当たっては、県市町村や学校の関係者、国際交流協会・ラウンジだけでなく、適宜、外国人団体、NPO、大学などとの「協働」も重要である。地域の多様なリソースパーソンをネットワーク化した、柔軟な運営が求められる。

第3に、翻訳・通訳者の確保についてであるが、外国人住民の増加傾向がつづくなかで、日本の自治体はこの問題に本格的に取り組むべき時期をすでに迎えているのではないかと考える。筆者は20年近く前、オーストラリアのメルボルン市(当時、同市の約3分の1の市民が海外生まれ、23%の市民が非英語圏出身者)を訪れ、市民便利帳“Community Directory”を入手したことがある。それによれば、同市ではすべての市民が公共サービスに十分にアクセスできるようにするため、移民と一般公衆を移民関連の組織や資源に結びつける「エスニック・リソース・ワーカー(多文化資源コーディネーター)」を雇用している。具体的には、7言語の「エスニック・インフォメーション・ワーカー(多言語情報サポーター)」と呼ばれる人々が市内数箇所の図書館で毎週夜間1回ずつ待機して、来所者の情報ニーズや翻訳ニーズに対応しているとのことであった(なお、この英語で書かれた便利帳自体を読めない場合は、各言語ワーカーが月曜の夜に一箇所の図書館でサポートすると、9言語で併記されていた)。

図書館が市民の情報センターの役割を果たしている点にも興味がそそがれたが、日本の場合、現在これに近い役割を果たしているのは自治体の外国人相談コーナーと国際交流ラウンジということになるだろうか。移民国家のオーストラリアと非移民国家の日本を比べることは無謀かもしれないが、日本の自治体でも「エスニック・インフォメーション・ワーカー」の雇用を積極的に検討すべき時代が到来しているのではないかと。

なお、翻訳・通訳サービスの充実と並んで重要なのは、日本語学習(第二言語としての日本語: JSL)の機会の提供であろう。しかし、ここでの課題を超えるので、指摘するのみにとどめておく。

最後に、日本語指導が必要な外国人児童生徒を対象とする国際教室(日本語指導教室)について述べておきたい。第1に、国際教室担当教員の専門性を学校教育の現場のなかできちんと位置づけるべきである。そのためには、教員の研修や情報交換の機会の充実が必要である。現状では外国人児童生徒の受け入れカードも教員の手作りの段階にとどまっている。また、日本語指導協力者の研修や情報交換の機会の確保も重要である。第2に、国際教室では、きめ細かな対応を実現すべく、積極的に外部から大学生などの協力者を受け入れるべきである。第3に、地域には成人の外国人には日本語教室があるが、併せて、子どもにもがくがく(にほんごがくがく)学外における日本語学習や補習の場が必要である。第4に、補助教材の多言語化も課題であるが、外国人児童生徒の多い都道府県の教育委員会が連携して共同製作体制を構築し、文部科学省が財的な援助を行うという形は考えられないだろうか。

注

- (1) 以下では「外国人住民」を広義にとらえ、日本国籍を取得した外国出身者を含めた呼称とする。
- (2) 同書の編者・河原氏によれば、「言語サービス」とは、多言語化だけでなく、わかりやすい日本語と英語の使用、さらに日本語教育と母語保持教育の提供を含むものである。また、「言語サービス」は、具体的・技術的な側面と理念的な側面の2つの定義から成っているとされ

第3章 提言と考察

る。前者は「外国人が理解できる言語を用いて、必要とされる情報を伝達すること」であり、
後者は「在住外国人の母語によるアイデンティティを守り、その文化の発達を支援すると同時
に、日本人との共生社会をつくっていくための言語政策のひとつ」だとされている(同書6～9
頁)。多言語サービスを含む、自治体の言語政策全体を考えるうえで、参考になろう。

社会教育施設等における多言語サービスの展開と充実に向けて

小林 卓

1. 人権としての情報利用・情報サービス

現代社会において、「知る権利」「学習権」「情報へのアクセス権」とは基本的人権の1つである。世界人権宣言や国際人権規約等では、「表現の自由」を保障することがうたわれ、「知る権利」「情報へのアクセス権」は、この「表現の自由」と表裏一体のものとして解釈されている。人権とは、「すべて」の人に保障されるべきものであり、その人の国籍や出身国、民族によってその権利が制限されてはならないものである。また、「国民ではなくても住民」である外国人は自治体のサービスを享受する権利をもつ。ここに自治体や学校教育、社会教育機関が外国人の情報利用をサポートし、情報サービスを提供する意義をみいだすことができる。なお、「母語による情報提供」ということを考えるとき、まだ日本では一般的ではないが、「言語権」「文化(享有)権」といった新しい人権概念も視野にいれていく必要があるだろう。これらの基本事項をまず確認し、以下、本調査の社会教育関係部分のまとめと提言を述べる。

2. 「ニーズ(needs)」と「要求(demand)」・PR

一般的にみるならば、「外国人のニーズがない」ので、多言語生活情報を提供していないという意見が少なからず見られた。これは実際の外国人登録者数、集住度に依拠するものであり、必ずしも全ての自治体で一定以上の多言語サービスを行わなければならないということではないが、ひとつ留意したいのは、ニーズには、潜在的なニーズと顕在的なニーズがあるということである。潜在的なニーズを狭義の「ニーズ(needs)」、顕在的なニーズを「要求(demand)」ということが多いが、「要求(具体的な直接要求、当該機関への声)」がないからといって、「ニーズ」がないとは限らない。実際「要求」がないのは、これらの機関を外国人が知らなかったり、あるいは多言語サービスを行ってもらえるとは思っていなかったり、PRの仕方が不十分だったりしたためであるということも十分考えられる。特に外国人は、出身国の同種施設を持って日本に来ることが多いので、残念ながら自国で図書館や公民館、国際交流協会や国際交流ラウンジの発達が不十分だったり、あるいは存在していなかったりする場合は、「要求そのものを思いつかない」ということもあり得る。望まれも、使われもしないサービスを提供する必要はないが、「要求がない」と言ってしまう前に、一度「本当にニーズはないだろうか」と検討してみる必要がある。(注)

また、このことと、以下の3. にもかかわることであるが、サービスの提供にはPRがポイントになるであろう。「PRが必要」というのは、一般的な言葉としては、よく使われるが、一般論にとどまらず、その内実と手法を模索していく必要がある。

3. まとめ

アンケート調査の各質問への回答（統計部分）に対する分析は1章で行ったので、以下同調査の自由記述欄に関する回答部分と研究会での議論をふまえて、「社会教育機関等における多言語生活情報の提供・流通」をテーマに7項目の提言を行い、まとめをしたい。

①米国で運営されているクリアリングハウス（該当情報を集中管理、整理、評価、更新し、関連機関への紹介を行う機能を多言語部分で担う機関）が必要である。

図書館、ラウンジからの回答の自由記述欄で、こうした機関の必要性が指摘された。また、本調査研究プロジェクトの研究会の中でも、こうした機関設置の必要性が議論された。米国教育情報システム（ERIC）でクリアリングハウスが果たしていたような機能（多言語情報を集中管理、整理、評価、更新し、関連機関への照会も行う機能）を担う機関が求められる。

クリアリングハウスは、全国、県域、市町村の各レベルで必要なものであるが、さしあたり、市町村レベルでは、川崎市の「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」（巻末資料参照）にあるように、担当部署を設けることが第一歩となろう。県域レベルでは、市町村の担当セクションと連携・協力しながら、米国のクリアリングハウスに相当する機関を設置することが必要である。設置にあたっては、長期的な視野を持ち継続的に業務を行う専任の担当者を配置することが望まれる。

②生活情報は更新頻度が高いので、多言語生活情報はできるだけデジタル化し、インターネット上で発信することが必要である。

資料のIT化は、品切れ状態の解消、流通コストの削減、情報更新の容易化につながるため、多言語生活情報は可能なかぎりPDFファイルなどでデジタル化し、インターネット上で公開することが必要である。学校関係の調査でも、「紙」媒体を配ることの困難さが指摘されている。

③多言語サービスにかかわるマニュアルの作成が必要である。

公的機関の職員が、その熱意と努力、独自の工夫によって外国人住民への公的サービスを実現させている場合、当該職員の人事異動により、公的サービスの質的低下を招くことがある。外国人住民に対し、属人性をこえて公的サービスを提供するためには、文書化された「外国人対応マニュアル」の作成が必要である。マニュアルの作成にあたっては、図書館からの調査回答にあった「外国人とのやりとりを記録するノートをつくる」のように、各機関独自の創意工夫を、マニュアルづくりに活かすような配慮が求められる。

④多言語情報^{たげんごじょうほう}の流通^{りゅうつう}・提供^{ていきょう}にかかわる関係機関^{かんけいきかん}の人材育成^{じんざいいくせい}のための研修^{けんしゅう}が必要^{ひつよう}である。

多言語サービスの質^{しつ}を維持^{いじ}し向上^{こうじょう}させるためには、③のマニュアル^{じっせん}を実践^{じつせん}する当該機関^{たげんご}の「人」の育成^{いくせい}が不可欠^{みかけつ}である。社会教育施設等^{しゃかいきょういくせつとう}の職員^{しやくいん}を対象^{たいしやう}とした研修^{けんしゅう}に、多言語情報^{たげんごじょうほう}の提供^{ていきょう}・流通^{りゅうつう}というテーマ^{とりにあ}を取り上げるべき^{けんしゅう}であろう。研修^{けんしゅう}の主催者^{しゅさいしや}は、多言語情報^{たげんごじょうほう}の作成^{さくせい}・流通^{りゅうつう}についてのノウハウ^{のぞ}を持つ機関^{けんとう}との連携^{れんけい}を検討^{けんとう}することが望ましい。併せて、愛川町の事例^{あいかわまち}（第1章3節参照^{だいしやう}）にみられるように、多言語情報^{たげんごじょうほう}の「受け手^{うけて}」としてのみ見なされがちな外国人住^{がいこくじんじゆう}民^{みん}当事者^{とうじしや}の中から、情報^{じょうほう}の提供^{ていきょう}・流通^{りゅうつう}に関わる人材^{じんざい}を育成^{いくせい}するため、外国人コミュニティ^{がいこくじん}との連携^{れんけい}を深める^{ふか}ことが必要^{ひつよう}である。

⑤公的機関^{こうてききかん}が連携^{れんけい}をはかり、資源^{しげん}と機能^{きのう}をより有機的^{ゆうきてき}に活用^{かつよう}しあうことが必要^{ひつよう}である。

本調査^{ほんちやうさ}の中で、外国人住^{がいこくじんじゆう}民^{みん}向けの図書コーナー^{としよ}の設置^{せつち}を考えている図書館^{としよかん}が、資料^{しりやう}収集^{しゆうしゆう}の点^{てん}で近隣^{きんりん}の国際交流^{こくさいこうりゆう}ラウンジ^{らうじ}との連携^{れんけい}の必要性^{ひつようせい}を訴^{うた}えている事例^{じれい}が確認^{かくにん}されている（第1章第2節参照^{だいしやう}）。4館種^{かんとしゆ}が「スペース」・「資料^{しりやう}」・「人材^{じんざい}」などの資源^{しげん}と、「集う^{つど}」・「学ぶ^{まじ}」・「交わる^{まじ}」などの機能^{きのう}をより一層^{いっそう}有機的^{ゆうきてき}に活用^{かつよう}しあひ、サービス^{サービス}の質^{しつ}を向上^{こうじょう}させることが必要^{ひつよう}である。

⑥多言語情報^{たげんごじょうほう}の作成^{さくせい}にかかわる指針^{ししん}が必要^{ひつよう}である。

アンケート調査^{ちやうさ}の回答^{かいとう}の中に、「多言語生活情報^{たげんごせいかつじょうほう}の作成^{さくせい}が、単発的^{たんぱつてき}、散発的^{さんぱつてき}、安易^{あんい}なつぎはぎが多^{おほ}かったり、更新^{こうしん}があまりされなかつたりする場合^{ばあい}が多い」との指摘^{おお}があった。多言語情報^{たげんごじょうほう}の「作成^{さくせい}・発行^{はつこう}機関^{きかん}」と本調査^{ほんちやうさ}の対象^{たいしやう}である「情報^{じょうほう}媒介^{ばい}機関^{きかん}」は、別組織^{べつそしき}である場合^{ばあい}が多いが、多言語情報^{たげんごじょうほう}の作成^{さくせい}にあたっては、多言語情報^{たげんごじょうほう}を最前線^{さいぜんせん}で提供^{ていきょう}する「現場^{げんば}」の視点^{してん}と、多言語情報^{たげんごじょうほう}の直接^{ちやくせつ}の利用者^{りようしや}である外国人住^{がいこくじんじゆう}民^{みん}の視点^{してん}を加^{くわ}えた、「作成^{さくせい}にかかわる指針^{ししん}づくり」が必要^{ひつよう}である。

⑦情報^{じょうほう}ニーズ把握^{はあく}のための継続的^{けいぞくてき}な調査^{ちやうさ}が必要^{ひつよう}である。

本調査^{ほんちやうさ}において、国際交流^{こくさいこうりゆう}ラウンジ^{らうじ}では、すべての回答^{かいとう}館^{かん}が何らかのニーズ把握^{はあく}を行っている^{おこな}と回答^{かいとう}したが、それ以外^{いがい}の機関^{きかん}で「情報^{じょうほう}ニーズの把握^{はあく}に関して方策^{ほうさく}を講じている」と回答^{かいとう}したのは、図書館^{としよかん}で3館^{かん}、公民館^{こうみんかん}で1館^{かん}、国際交流^{こくさいこうりゆう}協^{きやう}会^{かい}で2団体^{だんたい}、という結果^{けつか}となった。近年^{きんねん}、外国人^{がいこくじん}の生活^{せいかつ}実態^{じつたい}に関する調査^{ちやうさ}は多数^{たすう}行^{おこな}われているが、情報^{じょうほう}ニーズに特化^{とっか}した調査^{ちやうさ}は、ほとんどないと言ってよい。公的機関^{こうてききかん}職員^{しやくいん}の多言語情報^{たげんごじょうほう}提供^{ていきょう}に対する認識^{にんしき}を深めるとともに、外国人住^{がいこくじんじゆう}民^{みん}に利用^{りよう}される多言語資料^{たげんごじりやう}を作成^{さくせい}・提供^{ていきょう}するために、定期的^{ていきてき}にニーズ調査^{ちやうさ}を実施^{じっし}することが望まれる^{のぞ}。

(注)国際図書館連盟多文化社会サービス分科会『IFLA 多文化社会図書館サービス』（深井耀子・田口瑛子編訳、多文化サービス・ネットワーク発行、日本図書館協会発売、2002年10月）P.8

第4章 資料集



資料1 川崎市「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」

外国人市民への広報のあり方に関する考え方

1998年4月1日施行
 (1999年4月1日 一部改正)
 (2001年4月1日 一部改正)
 (2002年4月1日 一部改正)

川崎市外国人市民代表者会議の1996年度年次報告・提言を受けて、市は、市民局及び関係部局職員による「川崎市外国人市民広報研究委員会」を設けて外国人市民への広報のあり方について研究しました。その報告に基づいて今後の外国人市民への広報については、次の考え方により行うこととします。

〔基本方針〕

1 外国語による広報の充実

- (1) 市が行う広報のうち、外国人市民に関係がある情報については、できるかぎり多くの外国語で広報すること(以下、「多言語広報」という。)が望まれます。
- (2) 多言語広報が望ましい情報とその優先順位は、表1の基準によるものとします。

表1 多言語広報の優先順位の基準

| | |
|-----|--------------------------------------|
| (1) | 緊急の事態の対応に関する情報(災害、火災、事故、盗難、救急医療等) |
| (2) | 外国人市民の生活・相談に関する情報(国際交流協会の業務案内等) |
| (3) | 外国人市民の義務に関する情報(外国人登録、入管法関係、税制度等) |
| (4) | 保健、福祉、教育に関する情報(乳幼児検診、保育園、就学、識字学級案内等) |
| (5) | 日常生活に関する情報(ごみの処理、公共料金の納付方法等) |
| (6) | 外国人市民の利用の多い施設情報(市民館、保健所、福祉事務所の業務案内等) |

2 多言語広報を行う場合の言語

- (1) 多言語広報を行う場合は次の5言語で行うことを標準とします。
英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、韓国・朝鮮語
- (2) 外国人市民に関わりがある情報の広報資料を日本語のみで作成する場合は、できるかぎり、「ひらがなのルビ」を付けることが望まれます。
- (3) 施設内外の表示・案内、道路案内、交通機関の行き先表示等は、ローマ字を併記することが望まれます。

3 外国人市民向けの多言語広報資料に関する情報の管理等

- (1) 各局・区・委員会等が作成する多言語広報資料に関する情報は、市民局 人権・男女共同参画室(以下、「担当」と略す。)において管理します。
- (2) 担当は、多言語広報資料に関する情報の管理にあたっては、総務局 交流推進課及び財団法人川崎市国際交流協会と相互に連携して行うものとします。
- (3) 各局・区・委員会等は、多言語広報資料を作成しようとするときは、事前に担当に協議するものとします。
- (4) 各局・区・委員会等は、多言語広報資料が完成したときは、担当に報告し、多言語広報資料に関する情報の管理に必要な部数を提出するものとします。

4 外国人市民情報コーナーの設置

外国人市民向けの多言語広報資料及び「ひらがなのルビ」付き広報資料を置くために

表2の施設に「外国人市民情報コーナー」を設置します。

表2 外国人市民情報コーナーを設置する施設

| 区別 | 区役所 | 市民館 | 図書館 | その他 |
|-----|-------|--------|-------|----------|
| 川崎区 | 川崎区役所 | 教育文化会館 | 川崎図書館 | 情報プラザ |
| 幸区 | 幸区役所 | 幸市民館 | 幸図書館 | |
| 中原区 | 中原区役所 | 中原市民館 | 中原図書館 | 国際交流センター |
| 高津区 | 高津区役所 | 高津市民館 | 高津図書館 | |
| 宮前区 | 宮前区役所 | 宮前市民館 | 宮前図書館 | |
| 多摩区 | 多摩区役所 | 多摩市民館 | 多摩図書館 | |
| 麻生区 | 麻生区役所 | 麻生市民館 | 麻生図書館 | |

5 外国人市民情報コーナーへの多言語広報資料の送付

- (1) 各局・区・委員会等は、多言語広報資料を区役所等の外国人市民情報コーナーへ送付するときは、情報プラザに依頼するものとします。ただし、国際交流センターに対しては、各局・区・委員会等が直接送付します。
- (2) 外国人市民情報コーナーを管理する施設が、多言語広報資料（時限的広報資料を除く）の補充、更新等を必要とするときは、直接作成局に依頼するものとします。

6 新たな外国人市民への「外国人のための相談窓口の御案内」の配布

- (1) 新たに市民となった外国人（新規登録、転入登録者）が、川崎市で生活する上で、特に、重要な事項の確認を容易に行うことができるように、多言語で作成した外国人のための相談窓口の御案内「新しく登録された方及び転入された外国人の皆さんへ」を区役所・支所の外国人登録窓口で配布します。
- (2) 外国人のための相談窓口の御案内は、外国人市民が川崎市で生活する上で必要な情報を提供するために外国人登録窓口で配布している「交流手帳」（国際交流協会編、5カ国語版）とともに配布するものとします。

7 外国人市民の意見、要望の把握

外国人市民が、外国語広報資料に関する意見をはじめ、市政に関する意見・要望等を表明することを容易にするために、「市長への手紙」の差し出し封筒等に「ひらがなのルビ」を付けます。

資料2 かながわの外国人登録者数の推移

* 神奈川県国際課ホームページより抜粋

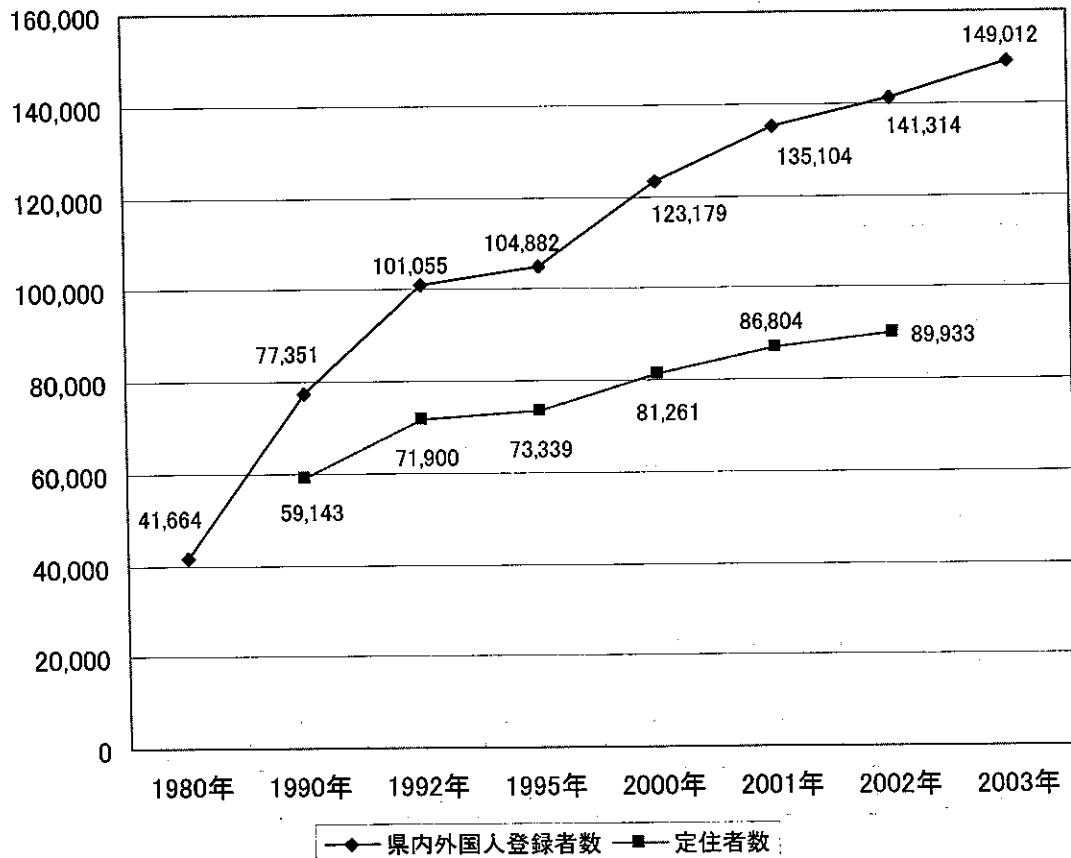
外国籍県民の状況

外国籍県民数(外国人登録者数)は、1992(平成4)年末の約10万1千人から2003(平成15)年末には約14万9千人と、約10年の間に約5万人、約50%の増加となっています。永住・定住などの在留資格を神奈川県内に生活の基盤を有している外国籍県民は、2002(平成14)年末には約9万人となっています。

外国籍県民の増加と定住化が進む中、外国籍の子どもが増加する一方で、在日韓国・朝鮮、中国の人々の高齢化が進んでいます。

図3 県内外国人登録者数及び定住者数

(単位：人)



* 定住者数については、1990年以前のデータはなし、2003年は集計中

資料3 2004年度 神奈川県公立学校外国籍児童・生徒数 (2004.5.1現在)

●神奈川県公立学校の外国籍児童・生徒数

| ひと (人) | しょうがっこう 小学校 | ちゅうがっこう 中学校 | ごうけい 合計 |
|---------------------------------------|-----------------|-----------------|------------|
| アジア地域 中国、韓国・朝鮮、ベトナム、ラオス、カンボジア 等 | 2,635 | 1,212 | 3,847 |
| 北米地域 アメリカ、カナダ | 103 | 29 | 132 |
| 南米地域 ブラジル、アルゼンチン、 ペルー等 | 1,141 | 442 | 1,583 |
| ヨーロッパ地域 | 29 | 7 | 36 |
| その他 | 31 | 8 | 39 |
| 合計 | 3,939 (47ヶ国) | 1,698 (37ヶ国) | 5,637 |

※神奈川県公立学校で日本語教育が必要な外国籍児童生徒数は、1,749名

●外国籍児童生徒が在籍する市町村

| | 市町村数 |
|--------------------------|------|
| 外国籍児童・生徒が小学校、中学校に在籍する市町村 | 28 |
| 外国籍児童が小学校に在籍する市町村 | 4 |
| 外国籍生徒が中学校に在籍する市町村 | 2 |
| 外国籍児童・生徒が在籍していない市町村 | 3 |

資料4 地域における多言語資料 関係団体等 問い合わせ先一覧

1 国際交流協会

| 団体名 | 住所 | 電話番号 |
|----------------|---|-------------------------------|
| (財) 横浜市国際交流協会 | 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協 力センター 5F | 045-222-1171 |
| (財) 川崎市国際交流協会 | 川崎市中原区木月祇園町 237-1 | 044-435-7000 |
| (特活) 横須賀国際交流協会 | 横須賀市日の出町 1-5 ヴェルクよこすか 2階 | 046-827-2166 |
| 平塚市国際交流協会 | 平塚市天沼 7-8 松原分庁 舎※ | 0463-25-2520 |
| 藤沢市都市親善委員会 | 藤沢市朝日町 1-1 ※ | 0466-50-3506 |
| 小田原海外市民交流会 | 小田原市荻窪 300 ※ | 0465-33-1707 |
| 茅ヶ崎市国際交流協会 | 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1 茅ヶ崎市企画部文化推進課気付 | 0467-82-1111 090-9140-1889 |
| 相模原市国際化推進委員会 | 相模原市中央 2-11-15 ※ | 042-769-8202 |
| 三浦市国際交流協会 | 三浦市城山町 1-1 ※ | 046-882-1111 |
| 秦野国際交流懇談会 | 秦野市桜町 1-3-2 ※ | 0463-82-5111 |
| 厚木市友好交流委員会 | 厚木市中町 3-17-17 ※ | 046-225-2050 |
| (財) 大和市国際化協会 | 大和市深見西 8-6-12 | 046-260-5126 |
| 伊勢原市姉妹都市委員会 | 伊勢原市田中 348 ※ | 0463-94-4711 |
| 座間市国際交流協会 | 座間市緑ヶ丘 1-1-1 ※ | 046-252-8307 |
| 南足柄市姉妹都市交流協会 | 南足柄市関本 440 ※ | 0465-73-8018 |
| 葉山町国際交流協会 | 葉山町堀内 2135 ※ | 046-876-1111 |
| さむかわ国際交流協会 | 寒川町宮山 165 寒川町企画部企画課気付 | 0467-74-1111 |
| 大磯町姉妹都市協会 | 大磯町東小磯 183 ※ | 0463-61-4100 |
| 箱根町国際交流協会 | 箱根町湯本 256 ※ | 0460-5-7410 |
| ゆがわら国際交流協会 | 湯河原町土肥 1-7-1 商 工会内 | 0465-63-0111 |
| (財) 神奈川県国際交流協会 | 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1 地球市民かながわプラザ 1階 | 045-896-2626 |

※は、市役所、町役場内に事務局を設置

2 国際交流関係施設

| 施設名 | 住所 | 電話番号 |
|----------------------------------|---------------------------------------|--------------|
| 地球市民かながわプラザ*注 | 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1 | 045-896-2121 |
| かながわ県民活動センター | 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 | 045-312-1121 |
| 横浜国際交流ラウンジ情報コーナー | 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 | 045-222-1209 |
| 青葉国際交流ラウンジ (2005.3.28より右記へ移転) | パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 5F 横浜市青葉区田奈町 76 | 045-989-5266 |
| 港南国際交流ラウンジ | 青葉区区民交流センター内 横浜市港南区上大岡西 1-6-1 | 045-848-0990 |
| 港北国際交流ラウンジ | ゆめおおおかオキスター 13階 横浜市港北区大豆戸町 316-1 | 045-430-5670 |
| 保土ヶ谷区国際交流コーナー | 横浜市保土ヶ谷区岩間町 1-7-15 | 045-337-0012 |
| 川崎市国際交流センター | 川崎市中原区木月祇園町 237-1 | 044-435-7000 |
| 川崎市ふれあい館 | 川崎市川崎区桜本 1-5-6 | 044-276-4800 |
| おだわら国際交流ラウンジ | 小田原市栄町 1-15-19 | 0465-24-7760 |
| さがみはら国際交流ラウンジ | 相模原市鹿沼台 1-9-15 | 042-750-4150 |

*注 地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ) 2階情報フォーラムには次のコーナーがある。

◎多言語資料コーナー：県市町村、NGOが発行する多言語資料約300点を収集

◎「外国人児童生徒教育」教材コーナー：

多言語教材、通知文翻訳集、日本語教材などを収集

3 ホームページ

(財)横浜市国際交流協会 資料コーナー「情報の多言語化にむけて」

<http://www.yoke.city.yokohama.jp/data/index.html>

『多言語情報作成マニュアル』

『多言語標準訳語集(英語)(中国語)(ポルトガル語)(スペイン語)』

『横浜市内で入手できる主な多言語情報一覧』

『災害時に役立つ外国語の表示シート集(横浜版)』ほか

(財)神奈川県国際交流協会

かながわ多言語情報資料リスト <http://www.k-i-a.or.jp/tagengo/tagengo.html>

多言語医療問診票 <http://www.k-i-a.or.jp/medical/index.html>

多言語情報リンク集 <http://www.k-i-a.or.jp/tagengo-link/index.html>

第4章 資料集

かながわけんけんみんぶこくさいか
神奈川県民部国際課

たげんごせいかつじょうほうていきょう
多言語による生活情報提供 <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/tagengo.htm>

ざいじちたいこくさいかきょうかい
(財)自治体国際化協会

たげんごせいかつじょうほう
多言語生活情報 <http://www.clair.or.jp/tagengo/index.html>

資料5 学校における多言語資料 発行者等 問い合わせ先一覧

1 教育委員会

| 機関名 | 電話番号 |
|-------------------------|--------------|
| 神奈川県教育委員会 義務教育課 | 045-210-1111 |
| 神奈川県総合教育センター カリキュラムセンター | 0466-81-0188 |
| 横浜市教育委員会 学校教育課 | 045-671-3588 |
| 川崎市教育委員会 学校教育部指導課 | 044-200-3243 |
| 川崎市総合教育センター | 044-844-3600 |
| 横須賀市教育委員会 生涯学習部学校教育課 | 046-822-8479 |
| 平塚市教育委員会 学校教育部指導室 | 0463-35-8120 |
| 鎌倉市教育委員会 学校教育課 | 0467-23-3000 |
| 藤沢市教育委員会 学校教育課 | 0466-25-1111 |
| 小田原市教育委員会 学校教育課 | 0465-33-1685 |
| 茅ヶ崎市教育委員会 教育指導課 | 0467-82-1111 |
| 逗子市教育委員会 学校教育課 | 046-873-1111 |
| 相模原市教育委員会 学校教育部指導課 | 042-769-8284 |
| 三浦市教育委員会 学校教育課 | 046-882-1111 |
| 秦野市教育委員会 教育総務部指導室 | 0463-84-2786 |
| 秦野市教育委員会 教育研究所 | 0463-81-2125 |
| 厚木市教育委員会 学校教育課 | 046-225-2661 |
| 大和市教育委員会 教育総務部指導室 | 046-260-5210 |
| 伊勢原市教育委員会 学校教育課 | 0463-94-4711 |
| 海老名市教育委員会 教育総務部学校教育課 | 046-231-2111 |
| 海老名市教育センター | 046-233-7771 |
| 座間市教育委員会 学校教育課 | 046-252-8739 |
| 南足柄市教育委員会 学校教育課 | 0465-73-8037 |
| 綾瀬市教育委員会 学校教育課 | 0467-70-5654 |
| 葉山町教育委員会 学校教育課 | 046-876-1111 |
| 寒川町教育委員会 学校教育課 | 0467-74-1111 |
| 大磯町教育委員会 学校教育課 | 0463-61-4100 |
| 二宮町教育委員会 教育総務課 | 0463-71-3311 |
| 中井町教育委員会 教育課 | 0465-81-3906 |
| 大井町教育委員会 生涯学習課 | 0465-85-5016 |
| 松田町教育委員会 教育課 | 0465-83-7023 |
| 山北町教育委員会 教育総務課 | 0465-75-3650 |
| 開成町教育委員会 教育総務課 | 0465-84-0324 |

| | | |
|-----------|----------|--------------|
| 箱根町教育委員会 | 学校教育課 | 0460-5-7600 |
| 真鶴町教育委員会 | 教育総務課 | 0465-68-1131 |
| 湯河原町教育委員会 | 学校教育課 | 0465-63-2111 |
| 愛川町教育委員会 | 教育開発センター | 046-285-2111 |
| 清川村教育委員会 | 学校教育係 | 046-288-1215 |
| 城山町教育委員会 | 教育総務課 | 042-783-8184 |
| 津久井町教育委員会 | 教育総務課 | 042-784-1141 |
| 相模湖町教育委員会 | 教育総務課 | 0426-84-2377 |
| 藤野町教育委員会 | 教育総務課 | 0426-87-5516 |

2 学校

| 学校名 | 電話番号 |
|--------------|------------------------|
| 横浜市立生麦中学校 | 045-581-3255 |
| 横浜市立潮田中学校 | 045-521-3535 |
| 横浜市立いちちょう小学校 | 045-803-1664 |
| 相模原市立相模台小学校 | 042-744-1439 |
| 藤沢市立湘南台小学校 | 0466-44-3790* |
| 日本語指導教室 | ほうかご たいおうか *放課後に対応可 |
| 平塚市立大野中学校 | 0463-55-1568 |

3 その他の団体

| 団体名 | 電話番号 |
|------------------------------|--------------|
| 多文化共生教育ネットワークかながわ | 045-942-5202 |
| (財)横浜市国際交流協会 | 045-222-1171 |
| (財)大和市国際化協会 | 046-260-5126 |
| 綾瀬市男女共同社会課 (2005年4月～課名変更の予定) | 0467-77-1111 |
| 中国帰国者定着促進センター 教務科 | 04-2993-1660 |
| 中国残留孤児援護基金 | 03-3501-1050 |

4 ホームページ

かわさきしごうごうきょういく しょうがっこう さんすう かこく ごたいやくしゅう
川崎市総合教育センター「小学校の算数 6ヶ国語対訳集」日・中・韓・タガ・ス・ポ・英
<http://www.keins.city.kawasaki.jp/syuppan/taiyaku/taiyaku.htm>

さがみはらしりつさがみだいしょうがっこう にほんごばん えいごばん
相模原市立相模台小学校「School Guide」日本語版 英語版
<http://www.sagamihara-sagamidai-e.ed.jp/>

おおさかふきょういくいいんかい きこく とにちじどうせいとがっこうせいかつ じょうほう
大阪府教育委員会「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート情報」日・中・韓・ベト・ポ
<http://www.pref.osaka.jp/kyoishinko/jidoseito/shugaku/index.html>

ひょうごけんきょういくいいんかい がっこうせいかつ
兵庫県教育委員会「学校生活ガイド」日・中・韓・ベト・ス・ポ・英
<http://www.hyogo-c.ed.jp/kenshusho/lib/schoollife/>

とよはししきょういくいいんかい がいこくじんじどうせいときょういくしりょう
豊橋市教育委員会「外国人児童生徒教育資料」ポ・ス
<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/index.htm>

こまきしがいこくじんじどうせいときょういくれんらくきょうぎかい ほんやくぶんしょ
小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会「翻訳文書」日・ス・ポ（一部 中・英）
<http://www.k-komeno-e.ed.jp/gaikoku/index.HTM>

しずおかけんきょういくいいんかいせいぶきょういくじむしょ しよるいはんやく
静岡県教育委員会西部教育事務所「書類翻訳（WAPOS ファイル）」日・ス・ポ
<http://www.shizuoka-c.ed.jp/seibu/gakkyou/wapos/wapos.htm>

ながのけんきょういくいいんかい がいこくせきとうじどうせいと しどうしりょう
長野県教育委員会「外国籍等児童生徒の指導資料」日・中・ポ・英
<http://www.nagano-c.ed.jp/kenkyoi/jouhou/minatomo/minatomo.htm>

すずかしきょういくいいんかい ご ポルトガル ごしどうしりょう ほけんかんけい
鈴鹿市教育委員会「スペイン語・ポルトガル語指導資料（保健関係）」
<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/shido/>

いばらきけんかしまぐんかみすちょうりつかるのひがししょうがっこう
茨城県鹿島郡神栖町立軽野東小学校「ダウンロードコーナー」タガ・ポ
<http://www.sopia.or.jp/higashi/index.htm>

しずおかけんおがさぐんおがさちょうりつがくようちゅうがっこう がっこうぶんしょしゅう ご
静岡県小笠郡小笠町立岳洋中学校「学校文書集（ポルトガル語）」
<http://www.shizuoka-c.ed.jp/ogasa-gakuyo-j/>

よっかいちしりつきょうはくちゅうがっこうさくせい らいにちがいこくじんせいとようきょうかしどう ご
四日市市立橋北中学校作成「来日外国人生徒用教科指導テキスト（ポルトガル語）」
http://www.miesc.ne.jp/e-center/portugese_text.html

Justsystem & School こうむぶんしょ ごばん
Justsystem & School「校務文書（ポルトガル語版）」
<http://www.justsystem.co.jp/school/index.html>

たげんごせいかつじょうほう ていきょう りゅうつう
多言語生活情報の提供・流通
げんじょう
～その現 状とこれから～

はっこう ざいだんほうじん かながわけんこくさいこうりゅうきょうかい
■発行 財団法人 神奈川県国際交 流協 会■

といあわ きかくじょうほうか
■問合せ 企画情報課■

TEL 045-896-2896

FAX 045-896-2945

e-mail kikaku@k-i-a.or.jp

■ 2005.3 だい すり 第 2 刷 ■

はんか えん
■頒価 800 円■

ふくせいげんきん
複製厳禁

